SONY Compact Desktop Series

SONY

3-866-380-**01** (1)

パーソナル コンピューター

取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。

⚠警告 電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。**この取扱説明書をよくお読みのうえ、**製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

VAIO

Compact Desktop Series

© 1999 by Sony Corporation

⚠警告 安全のために

ソニー製品は安全に十分配慮して設計されています。しかし、電気製品はまちがった使い方をすると、火災や感電などにより人身事故につながることがあり危険です。事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

安全のための注意事項を守る

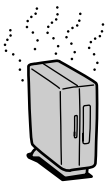
6〜11ページの注意事項をよくお読みください。製品全般の注意事項が記載されています。

故障したら使わない

すぐにVAIOテクニカルレスポンスセンター修理窓口、または販売店にご連絡ください。

万一異常が起きたら

- **煙が出たら**
- **異常な音、においがしたら**
- **内部に水、異物が入ったら**
- **製品を落としたり、キャビネットを破損したとき**



❶ 電源を切る

❷ 電源コードや接続ケーブルを抜く

❸ VAIOテクニカルレスポンスセンター修理窓口、または販売店に連絡する

データはバックアップをとる

ハードディスク内の記録内容は、定期的にバックアップをとって保存してください。ハードディスクにトラブルが生じて、記録内容の修復が不可能になった場合、当社は一切その責任を負いません。

警告表示の意味

取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠警告

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電などにより死亡や大けがなどの人身事故につながることがあります。

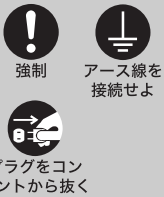
⚠注意

この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の物品に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号

行為を禁止する記号

行為を指示する記号



電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

漏洩電流自主規制について

この装置の本体およびディスプレイは、それぞれ社団法人日本電子工業振興協会のパソコン基準（PC-11-1988）に適合しております。

瞬時電圧低下について

本装置は、落雷等による電源の瞬時電圧低下に対し不都合が生じることがあります。電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置等を使用されることをお薦めします。

（社団法人日本電子工業振興協会のパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策ガイドラインに基づく表示）

レーザー安全基準について

この装置には、レーザーに関する安全基準（JIS・C-6802）クラス1適合のCD-ROMドライブが搭載されています。

□ 権利者の許諾を得ることなく、本機に付属のソフトウェアおよび取扱説明書の内容の全部または一部を複製すること、およびソフトウェアを賃貸することは、著作権法上禁止されております。
□ 本機、および本機に付属のソフトウェアを使用したことによって生じた損害、逸失利益、および第三者からのいかなる請求等につきましても、当社は、一切その責任を負いかねます。
□ 本機の保証条件は、同梱の当社所定の保証書の規定をご参照ください。
□ 本機に付属のソフトウェアは、本機以外には使用できません。
□ 本機、および本機に付属のソフトウェアの仕様は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご容赦ください。

目次

⚠警告・⚠注意 6
モデルの構成 12
こんなことができます 13
マニュアルの使いかた 16
オンラインマニュアルの使いかた 17
各部の名称と働き 19

操作編

基本的な使いかた

電源を入れる 26
　電源を切る 27
　再起動する 28
マウスを使う 29
キーボードを使う 32
文字を入力する 37
　日本語入力を準備する 37
　入力のしかたを選ぶ 39
　文字を入力する 40
CD-ROMを使う 46
　ディスクを入れる 46
　使用できるディスク 49
フロッピーディスクを使う 50
　フロッピーディスクを入れる 50
　データを書き込み禁止にする 52
　初期化について 52
　使用できるフロッピーディスク 53
メモリースティックを使う 54
　メモリースティックを入れる 54
　データを書き込み禁止にする 56

VAIOを使いこなす

インターネットを楽しむ 57
　インターネットとは 57
　インターネットを始める 58
　インターネットに接続する 60
　HTML文書を作成する 62
好みのソフトウェアを自動的に起動する（PPKの使いかた） 63
　PPK（プログラマブルパワーキー）とは 63
　ワンタッチでソフトウェアを起動する（PPKの基本操作） 65
　ワンタッチで起動するソフトウェアを変更する（PPKの応用操作1） 66
　ワンタッチで電子メールを確認する（PPKの応用操作2） 67
　内蔵タイマーでソフトウェアを起動する（内蔵タイマー設定の基本操作） 70
　内蔵タイマーで自動的に電子メールを確認する（内蔵タイマー設定の応用操作） 72
　PPK Setupソフトウェアの制限事項について 75
静止画を取り込む 76
　メモリースティックを使う 76
　i.LINK対応機器から静止画を取り込む 78
　静止画を電子メールで送る 79
動画を取り込む 81
　i.LINK対応機器から動画を取り込む 81
　動画を電子メールで送る 82
音楽CD／ビデオCDを再生する 83
いろいろなソフトウェアを使う 84

拡張編

周辺機器を接続する

AV機器をつなぐ 86
プリンターをつなぐ 88
USB機器をつなぐ 89

本体を拡張する

拡張ボードを増設する 90
　拡張ボードの種類 90
　プラグアンドプレイについて 90
　リソースについて 91
　拡張ボード取り付けの流れ..... 92
　拡張ボードを取り付ける 93
PCカードを使う 96
　PCカードとは 96
　PCカードを取り付ける 97
メモリーを増設する 99
　メモリーモジュールを取り付ける 99

セットアップ編

BIOSセットアップメニューを使う

BIOSセットアップメニューの概要 106
　BIOSセットアップとは 106
　BIOSセットアップメニューを起動する 106
　BIOSセットアップメニューの構成 107
　BIOSセットアップメニューでのキー操作 109
BIOSをお買い上げ時の設定に戻す 110

内蔵モデムを設定する

ダイヤル方法を設定する 111
内蔵モデムの設定を確認する 112
ダイヤルの設定を確認する 113

操作環境を自分の好みに合わせる

コントロールパネルとは..... 116
ディスプレイの設定を変更する 117
アクティブデスクトップをWindows 98のデスクトップ画面からはずす 130
音質の設定を変更する 131

その他

使用上のご注意 134
お手入れ..... 138
保証書とアフターサービス 140
主な仕様..... 142
リカバリ CDで本機を再セットアップする 145
キーボードショートカット 147
電話回線のコンセントの種類 148
故障かな？と思ったら 149
索引 154

⚠警告

火災　感電

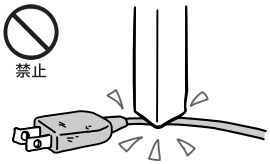
下記の注意事項を守らないと火災・感電などにより死亡や大けがの原因となります。

電源コードを傷つけない

電源コードを傷つけると、火災や感電の原因となることがあります。

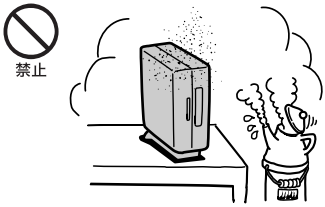
- 設置時に、製品と壁やラック（棚）などの間に、はさみ込んだりしない。
- 電源コードを加工したり、傷つけたりしない。
- 重いものをのせたり、引っ張ったりしない。
- 熱器具に近づけたり、加熱したりしない。
- 電源コードを抜くときは、必ずプラグを持って抜く。

万一、電源コードが傷んだら、VAIOテクニカルレスポンスセンター修理窓口、または販売店に交換をご依頼ください。



油煙、湯気、湿気、ほこりの多い場所には設置しない

上記のような場所に設置すると、火災や感電の原因となることがあります。取扱説明書に記されている使用条件以外の環境での使用は、火災や感電の原因となることがあります。



内部に水や異物を入れない

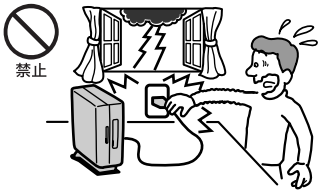
水や異物が入ると火災や感電の原因となることがあります。万一、水や異物が入ったときは、すぐに電源を切り、電源コードや接続コードを抜いて、VAIOテクニカルレスポンスセンター修理窓口、または販売店にご相談ください。

むやみに内部を開けない

- 内部には電圧の高い部分があり、ケースやフロントカバーをむやみに開けたり改造したりすると、火災や感電の原因となることがあります。内部の点検、修理はVAIOテクニカルレスポンスセンター修理窓口、または販売店にご依頼ください。
- 各種の拡張ボード（基板）を取り付けたりメモリーを増設する場合など、コンピューターの内部を開ける必要があるときは、取扱説明書の周辺機器の拡張のページで指定された方法に従い、部品や基板などの角で手や指にけがをしないように注意深く作業してください。また、指定されている部分以外には触れないでください。指定以外の部分にむやみに触れると、火災や感電の原因となることがあります。

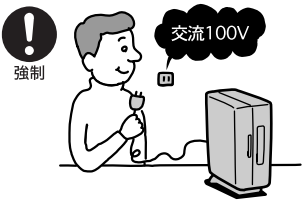
雷が鳴り出したらアンテナ線や電源プラグに触らない

感電の原因になります。



本機は日本国内専用です

交流100Vでお使いください。
海外などで、異なる電圧で使うと、火災や感電の原因となることがあります。



内蔵モデムを一般回線以外の電話回線に接続しない

本機の内蔵モデムをISDN（デジタル）対応公衆電話のデジタル側のジャックや、構内交換機（PBX）へ接続すると、モデムに必要以上の電流が流れ、故障や発熱、火災の原因となります。特に、ホームテレホンやビジネスホン用の回線などには、絶対に接続しないでください。

⚠警告 **下記の注意事項を守らないと、**
健康を害するおそれがあります。

ディスプレイを長時間継続して見ない

ディスプレイなどの画面を長時間継続して見続けると、目が疲れたり、視力が低下するおそれがあります。
ディスプレイ画面を見続けて体の一部に不快感や痛みを感じたときは、すぐに本機の使用をやめて休息してください。万一、休息しても不快感や痛みがとれないときは医師の診察を受けてください。

キーボードを使いすぎない

キーボードやマウスなどを長時間継続して使用すると、腕や手首が痛くなったりすることがあります。
キーボードやマウスなどを使用中、体の一部に不快感や痛みを感じたときは、すぐに本機の使用をやめて休息してください。万一、休息しても不快感や痛みがとれないときは医師の診察を受けてください。

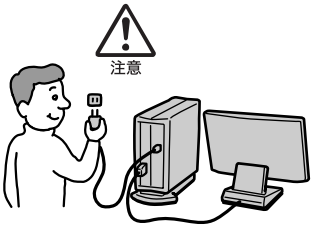
⚠注意 **下記の注意事項を守らないと<u>けが</u>をしたり周辺の<u>物品</u>に<u>損害</u>を与えたりすることがあります。**

ぬれた手で電源プラグをさわらない

ぬれた手で電源プラグを抜き差しすると、感電の原因となることがあります。

接続の際は電源を切る

電源コードや接続コードを接続するときは、本機や接続する機器の電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてください。感電や故障の原因となることがあります。



指定された電源コードや接続コードを使う

取扱説明書に記されている電源コードや接続コードを使わないと、感電や故障の原因となることがあります。

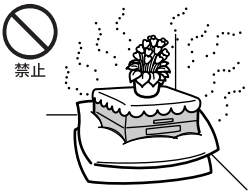
安全アースを接続する

安全アースを接続しないと感電の原因となることがあります。安全アースを取り付けることができない場合は、販売店にご相談ください。

通風孔をふさがない

通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災や故障の原因となることがあります。風通しを良くするために次の項目をお守りください。

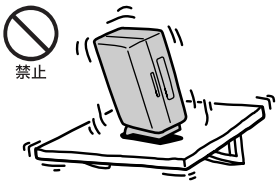
- 壁から10cm以上離して設置する。
- 密閉されたせまい場所に押し込めない。
- 毛足の長い敷物（じゅうたんや布団など）の上に設置しない。
- 布などで包まない。
- あお向けや逆さまにしない。
- 本機を縦置きにするときは、付属の縦置きスタンドを使用する。



⚠注意 下記の注意事項を守らないと**けが**をしたり周辺の**物品**に**損害**を与えたりすることがあります。

不安定な場所に設置しない

ぐらついた台の上や傾いたところに設置すると、倒れたり落ちたりしてけがの原因となることがあります。また、設置・取り付け場所の強度も充分にお確かめください。



運搬時は慎重に

コンピューターを運搬するときは、底面全体を保持し、安定した姿勢で運んでください。前面および後面パネル部分に手をかけて持たないでください。運搬中にバランスを崩すと落下によりけがの原因となることがあります。また、本体と設置面との間に指を挟まないようにご注意ください。

製品の上に乗らない、重い物を乗せない

倒れたり、落ちたり、壊れたりして、けがの原因となることがあります。

お手入れの際は電源を切ってプラグを抜く

電源を接続したままお手入れをすると、感電の原因となることがあります。

移動させる時は電源コードや接続コードを抜く

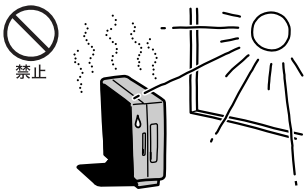
接続したまま移動させると、コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。

コネクターはきちんと接続する

- コネクター（接続端子）の内部に金属片を入れないでください。ピンとピンがショート（短絡）して、火災や故障の原因となることがあります。
- コネクターはまっすぐに差し込んで接続してください。斜めに差し込むとピンとピンがショートして、火災や故障の原因となることがあります。
- コネクターに固定用のスプリングやネジがある場合は、それらで確実に固定してください。接続不良が防げます。
- アース線のあるコネクターには必ずアースを接続してください。

直射日光の当たる場所や熱器具近くに設置・保管しない

内部の温度が上がり、火災や故障の原因となります。



大音量で長時間つづけて聞きすぎない

耳を刺激するような大きな音量で長時間つづけて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。特にヘッドホンで聞くときはご注意ください。呼びかけられて返事ができるくらいの音量で聞きましょう。

モデルの構成

この取扱説明書は、ソニーコンパクトデスクトップシリーズパーソナルコンピューターについて記載しています。
お買い上げいただいたモデルがどちらかによって、以下の点が異なります。

PCV-L300以外には、i.LINKコネクターが付いています
PCV-L300以外には後面にi.LINKコネクター（6ピン）が2つ、前面にi.LINKコネクター（4ピン）が1つ付いており、i.LINK対応のデジタルビデオカメラレコーダーなどを接続して動画や静止画を取り込むことができます。

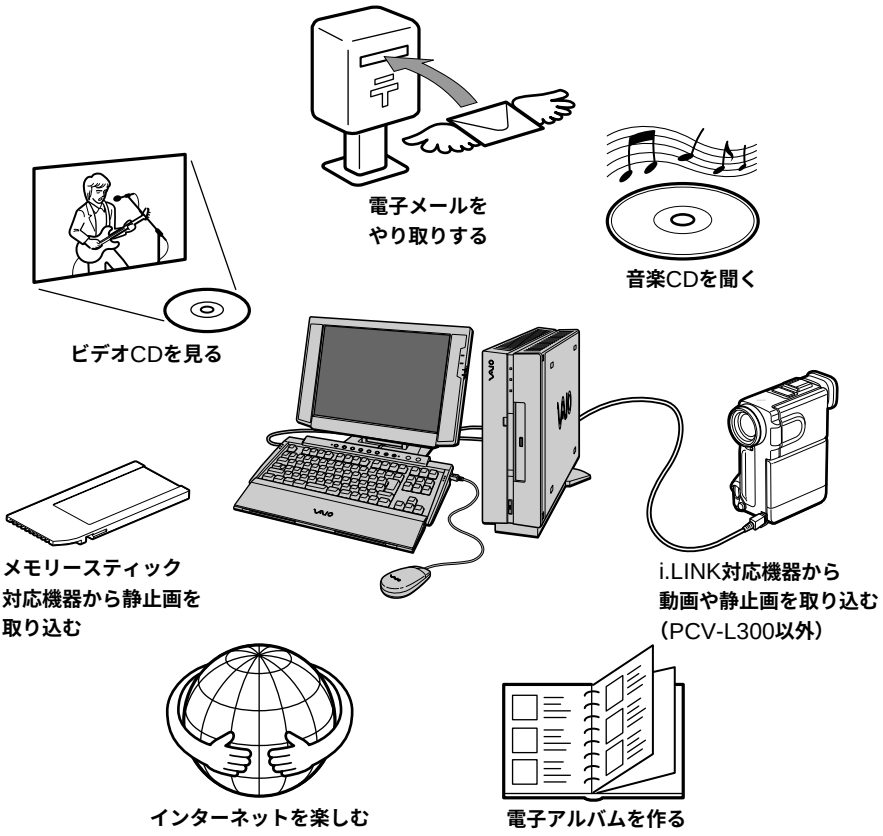
i.LINKコネクターについて
i.LINKコネクターは、IEEE1394–1995仕様及びその拡張仕様に準拠しています。i.LINKに準拠した商品には、というロゴが付けられています。i.LINKケーブルを使って が付いたデジタルビデオカメラレコーダーなどの機器と本機をつなぐことができます。

本書で使われている本機のイラストについて
本書の説明の中で使われているイラストは、断りがない限り、PCV-L500のイラストです。

こんなことができます

本機は、場所をとらない省スペース型のデザインと、コミュニケーションを重視し、さらにその使いやすさを追求して設計された、ソニーならではのパソコンです。

ここでは、本機を使ってできることの例をあげてみましょう。



次のページにつづく

プログラマブルパワーキーでワンアクション機能を実現する

付属の「PPK Setup」ソフトウェアを使うことで、プログラマブルパワーキーを押しただけで自動的に電子メールを受信するよう設定したり、インターネットに接続できるよう設定したりできます。
日頃よく使う操作手順をまとめて割り当てておくと便利です。

タイマー機能を活用する

付属の「PPK Setup」ソフトウェアを使うことで、深夜に自動的に電子メールを取り込むように設定したりできます。さらに付属の「Smart Script」ソフトウェアを使うことにより、「目覚ましメロディを再生して、その日のスケジュールを表示する」といった自動処理マクロを毎朝実行するよう登録することもできます。

メモリースティックで静止画をやりとりする

ソニーデジタルビデオカメラレコーダーなどのメモリースティック対応機器でメモリースティックに静止画を取り込んだあと、メモリースティックを抜き出し本機のスロットに差し込むだけで、静止画のスライドショーを楽しむことができます。取り込んだ静止画は、簡単に電子メールに添付して送ることができます。

i.LINKを使って静止画や動画を取り込む（PCV-L300以外）

本機のi.LINKコネクターにつないだ、i.LINK（IEEE1394）インターフェースを持つデジタルビデオカメラレコーダーなどから、デジタル信号のままで美しい静止画を取り込めます。また、電子メールに添付できる高圧縮の動画も取り込めます。

ホームページ用データを手軽に作成する

付属の「Smart Write」ソフトウェアを使うと、取り込んだ静止画を使った文書を手軽に作成できます。また作成した文書を付属の「Smart Publisher」ソフトウェアを使って自分のホームページに転送することもできます。
（「Smart Write」ソフトウェアは、PCV-L300以外にのみ付属しています。）

取り込んだ画像を自由自在に活用する

別売りのソニーデジタルスチルカメラなどから取り込んだ静止画は、付属の「PictureGear」ソフトウェアで簡単に管理できます。付属の「Adobe PhotoDeluxe」ソフトウェアを使えば、取り込んだ画像にタイトルを入れたり、特殊効果をかけたりできます。

AV再生を楽しむ

付属の「Digital Media Park」ソフトウェアを使って、音楽CDやビデオCDを再生できます。

インターネットを楽しむ

通信用のモデムを内蔵しているため、インターネットに接続して世界中の情報に接したり、電子メールをやり取りできます。

ビジネス用ソフトウェアを使う

付属の「Microsoft Excel／Word／Outlook」ソフトウェアを使って、ワープロ、表計算、スケジュール管理など、本機を各種のビジネス用途に使えます。

著作権について

あなたが本機で録画・録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断では使用できません。

また、著作者の許可なく、取り込んだ映像・画像・音声に変更・切除その他の改変を加え、著作物の同一性を損うことは禁じられています。

マニュアルの使いかた

本書は、以下の4章で構成されています。

❑ **操作編**

ここでは、本機の基本的な使いかたや一歩進んだ使いかたを説明しています。パソコンの操作に慣れていないかたはここからお読みください。

❑ **拡張編**

ここでは、AV機器やプリンターなどの周辺機器のつなぎかた、また本機の拡張のしかたについて説明しています。

❑ **セットアップ編**

ここでは、本機をお使いになる状況や好みに合わせて、本機の設定を変更する方法を説明しています。

❑ **その他**

本機をお使いになる際のご注意やお手入れのしかたなどについて説明しています。本機がうまく動作しないときは、「故障かな？と思ったら」をお読みください。

本機でできることの一部をご紹介します。それぞれ詳しくは右側の参照先の説明をご覧ください。また、本機にどんなソフトウェアが付属されているかは、別冊の「付属ソフトウェア一覧」をご覧ください。

こんなことがしたい	詳しくは
インターネットを利用したい	「インターネットを楽しむ」（57ページ）
プログラマブルパワーキーを使ってソフトウェアを起動させたい	「好みのソフトウェアを自動的に起動する（PPKの使いかた）」（63ページ）
他のパソコンのデータを本機で使いたい	「PCカードを使う」（96ページ）
メモリースティック対応機器やi.LINK対応機器から静止画を取り込みたい	「静止画を取り込む」（76ページ）
i.LINK対応機器から動画を取り込みたい	「動画を取り込む」（81ページ）
CDを聞きたい	「音楽CD／ビデオCDを再生する」（83ページ）

オンラインマニュアルの使いかた

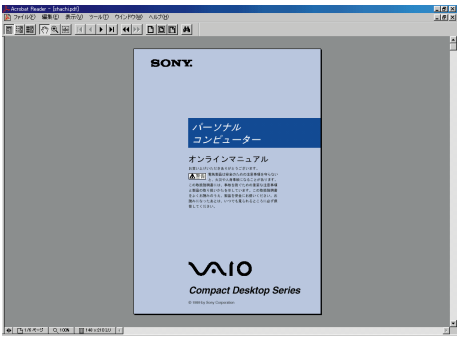
この取扱説明書の内容やいくつかの付属ソフトウェアのヘルプは画面上でお読みいただけます。

オンラインマニュアルを見るには

オンラインマニュアルを見るには、本機の電源が入っている状態で、次のように操作します。

キーボードのP6キーを押すか、または［スタート］ボタンをクリックして［VAIO］にポインターを合わせ、［マニュアル］を選び、［Compact Desktop Seriesオンラインマニュアル］をクリックする。

オンラインマニュアルの表紙が表示されます。



オンラインマニュアルの見かた

基本的なオンラインマニュアルの見かたを説明します。

サムネール（縮小表示）を見たいときは、 をクリックします。

各ソフトウェアのヘルプを見るには

本機に付属しているソフトウェアにもヘルプが添付されています。それぞれのヘルプの使いかたについて詳しくは、各ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

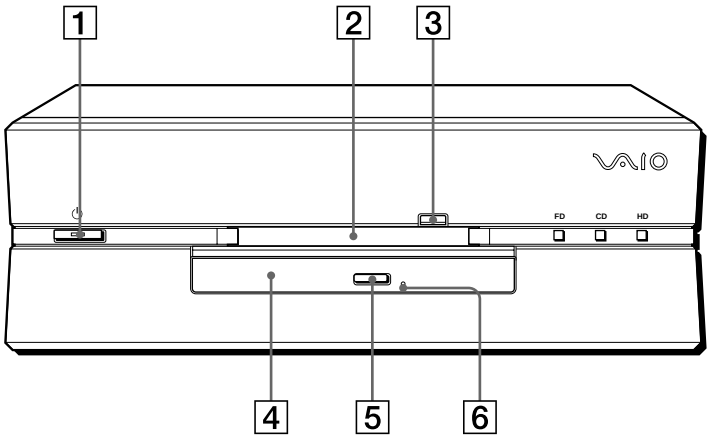
各部の名称と働き

詳しい説明は、（ ）内のページをご覧ください。

キーボードの各部の名称と働きについては

「キーボードを使う」(32ページ) をご覧ください。

本体前面



1 **(電源) スイッチと電源ランプ (26ページ)**

本機とディスプレイの電源を入／切するときに押します。電源が入っている間は、電源ランプが緑色に点灯します。

2 **フロッピーディスクドライブ (50ページ)**

3.5インチのフロッピーディスクからデータを読み込んだり、書き込んだりします。

3 **フロッピーディスクイジェクトボタン (51ページ)**

フロッピーディスクを取り出すときに押します。

4 **CD-ROMドライブ (46ページ)**

CD-ROMのデータを読み込みます。

5 **CD-ROMイジェクトボタン (46ページ)**

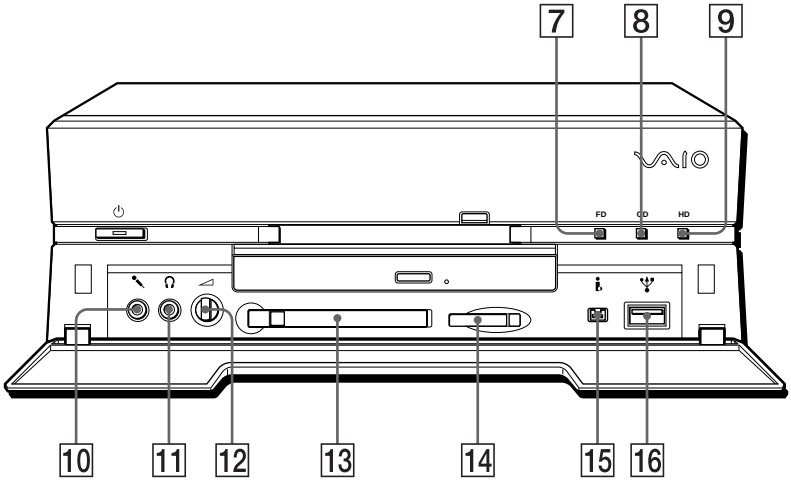
CD-ROMを取り出すときに押します。

6 **マニュアルイジェクト穴 (48ページ)**

CD-ROMイジェクトボタンを押してもCD-ROMを取り出せないときに使います。

次のページにつづく

下の図はPCV-L500です。



7 FD（**フロッピーディスクドライブ）アクセスランプ**（51**ページ**）
フロッピーディスクにデータを読み込んだり、書き込んだりするときに緑色に点灯します。

8 CD（CD-ROM**ドライブ）アクセスランプ**（47**ページ**）
CD-ROMにデータを読み込んでいるときにオレンジ色に点灯します。

9 HD（**ハードディスク）アクセスランプ**
ハードディスクにアクセスしてデータを読み込んだり、書き込んだりするときに緑色に点灯します。

10 MIC（**マイクロホン）コネクター**（86**ページ**）
市販のモノラルマイクをつなぎます。

11 PHONES（**ヘッドホン）コネクター**（86**ページ**）
市販のステレオヘッドホンをつなぎます。

12 VOLUME（**音量調節）つまみ**
PHONESコネクターにつないだヘッドホンの音量を調節します。

13 PC CARD（PC**カード）スロット**（96**ページ**）
メモリーカードなどのPCカードからデータを読み込んだり、SCSIカードでSCSIデバイスをつないだりします。

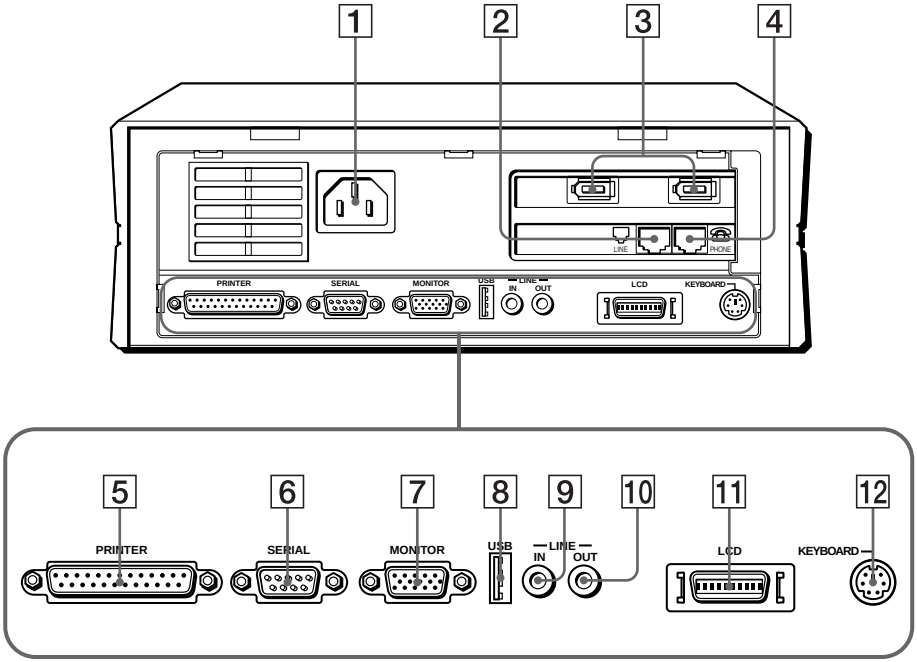
14 MEMORY STICK **（メモリースティック）スロット**（54**ページ**）
メモリースティックのデータを読み込んだり、書き込んだりします。

15 i.LINK S400 **コネクター**（4**ピン**）（86**ページ**）（PCV-L300**以外**）
DV機器やi.LINK対応機器とつなぎます。

16 USB（Universal Serial Bus）**コネクター**（89**ページ**）
USB規格に対応した機器をつなぎます。

本機後面

下の図はPCV-L500です。



1 AC INPUT（AC**電源入力**）**プラグ**
付属の電源コードをつなぎ、AC電源につなぎます。

2 LINE （**電話回線**）**ジャック**
壁の電話回線とつなぎます。

3 i.LINK S400 **コネクター（6ピン）**（87**ページ**）**（PCV-L300以外）**
DV機器やi.LINK対応機器とつなぎます。

4 PHONE ☎（**電話機**）**ジャック**
電話機をつなぎます。

5 PRINTER（**プリンター**）**コネクター**（88**ページ**）
市販のプリンターやスキャナーなどをつなぎます。

6 SERIAL（**シリアル**）**コネクター**
SERIALコネクターを持った機器をつなぎます。

7 MONITOR（**モニター**）**コネクター**
別売りの外部ディスプレイをつなぎます。

次のページにつづく

8 USB (Universal Serial Bus) **コネクター** (89**ページ**)

USB規格に対応した機器をつなぎます。

9 LINE IN (**ライン入力**) **コネクター** (87**ページ**)

オーディオ機器をつなぎます。

10 LINE OUT (**ライン出力**) **コネクター** (87**ページ**)

オーディオ機器やアンプ内蔵のアクティブスピーカーなどのヘッドホンコネクターとつなぎます。

11 LCD (**液晶ディスプレイ**) **コネクター**

本機に付属の液晶ディスプレイPCVA-141LAPをつなぎます。

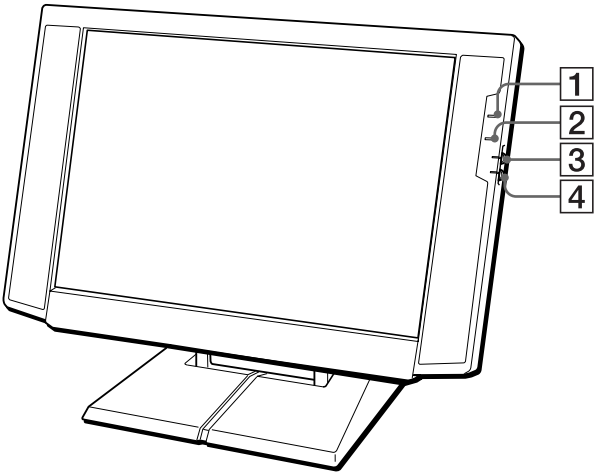
ご注意

付属の液晶ディスプレイ以外のディスプレイをつなぐことはできません。

12 KEYBOARD (**キーボード**) **コネクター**

付属のキーボードをつなぎます。

液晶ディスプレイ PCVA-141LAP



1 ⏻ **（電源）ランプ**（26**ページ**）
本機とディスプレイの電源が入っている間、緑色に点灯します。
本機がシステムスタンバイモードのときは、オレンジ色に点灯します。

2 **（インフォメーション）ランプ**（68、73**ページ**）
メール着信をお知らせするなど、本機内蔵のタイマー機能実行後の結果を赤色の点灯で表示します。

3 ☼ **（明るさ調節）ダイヤル**
液晶ディスプレイの画面の明るさを調節します。

4 **（音量調節）ダイヤル**
液晶ディスプレイのスピーカーの音量を調節します。

操作編

基本的な使いかた 26
VAIOを使いこなす 57

電源を入れる

電源を入れる前に確認してください

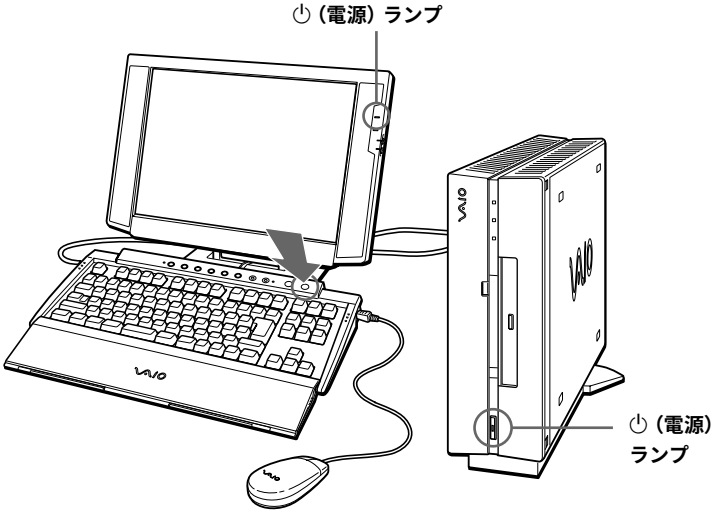
- ディスプレイが正しく接続されているか。
- キーボードが正しく接続されているか。
- 電源コードがきちんと接続されているか。
- フロッピーディスクがフロッピーディスクドライブに入ったままになっていないか。もし入っている場合はフロッピーディスクイジェクトボタンを押して取り出してください。(51ページ)

接続について詳しくは、別冊の「はじめにお読みください」をご覧ください。

キーボードの ⏻ (電源) キーを押す。

本機とディスプレイの電源が入り、本機とディスプレイの ⏻ (電源) ランプが緑色に点灯し、Windows 98が起動します。

初めて電源を入れたときは、Windows 98のセットアップ画面が表示されます。Windows 98のセットアップ画面については、別冊の「はじめにお読みください」をご覧ください。



本機の電源スイッチでも電源を入れることができます

詳しくは「各部の名称と働き」(19ページ) をご覧ください。

電源を切る

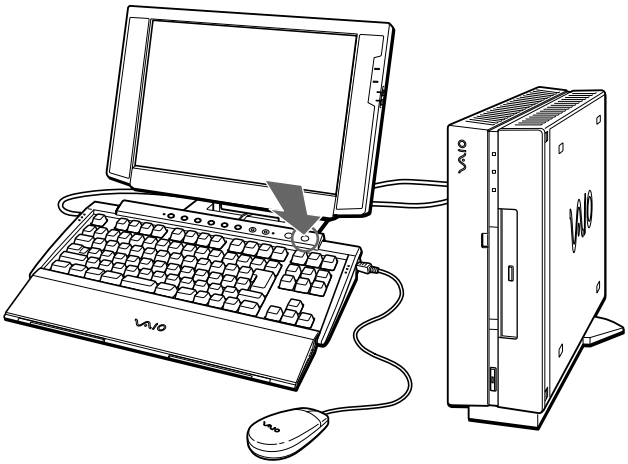
本機とディスプレイの電源を切るときは、次の手順で操作してください。

ご注意

以下の手順に従って電源を切らないと故障の原因になったり、作成した文書などが使えなくなったりすることがあります。

キーボードの ⏻（電源）キーを押す。

しばらくすると本機とディスプレイの電源が自動的に切れます。



［スタート］ボタンからも電源を切れます

1 **［スタート］ボタンをクリックし、スタートメニューの「Windowsの終了」をクリックする。**

「Windowsの終了」画面が表示されます。

2 **［OK］をクリックする。**

しばらくすると、自動的に本機とディスプレイの電源が切れます。

ご注意

本機の電源を切った後、10秒以内は電源を入れないでください。

⏻（電源）キーを押しても電源が切れないときは

本機前面の電源スイッチを4秒間以上押したままにして、電源が切れたら離します。ただし、この操作をすると作成したファイルが使えなくなることがあります。

しばらく作業を中断するときは

キーボードの ☾（スタンバイ）キーを押すと、一時的にシステム全体の動作を停止します（システムスタンバイモード）。このとき、本機とディスプレイの ⏻（電源）ランプはオレンジ色に点灯します。席をはずすなどして、しばらく作業を中断するときに便利です。

通常の動作モードに戻すには、キーボード上のいずれかのキーを押します。

ご注意

システムスタンバイモードのときに、電源コードをコンセントから抜かないでください。作業を中断する前の状態に戻れなくなります。また、本機の故障の原因となることがあります。

再起動する

本機の設定を変更したり、ソフトウェアをインストールしたときなどは、本機を再起動する必要があります。

1 ［スタート］ボタンをクリックする。

「スタート」メニューが表示されます。

2 メニューの［Windowsの終了］をクリックする。

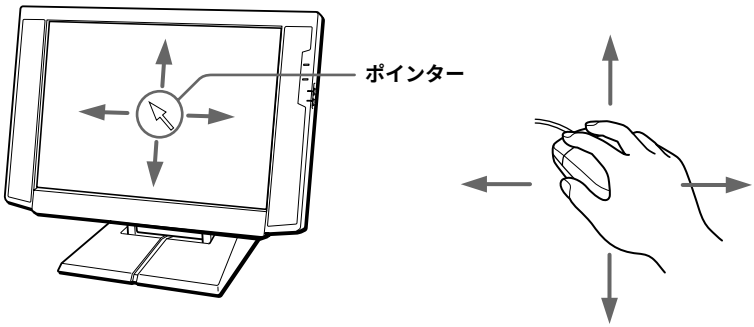
「Windowsの終了」ウィンドウが表示されます。

3 「再起動する」をクリックして選び、つぎに［OK］をクリックする。

「しばらくお待ちください」と数秒間表示されてから、本機が再起動します。

マウスを使う

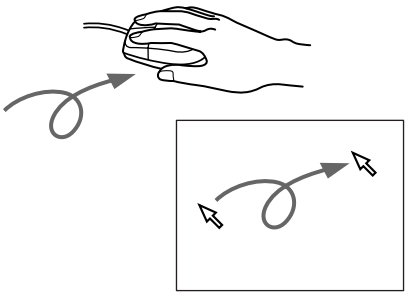
マウスを動かすと、その動きに合わせて画面上のポインターも同じ方向に移動します。



ポインターを目的の位置まで動かして左または右のボタンを押すことで、メニューを選んだりさまざまな命令をコンピューターに伝えることができます。

マウスを動かす

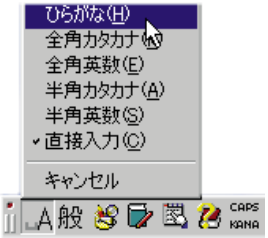
机の上など平らな場所に置き、滑らせるように動かします。マウスを動かすときは、腕全体を使うようにします。マウスを動かしていて机の端まで行ってしまったら、マウスを持ち上げて元の位置に戻して動かします。



次のページにつづく

ポイントする

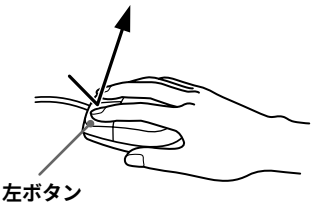
ポインターを希望の位置に合わせることです。メニューを選ぶときなどに使います。



クリックする

左ボタンをカチッと1回押してすぐ離すことです。

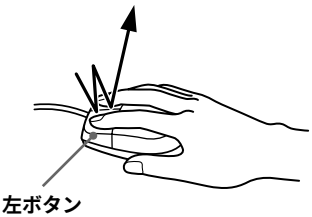
［OK］や［キャンセル］などのボタンを押したり、メニューを選ぶときなどに使います。



ダブルクリックする

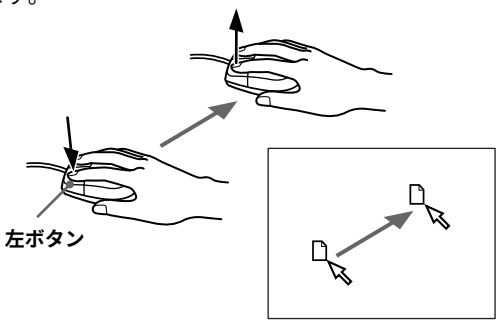
左ボタンをカチカチッと2回すばやく押してすぐ離すことです。

ソフトウェアを実行したり、作成した文書のファイルを開くときなどに使います。



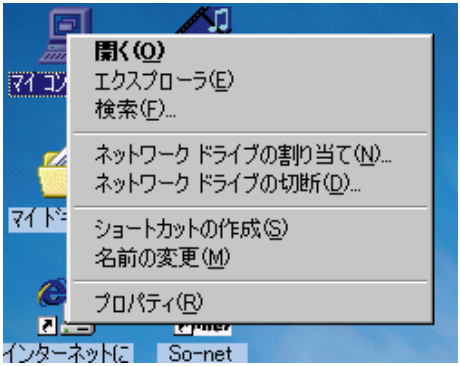
ドラッグする

左ボタンを押して、そのまま希望の位置まで動かしてからボタンを離すことです。ファイルを移動したり、ウィンドウの大きさを変更するときなどに使います。



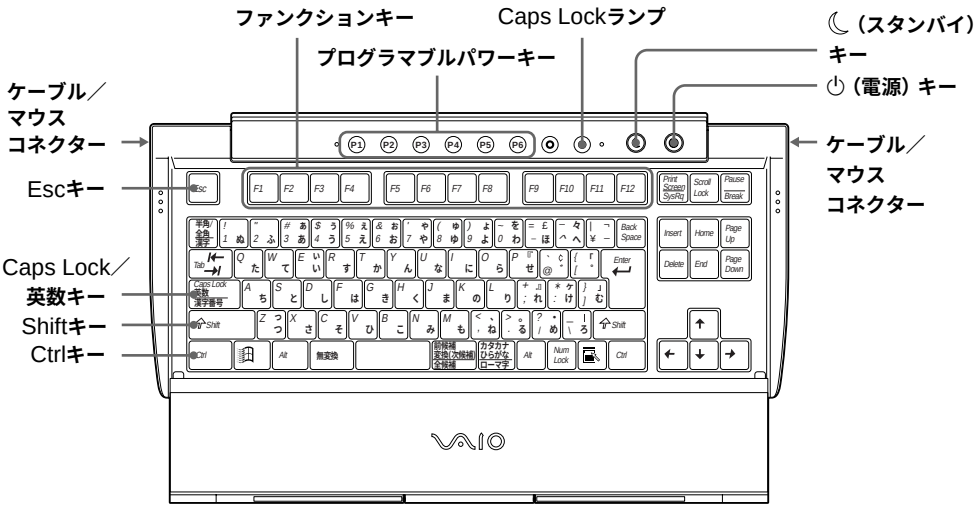
右クリックする

右ボタンを1回押してすぐ離すことです。押したときのポインターの位置によって、さまざまな内容のショートカットメニューが表示されます。



キーボードを使う

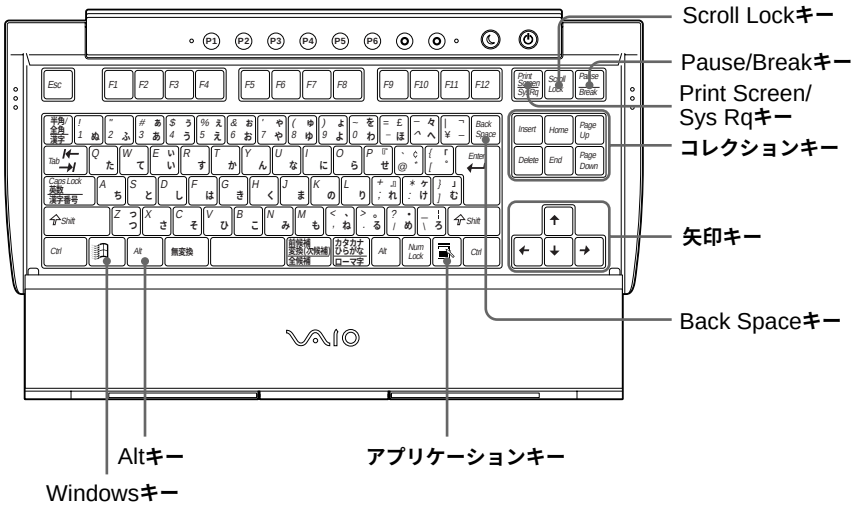
キーボードを使って文字や記号を入力したり、パソコンへ命令を送ることができます。ここでは、主なキーのなまえと機能を紹介します。
文字の入力のしかたについては、「文字を入力する」(37ページ) をご覧ください。



なまえ	機能
(電源) キー	本機とディスプレイの電源を入れます。(26ページ)
(スタンバイ) キー	本機のシステム全体の動きを一時的に停止します (システムスタンバイモード)。
プログラマブルパワーキー	これらのキーを押すだけで、好みのソフトウェアやスクリプトファイルを起動します。詳しくは、「好みのソフトウェアを自動的に起動する (PPKの使いかた)」(63ページ) をご覧ください。
ファンクションキー	使用するソフトウェアなどによって働きが異なります。詳しくは、付属のMicrosoft Windows 98のファーストステップガイドまたは各ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

なまえ	機能
ケーブル／マウスコネクター	付属のキーボード接続ケーブルまたはマウスを接続します。詳しくは、「はじめにお読みください」の「接続する」をご覧ください。
Esc（エスケープ）キー	設定を取り消したり、実行を中止するときなどに押します。
Caps Lock（キャプスロック）／英数キー	Shiftキーを押しながらこのキーを押し、Caps Lockランプが点灯しているときに文字キーを押すと、アルファベットの大文字を入力できます。 もう1度Shiftキーを押しながらこのキーを押すと、アルファベットの小文字入力に戻ります。 Ctrlキーを押しながらこのキーを押すと、文字キーを押すだけでキートップ右下に印字されているひらがなをカタカナで入力できます。
Shift（シフト）キー	アルファベット入力時に文字キーと組み合わせて使うと、アルファベットの大文字を入力できます。アルファベットの大文字入力モードのときは、文字キーと同時に押すとアルファベットの小文字を入力できます。数字キーや記号キーと同時に押した場合は、キートップ上段に印字されている文字を入力できます。 例）Shiftキーを押しながら、1キーを押す。 「!」（感嘆符）を入力できます。 また、文字キーと他の機能キーと組み合わせて使うと、特定の機能を実行できます。
Ctrl（コントロール）キー	文字キーなどと組み合わせて使うと、特定の機能を実行します。使用するソフトウェアなどによって働きが異なります。詳しくは、付属のMicrosoft Windows 98のファーストステップガイドまたは各ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。 例）Ctrlキーを押しながら、Sキーを押す。 メニューから「保存する」を選ばずに、ファイルを保存できます。

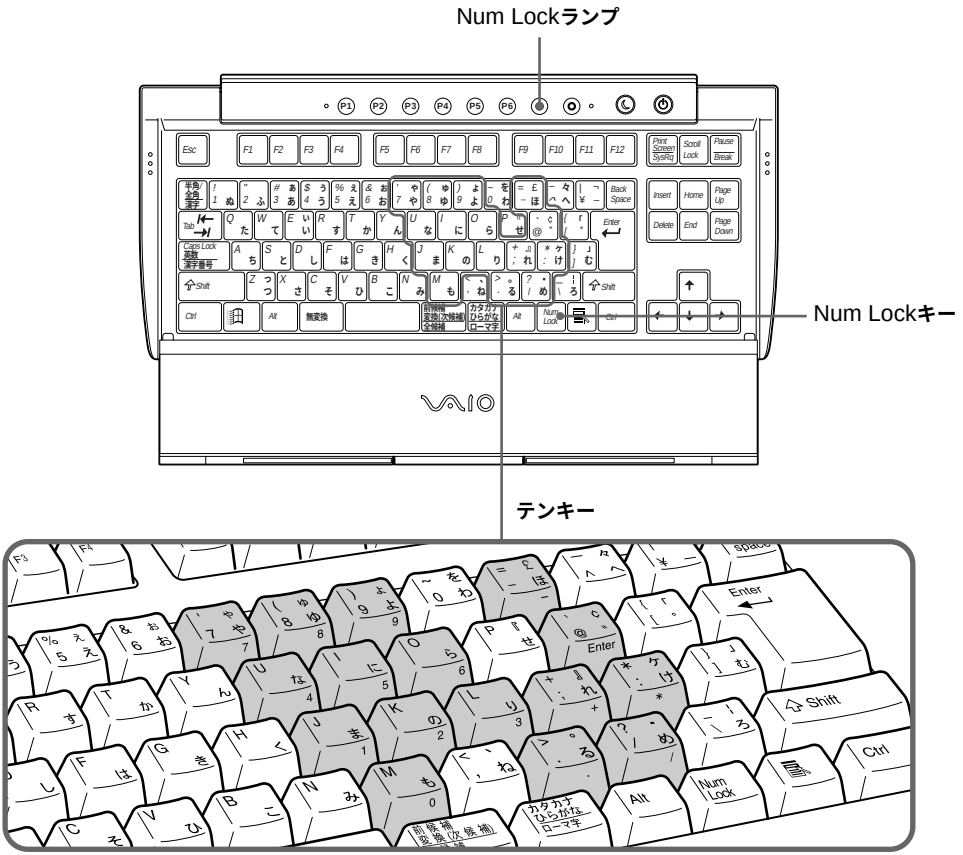
次のページにつづく



なまえ	機能
Windows（ウィンドウズ）キー	Windows 98の「スタート」メニューが表示されます。他のキーと組み合わせて使うと、特定の機能を実行できます。詳しくは、付属のMicrosoft Windows 98のファーストステップガイドおよび「Windowsキーとの主な組み合わせと機能」（147ページ）をご覧ください。
Alt（オルト）キー	文字キーなどと組み合わせて使うと、特定の機能を実行します。使用するソフトウェアなどによって働きが異なります。詳しくは、付属のMicrosoft Windows 98のファーストステップガイドまたは各ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。
アプリケーションキー	マウスで右ボタンを押したときと同じ働きをします。
Back space（バックスペース）キー	画面上のカーソルがある位置の左の文字を消すときに押します。
矢印キー	画面上のカーソルを動かしたり、数ページにわたる画面の次ページまたは前ページを表示するときなどに使います。

なまえ	機能
コレクションキー	
• Insert（インサート）キー	文字入力のモードを切り換えます。文字を入力するとき、このキーを押すごとに、画面上のカーソルの位置に文字を挿入するか、カーソルの位置から文字を上書きするかが切り換わります。
• Delete（デリート）キー	画面上のカーソルがある位置の右の文字を消すときに押します。
• Home（ホーム）キー	行の先頭にカーソルを移動するときに押します。
• End（エンド）キー	行の最後にカーソルを移動するときに押します。
• Page Up（ページアップ）キー	現在表示している画面の前のページを表示します。
• Page Down（ページダウン）キー	現在表示している画面の次のページを表示します。
Print Screen/Sys Rq（プリントスクリーン／システムリクエスト）キー	表示されている画面全体をクリップボードに取り込みます。Altキーを押しながらこのキーを押すと、選択されているウィンドウの画面だけを取り込みます。 取り込んだ画像は「ペイント」などのソフトウェアで保存、印刷、加工できます。
Pause/Break（ポーズ／ブレイク）キー	使用するソフトウェアによって働きが異なります。詳しくは各ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。 Ctrlキーを押しながらこのキーを押すと、Breakキーとして働きます。使用するソフトウェアによって働きが異なります。詳しくは各ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。
Scroll Lock（スクロール・ロック）キー	使用するソフトウェアによって働きが異なります。詳しくは各ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

次のページにつづく



なまえ	機能
テンキー	Num Lockキーを押し、Num Lockランプが点灯しているときにこれらのキーを押すと、キー前面右側に印字されている数字を入力できます。
Num Lock（ナムロック）キー	このキーを押すと、テンキーを押すだけで数字を入力できます。 例）Uキーを押す。 「4」が入力されます。 もう1度Num Lockキーを押すと、もとの状態に戻ります。

文字を入力する

ここでは、文字の入力のしかたについて説明します。文字を入力するにはキーボードを使います。本機に付属している、「ワードパッド」という文章を作成するためのソフトウェアを使って、文字入力を練習してみましょう。

キーボード上の各キーのなまえと働きについて詳しくは、「キーボードを使う」（32ページ）をご覧ください。

日本語入力を準備する

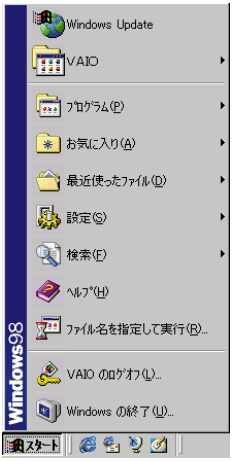
ここでは、ワードパッドを起動して、日本語を入力できるようにするまでの手順を説明します。

1 ワードパッドを起動する

まず、ワードパッドを起動します。

1 ［スタート］ボタンをクリックする。

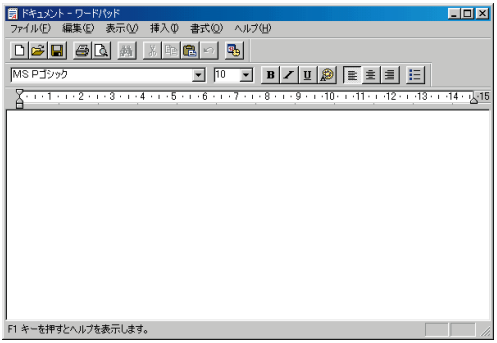
スタートメニューが表示されます。



2 ［プログラム］をクリックして、ポインターを［アクセサリ］に合わせてから、［ワードパッド］をクリックする。

次のページにつづく

ワードパッドが起動し、文字を入力する画面が表示されます。



2 日本語入力を選ぶ

キーボード上の各キーにはアルファベットやひらがなが印刷されていますが、ただキーを押しても、漢字やカタカナは入力できません。
日本語を入力するためには、画面に表示されているMS-IME98のツールバーを使って、入力文字を切り換える必要があります。

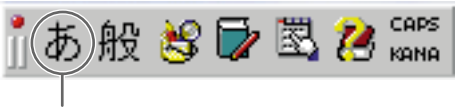
MS-IME98**ツールバー**

1 MS-IME98**ツールバーの［␣A］をクリックする。**

文字入力選択メニューが表示されます。

2 ［ひらがな］をクリックする。

画面上に表示されているツールバーの表示が［␣A］から［あ］に変わり、日本語を入力できるようになります。



［␣A］**から［あ］に変わる。**

ツールバーが表示されていないときは

タスクバーの右側にある をクリックして、「ツールバーを表示」をクリックします。

ツールバーについて詳しくは、付属のMicrosoft Windows 98のファーストステップガイドをご覧ください。

入力のしかたを選ぶ

日本語を入力する方法として、ローマ字入力方式とかな入力方式があります。お好みにあわせて、入力方法を選んでください。

なお、お買い上げ時は、ローマ字入力に設定されています。

❑ ローマ字入力

キーボード上のアルファベットを組み合わせて、ローマ字で日本語を入力する方法です。1文字を入力するために2つのキーを組み合わせるので、操作が多少めんどうですが、英文タイプライターに慣れているかたはこちらが便利です。

❑ かな入力

キーボード上の各キーに印刷されているひらがなを使って、日本語を入力する方法です。1文字につき1つのキーを押せばよいので操作は楽ですが、50音それぞれのキーの配置を覚える必要があります。

かな入力とローマ字入力を切り換える

MS-IME98ツールバーの［KANA］をクリックするか、Ctrlキーを押しながら、Caps Lock／英数キーを押す。

ローマ字入力とかな入力とが切り換わります。

かな入力

KANAの文字が
押された状態

［KANA］をクリックするか、Ctrlキーを押しながら、Caps Lock／英数キーを押す。

ローマ字入力

KANAの文字が
押されていない状態

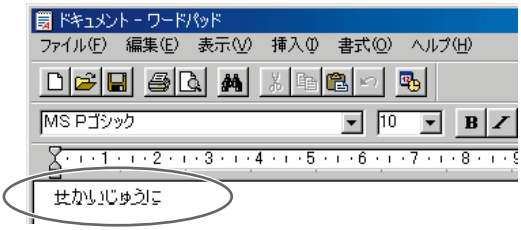
次のページにつづく

文字を入力する

ここでは、具体的な文字の入力のしかたを説明します。
例として、「世界中にひろがったソニーVAIO」という言葉を入力してみます。

1 漢字を入力する

1 「世界中に」の読みを入力する。



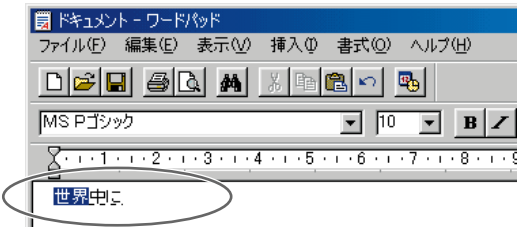
ローマ字入力の場合

S、E、K、A、I、J、U、U、N、Iの順にキーを押します。

かな入力の場合

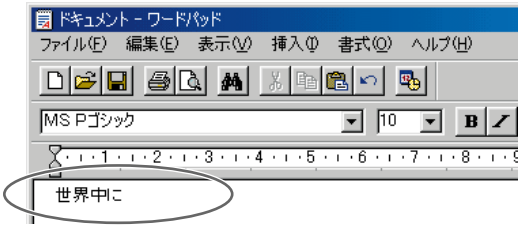
せ、か、い、し、゛（濁点）、ゅ（Shiftキーを押しながら「ゆ」を押します）、う、に、の順にキーを押します。
キーを押すごとに、カーソルが文字の入力位置に動きます。

2 スペースキーを押す。



入力した読みに当てはまる漢字が表示されます。
まちがった漢字が表示されたときは、正しい漢字が表示されるまで、何回かスペースキーを押します。

3 Enter**キーを押す。**



変換が確定します。

間違って入力したときは

次のキーを使って修正します。

Backspace**キー**：カーソルの直前の1字を消し、カーソルの位置が戻ります。

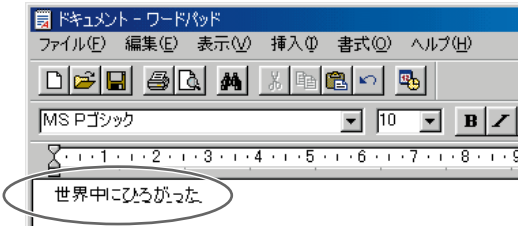
Delete**キー**：カーソルのある位置の1字を消します。

Esc**キー**：確定していない文字をすべて消去します。

次のページにつづく

2 ひらがなを入力する

1 「ひろがった」の読みを入力する。



ローマ字入力の場合

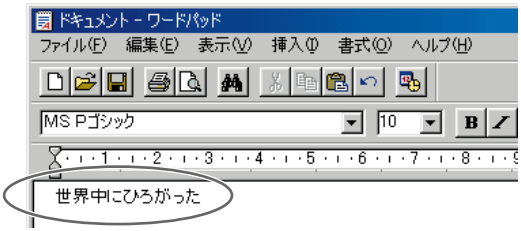
H、I、R、O、G、A、T、T、Aの順にキーを押します。

かな入力の場合

ひ、ろ、か、゛（濁点）、っ（Shiftキーを押しながら「つ」を押します）、た、の順にキーを押します。

キーを押すごとに、カーソルが文字の入力位置に動きます。

2 Enterキーを押す。



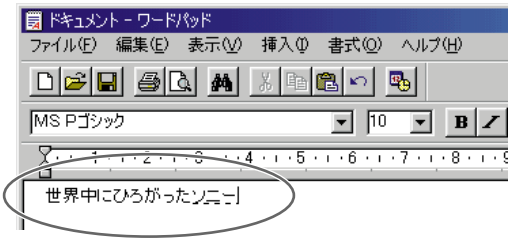
変換する必要がないので、スペースキーを押す必要はありません。

3 カタカナを入力する

1 MS-IME98のツールバーの［あA］をクリックして、［全角カタカナ］を選ぶ。

ツールバーの表示が［カ］になり、カタカナが入力できる状態になります。

2 「ソニー」の読みを入力する。



ローマ字入力の場合

S、O、N、I、-（ハイフン）の順にキーを押します。

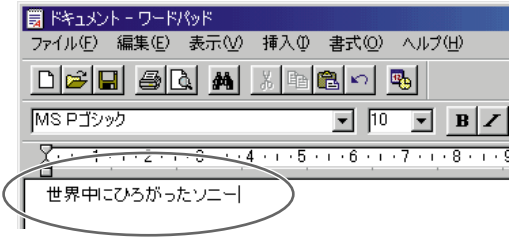
かな入力の場合

そ、に、ーの順にキーを押します。

キーを押すごとに、カーソルが文字の入力位置に動きます。

次のページにつづく

3 **Enterキーを押す。**



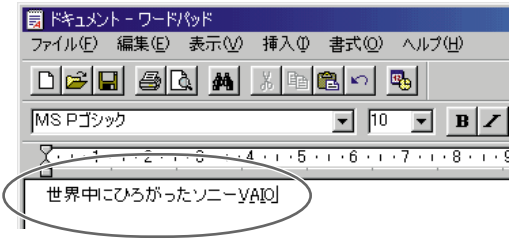
変換する必要がないので、スペースキーを押す必要はありません。

4 英字を入力する

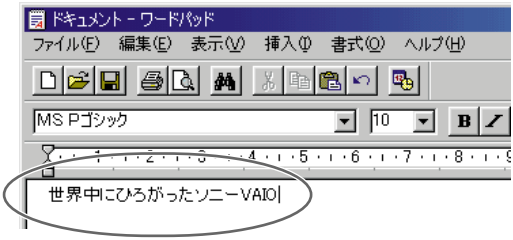
1 **MS-IME98のツールバーの［あ］をクリックして、［半角英数］を選ぶ。**

ツールバーの表示が［␣A］になり、アルファベットが入力できる状態になります。

2 **Shiftキーを押しながら、V、A、I、Oの順にキーを押す。**



3 Enterキーを押す。



変換する必要がないので、スペースキーを押す必要はありません。

ちょっと一言

アルファベットの小文字や数字を入力するときは、Shiftキーを押す必要はありません。

これで「世界中にひろがったソニーVAIO」と入力できました。

キーボード上にない文字や記号の入力のしかたや、漢字に変換する文節の位置の調節のしかたなどについて詳しくは、付属のMicrosoft Windows 98のファーストステップガイドまたはMS-IME98のヘルプをご覧ください。

CD-ROMを使う

CD-ROMは、コンピューターで扱うプログラムやデータを記録した、読み取り専用の記録メディアです。大容量のデータを保存することができますが、読み取り専用なので、自分で作った文書ファイルなどを保存することはできません。市販のプログラムやゲームなどで使われることが多いメディアです。

ここでは、CD-ROMの取り扱いについて説明します。

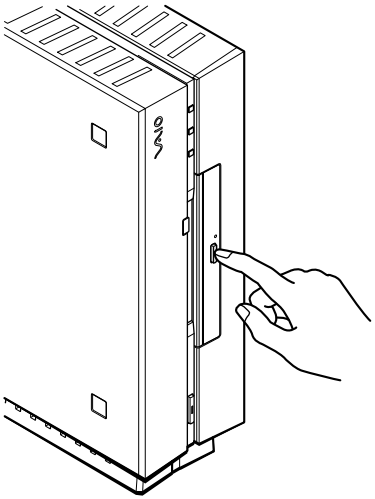
ディスクを入れる

次の手順にしたがってディスクをCD-ROMドライブに入れます。

1 **本機の電源が入っていることを確認する。**

2 CD-ROM**イジェクトボタンを押す。**

ディスクトレイが出てきます。

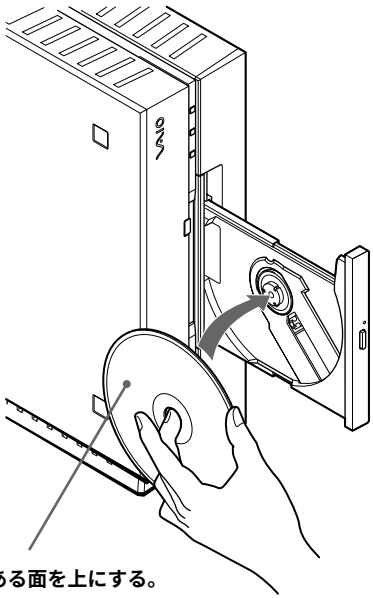


3 **ディスクトレイを最後まで引き出す。**

4 ディスクをトレイにのせ、トレイ下部を手で支えながら、トレイ中央の突起部にカチッと音がするまでディスクをはめ込む。

ご注意

きちんとディスクをはめ込まないでトレイを閉じると、トレイが開かなくなることがあります。



CD-ROM

文字の書いてある面を上にする。

5 ディスクトレイを軽く押して、トレイを閉める。

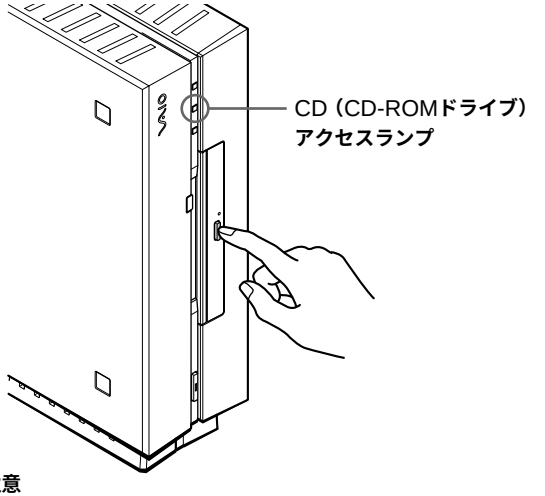
ディスクの内容が読み込まれます。データを読み始めると、CD（CD-ROMドライブ）アクセスランプがオレンジ色に点灯します。

ご注意

ディスクを入れたまま、本機の電源を切らないでください。

ディスクを取り出すには

CD（CD-ROMドライブ）アクセスランプが点滅していないことを確認してから、CD-ROMイジェクトボタンを押します。

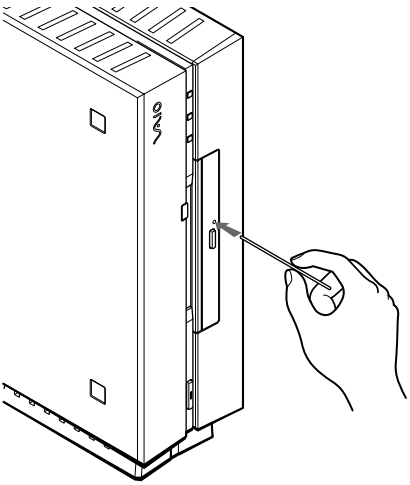


ご注意

CD-ROMイジェクトボタンは、本機の電源が入っていないと動作しません。

CD-ROMイジェクトボタンを押してもディスクが取り出せないときは

針金のようなもの（太めのクリップで代用可）を、マニュアルイジェクト穴に押し込んでください。



使用できるディスク

本機のCD-ROMドライブで再生できるディスクは以下の通りです。

ディスクの種類	マーク
CD-ROM	
音楽CD	
CD Extra	
ビデオCD	

ご注意

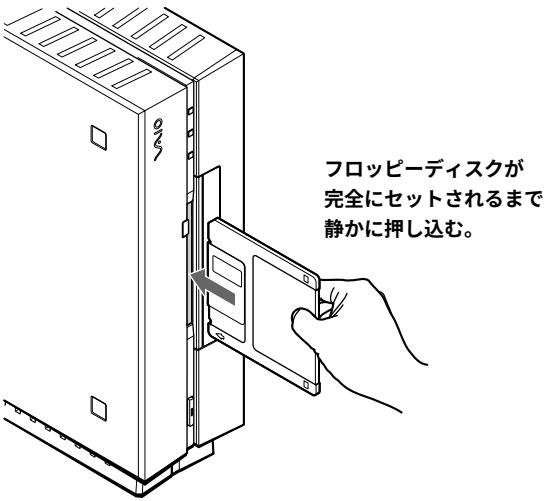
本機では円形ディスクのみお使いいただけます。円形以外の特殊な形状（星型、ハート型など）をしたディスクを使用すると、本機の故障の原因となります。

フロッピーディスクを使う

フロッピーディスクは、薄くて軽く、手軽に取り扱うことのできる記録メディアです。自分で作った文書ファイルなどのデータを保存することができます。
ここでは、フロッピーディスクの取り扱いについて説明します。

フロッピーディスクを入れる

フロッピーディスクをフロッピーディスクドライブに入れます。



ディスクの内容が読み込まれます。データを読み始めるとFD（フロッピーディスクドライブ）アクセスランプが緑色に点灯します。

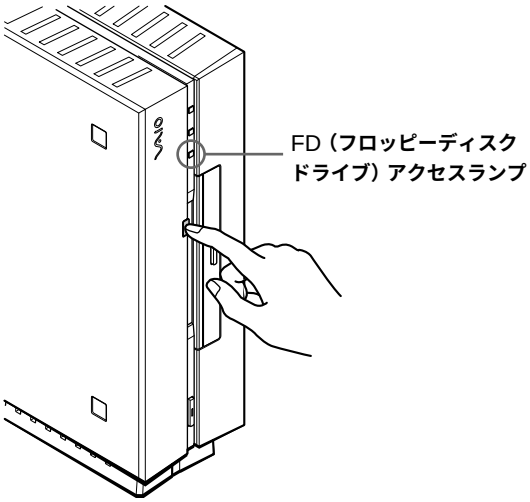
本機で使うフロッピーディスクは、あらかじめ初期化しておく必要があります。初期化とは何かについては、「初期化について」（52ページ）をご覧ください。市販されているフロッピーディスクをお使いになるときは、「DOS／V 1.44MBフォーマット済」のものをご購入ください。初期化する必要がなくなります。その他、本機で使えるフロッピーディスクについて詳しくは、「使用できるフロッピーディスク」（53ページ）をご覧ください。

フロッピーディスクを取り出すには

FD（フロッピーディスクドライブ）アクセスランプが点灯していないことを確認してから、フロッピーディスクイジェクトボタンを押します。

ご注意

FD（フロッピーディスクドライブ）アクセスランプが点灯しているときにフロッピーディスクイジェクトボタンを押すと、ディスクの破損の原因となります。



データを書き込み禁止にする

大切なデータを誤って消してしまうことのないように、フロッピーディスクには書き込み禁止のタブがついています。このタブを上下に動かして、フロッピーディスクを書き込み可能に、あるいは書き込み禁止にできます。

❑ 書き込み可能

データの書き込みが可能な状態です。次のような場合には書き込み可能な状態にしておきます。

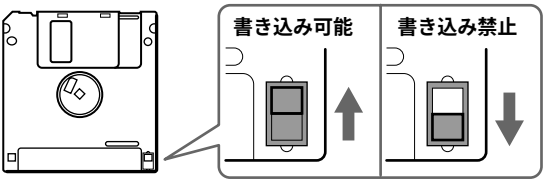
- 初期化するとき
- 別のディスクの内容をコピーするとき
- ソフトウェアのデータディスクとして使うとき

❑ 書き込み禁止

穴が見える位置にタブをスライドさせると、書き込み禁止の状態になります。データの読み出しはできますが、書き込みはできません。次のような場合に書き込み禁止にしておきます。

- 内容を読み出すことはあっても、書き込みは行わないとき

フロッピーディスク裏面



初期化について

フロッピーディスクを使うには、「初期化」という作業が必要です。初期化とは、ちょうど真っ白なノートに罫線を引き、罫ごとに番号をふって、何ページのどこにどんなことを書き込んだか分かりやすくする作業に似ています。国によっていろいろな言語があるように、コンピューターの種類によって初期化の形式もさまざまです。お使いのコンピューターにあった初期化の形式でなければなりません。本機で初期化する方法については、付属のMicrosoft Windows 98のファーストステップガイドをご覧ください。
すでに初期化されたフロッピーディスクも市販されているので、これをお買い求めになれば、すぐに使うことができます。

ご注意

すでにデータが書き込まれているフロッピーディスクを初期化すると、そのデータは消去されてしまいます。誤って大切なデータを消すことがないようにご注意ください。

使用できるフロッピーディスク

3.5型フロッピーディスクには、2HD（両面高密度）タイプと2DD（両面倍密度倍トラック）タイプのものがあり、フォーマットによって2HD 1.44Mバイト、2DD 720Kバイト、2HD 1.2Mバイトの3種類に分けることができます。

本機はこれらのフロッピーディスクに対応しています。

種類	本機でできること
2HD 1.44Mバイト	フォーマット、読み書きともに可。
2DD 720Kバイト	フォーマット、読み書きともに可。
2HD 1.2Mバイト	読み書きともに可。 FORMAT、SYS、DRVSPACE（ドライブスペース）、DISKCOPYコマンドは実行不可。

ご注意

- データを保存するときは、2HD 1.44Mバイトまたは2DD 720Kバイトタイプのフロッピーディスクをご使用ください。
- 他のパソコンとデータのやりとりをする場合は、下記のフロッピーディスクをご使用ください。

データをやりとりしたいパソコンのフロッピーディスクドライブの種類	使用するフロッピーディスク
1.44Mバイトのフロッピーディスクドライブ	2HD 1.44Mバイトまたは2DD 720Kバイト
1.2Mバイトのフロッピーディスクドライブ	2HD 1.2Mバイトまたは2DD 720Kバイト

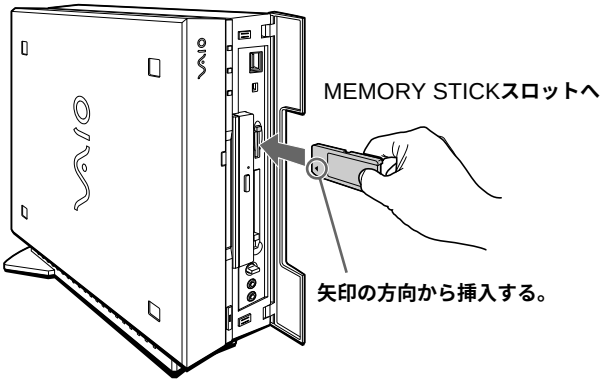
- 2HD 1.2Mバイトタイプのフロッピーディスクのデータを利用するときは、いったん2HD 1.44Mバイトタイプのフロッピーディスクへコピーしてから利用することをおすすめします。
- 市販のアプリケーションソフトはフロッピーディスクの種類に関係なく作られていますが、一部のソフトウエアには2HD 1.44Mバイトおよび2DD 720Kバイト専用に作られているものがあります。これらのソフトウエアから2HD 1.2Mバイトのフロッピーディスクに読み書きを行ったときは、一部の機能が正しく動作しない場合があります。

メモリースティックを使う

メモリースティックは、小さくて軽く、しかもフロッピーディスクより容量が大きい新世代の記録メディアです。メモリースティック対応のデジタルビデオカメラレコーダーなどの機器とデータをやりとりするのに便利なだけでなく、着脱可能な外部記録メディアの1つとしてデータを保存するときもお使いいただけます。

メモリースティックを入れる

メモリースティックをMEMORY STICK（メモリースティック）スロットに入れます。



ご注意

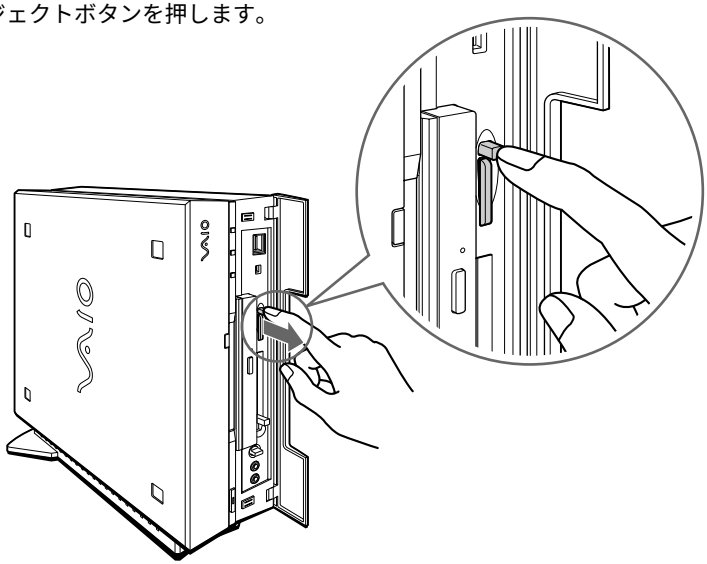
メモリースティックの向きにご注意ください。無理に逆向きに入れようとするとスロットが破損する恐れがあります。

Windows 98上でメモリースティックはSドライブとして表示されます。メモリースティック上のデータは他の記録メディア同様にエクスプローラなどを使って管理することができます。

メモリースティック対応機器からメモリースティックを使って静止画を取り込む方法については「静止画を取り込む」（76ページ）をご覧ください。

メモリースティックを取り出すには

メモリースティックへのデータの書き込みやデータの読み出しを行っていないことを確認してからMEMORY STICK（メモリースティック）スロットのイジェクトボタンを押します。



メモリースティック使用上のご注意

- メモリースティックの端子部に手や金属で触れないでください。
- 強い衝撃を与えたり、曲げたり、落としたりしないでください。
- 分解したり、改造したりしないでください。
- 水にぬらさないでください。
- 以下のような場所でのご使用や保存は避けてください。
  - 高温になった車の中や炎天下など気温の高い場所
  - 直射日光のあたる場所
  - 湿気の多い場所や腐食性のある場所
- 持ち運びや保管の際は、専用の収納ケースに入れてください。
- 大切なデータはバックアップをとっておくことをおすすめします。
- データの読み込み中・書き込み中にメモリースティックを抜かないでください。
- 下記の場合、記録したデータが消えたり壊れたりすることがあります。
  - 読み込み中・書き込み中にメモリースティックを抜いたり、本機の電源を切った場合
  - 静電気や電気的ノイズの影響を受ける場所で使用した場合

データを書き込み禁止にする

大切なデータを誤って消してしまうことのないように、メモリースティックには書き込み禁止のタブがついています。このタブを左右に動かして、メモリースティックを書き込み可能に、あるいは書き込み禁止にできます。

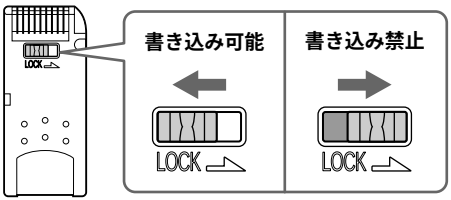
❑ 書き込み可能

データの書き込みが可能な状態です。デジタルビデオカメラレコーダーなどで静止画を撮影するときなどには、書き込み可能な状態にしておきます。

❑ 書き込み禁止

タブを右にスライドさせると、書き込み禁止の状態になります。データの読み出しはできますが、書き込みはできません。本機のMEMORY STICK（メモリースティック）スロットに入れて静止画を読み込むときなどには、書き込み禁止にしておきます。

メモリースティック裏面



インターネットを楽しむ

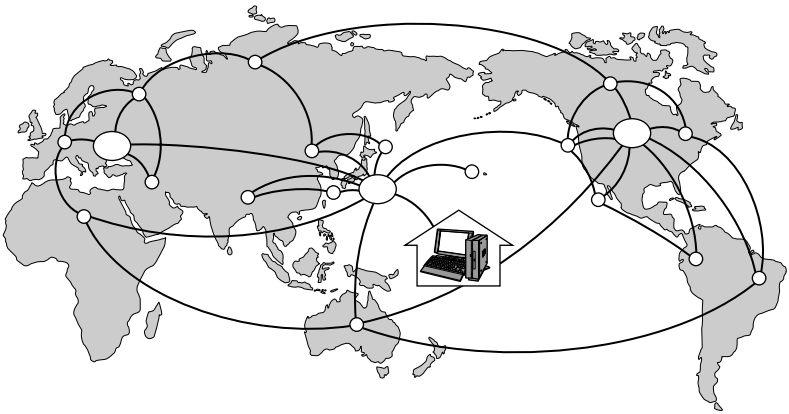
本機には電話回線に接続して通信を行うためのモデムが内蔵されているので、電話回線につないでインターネットを楽しむことができます。
ここでは、インターネットとは何か、どうやってインターネットに接続するかについて説明します。

インターネットとは

世界中のコンピューターがつながった、地球規模のネットワークのことです。インターネットにつながったパソコンを使うことで、世界中の情報を入手したり、世界にむけて自分の情報を発信したりすることができます。電子メールを利用すれば、国内だけでなく、世界中の友人・知人に連絡を取ることもできます。

インターネットを利用して、以下のようなことができます。

- ホームページを見る
- 自分のホームページを作って公開する
- 電子メールをやり取りする
- オンラインショッピングをする



インターネットを始める

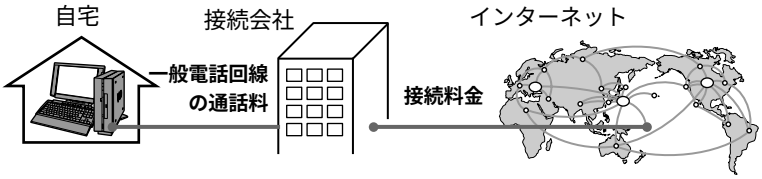
世界中の情報に接することのできるインターネットですが、インターネット自体は電話回線のように、ケーブルがつながったものでしかありません。情報を受け取ったり、発信したりするためには専用のソフトウェアが必要になります。
また、電話回線を通してインターネットにつなぐために、インターネットサービスプロバイダー（以下、「プロバイダー」と略します）という接続業者と契約する必要があります。

インターネットを始めるために必要なものは以下の通りです。

電話回線
電話回線には一般電話回線とISDN回線の2種類があります。本機では一般電話回線を使用します。

モデム
パソコンの情報を電話回線を通じてやり取りするために必要です。本機には内蔵されています。

プロバイダー
インターネットにつなぐために、プロバイダーと契約する必要があります。プロバイダーはインターネットと本機との間を仲介する役割を持っています。 プロバイダーと契約すると、インターネットを使って、いろいろな情報を記述したホームページを簡単に見ることができます。また、「電子メールアドレス」という、あなたの住所のようなものが契約時に用意されます。電子メールアドレスは、電子メールを送受信するときの宛先になります。これらのサービスの他に、契約するプロバイダーによっていろいろなサービスがあります。
プロバイダーと契約すると、サービスに応じた接続料金がかかります。また、プロバイダーには電話回線を使って接続するので、接続料金とは別に一般電話回線の通信料がかかります。



現在では、数多くのプロバイダーがありますので、料金やサービスの内容をご検討のうえで、ご自分にあったプロバイダーと契約するようおすすめします。料金やサービスの内容について詳しくは、それぞれのプロバイダーにお問い合わせください。

ご注意

- 契約時にクレジットカードが必要になるプロバイダーもあります。クレジットカードをお持ちでないときは、クレジットカードなしで契約できるプロバイダーをお探しください。
- 接続料金はプロバイダーにより異なります。

ソフトウェア

プロバイダーと契約することで、インターネットに接続することはできますが、実際に情報を受け取ったり、発信したりするためには専用のソフトウェアが必要になります。本機には、インターネットを使ってホームページを見るためのソフトウェア（ウェブブラウザー）として、「Internet Explorer」と「Netscape Communicator」が付属しています。

ご注意

- 本機および付属ソフトウェアの設定によっては、本機の電源を切っている間でも、自動的にインターネットに接続することがあります。自動接続の場合、接続したあとに接続を自動的に終了しないことがあります。この場合、通話料と接続料金が多額になる可能性がありますので、ご注意ください。
- インターネットに接続している間は、電話をかけたり、受けたりできないことがあります。
- オンラインショッピングをするときなど、むやみにクレジットカードの番号を入力しないようにご注意ください。プライバシー情報がもれる可能性があります。
- 電子メールは完全な機密性があるわけではありません。電子メールに書く内容には注意してください。
- インターネット上には有害な内容のWebサイトもありますので、ご注意ください。

インターネットに接続する

以下の流れにしたがってインターネットに接続します。

準備1　電話回線につなぐ

本機を電話回線につなぎます。
詳しくは「はじめにお読みください」の「接続する」をご覧ください。

準備2　インターネットサービスプロバイダーと契約する

次ページの「プロバイダーと契約するには」をご覧ください。

準備3　接続のための設定をする

プロバイダーと契約したあとの設定内容は、プロバイダーの指示にしたがってください。
すでに接続の契約をしているかたは、本機の画面上の「インターネットに接続」アイコンに矢印を合わせてダブルクリックします。「インターネット接続ウィザード」の画面が表示されますので、画面の指示にしたがって必要事項を入力してください。

ご注意

「インターネット接続ウィザード」の画面の前に「所在地情報」の画面が表示されたときは、所在地情報を正しく設定してください。

プロバイダーと契約するには

別冊の「はじめにお読みください」の「カスタマー登録する／インターネットに接続する」の手順に従って操作すると、以下のネットワークサービスに入会することができます。詳しくは「はじめにお読みください」をご覧ください。

ソニーグループのプロバイダー「So-net」です。
年中無休のカスタマーサポートで安心・快適にインターネットをご利用いただけます。
大人気の愛玩電子メールソフト「ポストペット」に加え、ますます充実のオンラインコンテンツ100タイトル！オンラインショップが170店舗!
それは楽しいインターネット、So-netです。

AOL（アメリカ・オンライン）の特長は、インターネットも電子メールも簡単にできること、他のインターネット接続サービスに比べて、情報や出会いの場がたくさん用意されていること、そして、何より最初の100時間は無料で使えることです。
本機の電源を入れたら、AOLをクリック!!　きっと10分もしないうちに、ネットワークの楽しさに夢中になれます。

ODNは市外電話0088、国際電話0041でおなじみの日本テレコム株式会社が提供するインターネット接続サービスです。
日本テレコムならではの大容量回線であなたのインターネットライフをサポートします。

みんなが選んだインターネットプロバイダー、ニフティサーブ!
国内最大の会員数を誇るニフティサーブなら、メールやホームページ作成はもちろん、あらゆるジャンルの情報サービス、多くの出会いの場でネットワークライフが一層豊かに!　全国に広がるアクセスポイントで快適アクセス!
ご入会後にはマニュアルをプレゼント!

「ぷらら」は、ソニー、NTT、セガ、ビクター、ヤマハの5社が共同開発したプロバイダーです。お得な料金体系で、話し中がほとんどない、しかも高速のインターネット接続がご利用いただけます。さらに、オンラインショッピングや、多彩なメール機能、ページャ、チャットなど、様々なコンテンツをお楽しみいただけます。

HTML文書を作成する

「Smart Write」ソフトウェアでインターネットのホームページに使われるHTML文書を手軽に作成することができます。「Smart Capture」ソフトウェアと組み合わせれば、i.LINK対応機器から取り込んだ静止画入りの文書も作成できます。作成した文書は、「Smart Publisher」ソフトウェアを使って自分のホームページに送信できます。

HTML文書の作成のしかたについて詳しくは「Smart Write」ソフトウェアのヘルプをご覧ください。

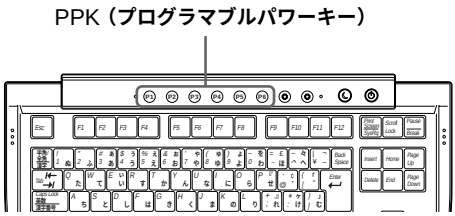
静止画の取り込みかたについて詳しくは「Smart Capture」ソフトウェアの取扱説明書またはヘルプをご覧ください。

文書の送信のしかたについて詳しくは「Smart Publisher」ソフトウェアのヘルプをご覧ください。

好みのソフトウェアを自動的に起動する（PPKの使いかた）

PPK（プログラマブルパワーキー）とは

PPK（プログラマブルパワーキー）は、1回押すだけで目的のソフトウェアを起動できる便利なキーです。電源スイッチの機能も兼ね備えていますので、本機の電源が切られている状態で押すと、電源の投入から目的のソフトウェアの起動までを自動的に行います。



6つのPPKにはそれぞれ1つずつソフトウェアが初期設定で割り当てられています。初期設定で割り当てられているソフトウェアについては、「ワンタッチでソフトウェアを起動する（PPKの基本操作）」（65ページ）をご覧ください。また、これらの割り当てられたソフトウェアは、「PPK Setup」ソフトウェアを使ってよく使うソフトウェアなどへ変更することもできます。割り当てられたソフトウェアを変更する方法については、「ワンタッチで起動するソフトウェアを変更する（PPKの応用操作1）」（66ページ）をご覧ください。

決められた一連の動作を自動的に実行するには

PPKは単に1つのソフトウェアを起動するだけでなく、決められた一連の動作を自動的に実行する「スクリプト」を起動することもできます。付属の「Smart Script」ソフトウェアを使ってこのスクリプトを作成できます。「Smart Script」ソフトウェアを使うといろいろな動作を設定することができますが、①インターネット接続会社へダイヤルアップ接続し、電子メールを取り込んだり、②インターネット接続会社へダイヤルアップ接続し、ウェブブラウザーを起動し購読データを更新したりするときは「Smart Script」ソフトウェアを使ってスクリプトを記述する必要はありません。「PPK Setup」ソフトウェアを使って、画面の指示に従って設定するだけで上記の①や②を実行するのに必要なスクリプトを作成できます。この「PPK Setup」ソフトウェアの機能を使って作成するスクリプトを「プリセットスクリプト」と言います。この使用例を「ワンタッチで電子メールを確認する（PPKの応用操作2）」（67ページ）で紹介します。67ページから説明されている手順に従って設定を行うとPPKを押すだけで電子メールを受信できるようになります。

「Smart Script」ソフトウェアについて詳しくは、「Smart Script」のヘルプをご覧ください。

タイマー機能について

PPKに割り当てることのできるソフトウェアやスクリプトは、同じように本機に内蔵されてい るタイマーに割り当てることもできます。内蔵タイマーに割り当てると、指定した日時になったときに自動的に本機の電源が入り、割り当てられたソフトウェアやスクリプトが起動するようになります。
この設定も「PPK Setup」ソフトウェアを使います。基本的な設定のしかたについては「内蔵タイマーでソフトウェアを起動する（内蔵タイマー設定の基本操作）」（70ページ）をご覧ください。プリセットスクリプトを作成し、設定時間に自動的に電子メールを取り込む方法については「内蔵タイマーで自動的に電子メールを確認する（内蔵タイマー設定の応用操作）」（72ページ）をご覧ください。

ワンタッチでソフトウェアを起動する（PPKの基本操作）

各プログラマブルパワーキーに割り当てられたソフトウェアをワンタッチで起動できます。
各キーには、初期設定でそれぞれ以下のソフトウェアが割り当てられています。

キー名	割り当てられたソフトウェア
P1（MAIL）	電子メールソフトウェア
P2（INTERNET）	ウェブブラウザー
P3（PICTURE）	「PictureGear」ソフトウェア
P4（MEMORY STICK）	「PictureGear SlideShow Player」ソフトウェア
P5（SETUP）	「PPK Setup」ソフトウェア
P6（HELP）	本機のオンラインマニュアル

目的に合わせて、P1～P6キーのいずれかを押す。
キーに割り当てられたソフトウェアが起動します。

「PictureGear SlideShow Player」ソフトウェアについて
P4キーに割り当てられている「PictureGear SlideShow Player」ソフトウェアは、メモリースティックに「Memory Stick形式」で記録された画像データをスライドショーで表示するソフトウェアです。本機で作成した画像データをメモリースティックへ記録し、スライドショーで表示するときは、「PictureGear」ソフトウェアを使って「Memory Stick形式」に変換して保存する必要があります。詳しくは、「PictureGear」ソフトウェアのヘルプをご覧ください。

各キーに割り当てられたソフトウェアは「PPK Setup」ソフトウェアで変更することができます
手順について詳しくは、「ワンタッチで起動するソフトウェアを変更する（PPKの応用操作1）」（66ページ）をご覧ください。

ワンタッチで起動するソフトウェアを変更する（PPKの応用操作1）

ここでは、プログラマブルパワーキーに初期設定で割り当てられたソフトウェアを好みのソフトウェアが起動するように変更する方法を説明します。ここでは、P6キーを押すと「エクスプローラ」が起動するようにしてみます。

1 キーボードのP5キーを押すか、または画面右下の をダブルクリックする。

「PPK Setup」画面が表示されます。

2 ［PPK4,5,6設定］タブをクリックする。

3 P6をクリックする。

「機能の割り当て（変更の確認）」画面が表示されます。

4 「現在の設定を無効にして別の設定ファイルを割り当てる」をクリックし、［次へ>］をクリックする。

「登録方法の選択」画面が表示されます。

5 「現在登録されている設定をリストから選択する」をクリックし、［次へ>］をクリックする。

「機能の割り当て」画面が表示されます。

6 ［エクスプローラ］をクリックする。

7 ［完了］をクリックする。

これで設定は終わりです。P6キーを押すと「エクスプローラ」が起動します。

ちょっと一言

PPKの設定を変更したときのためにPPK用のプレートが付属しています。新しく割り当てたソフトウェア名をペンでプレートに記入し、PPKの上に置くと、新しい設定を忘れずにすみます。

ワンタッチで電子メールを確認する（PPKの応用操作2）

プログラマブルパワーキーの便利な使いかたの例として、ワンタッチで電子メールを確認できるよう設定してみましょう。

ご注意

この機能を使う前に、以下の点を確認してください。

- インターネットに接続するための接続会社と契約は済んでいますか。
- 電子メールのアカウントを取得していますか。
- Windows 98の「ダイヤルアップネットワークの設定」は済んでいますか。
- 「ダイヤルアップネットワークの設定」で、「パスワードを保存する」にチェックはついていますか。
- 電子メールソフトウェアの設定は済んでいますか。

ここでは、P1キーを押すだけで電子メールを確認できるようにしてみます。

1 キーボードのP5キーを押すか、または画面右下の をダブルクリックする。

「PPK Setup」画面が表示されます。

2 [PPK1,2,3設定] タブをクリックする。

3 P1をクリックする。

「機能の割り当て（変更の確認）」画面が表示されます。

4 「現在の設定を無効にして別の設定を割り当てる」をクリックし、[次へ>] をクリックする。

「登録方法の選択」画面が表示されます。

5 「新規作成3：メール取り込み等のプリセットスクリプトの設定をする」をクリックし、[次へ>] をクリックする。

「プリセットスクリプトの設定」画面が表示されます。

次のページにつづく

6 プリセットスクリプトを設定する。

以下の手順で設定します。

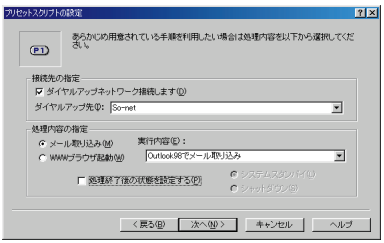
① [ダイヤルアップネットワーク接続します] をクリックし、ダイヤルアップ先を設定する。

下矢印ボタンをクリックして、「インターネット接続ウィザード」などで設定した、ダイヤルアップ先を選びます。

② [メール取り込み] をクリックし、実行内容を設定する。

下矢印ボタンをクリックして、使用する電子メールソフトウェアを選びます。

記入例



ちょっと一言

「処理終了後の状態を設定する」をクリックすると、電子メールの確認が終わったあと、自動的に本機の電源を切ったり、システムスタンバイモードに移行するように設定することもできます。

7 [次へ>] をクリックする。

「インフォメーションランプの設定」画面が表示されます。

8 「メールの着信時に点灯する」をクリックする。

メールの着信があった場合、本機のディスプレイの右上にある (インフォメーション) ランプが点灯するように設定されます。

9 [次へ>] をクリックする。

「設定名と詳細情報の入力」画面が表示されます。

10 **ファイル名やコメントを入力する。**

ここで入力したファイル名とコメントは、「PPK Setup」画面に表示されます。

11 **［完了］をクリックする。**

これで設定は終わりです。P1キーを押すと、指定した電子メールソフトウェアが起動して、電子メールを自動的に取り込みます。

内蔵タイマーでソフトウェアを起動する（内蔵タイマー設定の基本操作）

内蔵タイマーを使うと、本機が①通常の動作状態のとき、②システムスタンバイモードのとき、③電源を切った状態のとき、いずれの状態でも好きな時刻に好みのソフトウェアを起動できます。
プログラマブルパワーキーにソフトウェアを割り当てるときと同様に、スクリプトファイルを好みの時刻に実行することもできます。

ご注意

本機の電源を切った状態から内蔵タイマーでソフトウェアを起動するとき、Windowsのログインのパスワードを設定している場合は、Windows起動時にパスワード入力画面が表示されます。この画面でパスワードを入力するまでWindowsは起動せず、内蔵タイマーで設定したソフトウェアは起動しませんのでご注意ください。

1 キーボードのP5キーを押すか、または画面右下の をダブルクリックする。

「PPK Setup」画面が表示されます。

2 ［タイマー設定］タブをクリックする。

3 をクリックする。

「登録方法の選択」画面が表示されます。

4 「現在登録されている設定をリストから選択する」をクリックし、［次へ>］をクリックする。

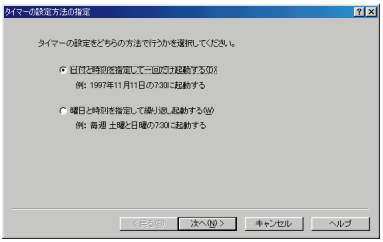
「機能の割り当て」画面が表示されます。

5 「設定名」からタイマーで起動したいソフトウェアを選び、［完了］をクリックする。

［タイマー設定］タブに戻ります。

6 ［設定］をクリックする。

「タイマーの設定方法の指定」画面が表示されます。



「日付と時刻を指定して一回だけ起動する」を選ぶと設定した1回のみ、「曜日と時刻を指定して繰り返し起動する」を選ぶと、毎週決まった時間にタイマーが起動します。

7 **［次へ>］をクリックする。**

「タイマー設定」画面が表示されます。

8 **タイマー起動時刻を設定する。**

手順6で「日付と時刻を指定して一回だけ起動する」を選んだときは日付と時刻を、「曜日と時刻を指定して繰り返し起動する」を選んだときは曜日と時刻を設定します。

9 **［次へ>］をクリックする。**

「タイマー起動後の処理」画面が表示されます。

10 **［完了］をクリックする。**

自動的にソフトウェアを起動したあと、本機の電源を切ったり、一定時間後にシステムスタンバイモードにすることもできます

上記の手順9の「タイマー起動後の処理」画面で［時間による制御］をクリックし、処理を中断するまでの時間などを設定します。

ご注意

- 上記の手順9の「タイマー起動後の処理」画面の［起動プロセスによる制御］は、一部のソフトウェアでは正しく機能しないことがあります。詳しくは、「PPK Setup」ソフトウェアのヘルプをご覧ください。
- タイマー起動後、実際にソフトウェアが動作を始めるまでに時間がかかることがあります。どれくらい時間がかかるかを、あらかじめ確認しておくことをおすすめします。
- タイマーが設定されているときに、停電が起きたり、本機の電源コードをコンセントから抜いたりすると、タイマー機能が正常に動作しないことがあります。この場合は、いったん本機を起動してください。タイマーが再度セットされ、起動時以降のタイマーの設定が有効になります。

内蔵タイマーで自動的に電子メールを確認する（内蔵タイマー設定の応用操作）

内蔵タイマーの便利な使いかたの例として、設定した時刻になったら自動的に電子メールを確認するよう設定してみましょう。

ご注意

この機能を使う前に、以下の点を確認してください。

- インターネットに接続するための接続会社と契約は済んでいますか。
- 電子メールのアカウントを取得していますか。
- Windows 98の「ダイヤルアップネットワークの設定」は済んでいますか。
- 「ダイヤルアップネットワークの設定」で、「パスワードを保存する」にチェックはついていますか。
- 電子メールソフトウェアの設定は済んでいますか。

1 キーボードのP5キーを押すか、または画面右下の をダブルクリックする。

「PPK Setup」画面が表示されます。

2 ［タイマー設定］タブをクリックする。

3 をクリックする。

「登録方法の選択」画面が表示されます。

4 「新規作成3：メール取り込み等のプリセットスクリプトの設定をする」をクリックし、［次へ>］をクリックする。

「プリセットスクリプトの設定」画面が表示されます。

5 プリセットスクリプトを設定する。

以下の手順で設定します。

① ［ダイヤルアップネットワーク接続する］をクリックし、ダイヤルアップ先を設定する。

下矢印ボタンをクリックして、「インターネット接続ウィザード」などで設定した、ダイヤルアップ先を選びます。

② [メール取り込み] をクリックし、実行内容を設定する。
下矢印ボタンをクリックして、使用する電子メールソフトウェアを選びます。

ちょっと一言

「処理終了後の状態を設定する」をクリックすると、電子メールの確認が終わったあと、自動的に本機の電源を切ったり、システムスタンバイモードに移行するように設定することもできます。

6 **[次へ>] をクリックする。**

「インフォメーションランプの設定」画面が表示されます。

7 **「メールの着信時に点灯する」をクリックする。**

メールの着信があった場合、本機のディスプレイの右上にある (インフォメーション) ランプが点灯するように設定されます。

8 **[次へ>] をクリックする。**

「設定名と詳細情報の入力」画面が表示されます。

9 **ファイル名やコメントを入力する。**

ここで入力したファイル名とコメントは、「PPK Setup」画面に表示されます。

10 **[完了] をクリックする。**

[タイマー設定] タブに戻ります。

11 **[設定] をクリックする。**

「タイマー設定方法の指定」画面が表示されます。
「日付と時刻を指定して一回だけ起動する」を選ぶと設定した1回のみ、「曜日と時刻を指定して繰り返し起動する」を選ぶと、毎週決まった時間にタイマーが起動します。

次のページにつづく

12 **［次へ>］をクリックする。**

「タイマー設定」画面が表示されます。

13 **タイマー起動時刻を設定する。**

手順11で「日付と時刻を指定して一回だけ起動する」を選んだときは日付と時刻を、「曜日と時刻を指定して繰り返し起動する」を選んだときは曜日と時刻を設定します。

14 **［次へ>］をクリックする。**

「タイマー起動後の処理」画面が表示されます。

15 **［完了］をクリックする。**

これで設定は終わりです。指定した時刻になると電子メールソフトウェアが起動して、電子メールを自動的に取り込みます。

自動的に電子メールを確認したあと、本機の電源を切ったり、一定時間後にシステムスタンバイモードにすることもできます

上記の手順14の「タイマー起動後の処理」画面で［時間による制御］をクリックし、処理を中断するまでの時間などを設定します。

ご注意

- タイマー起動後、実際にソフトウェアが動作を始めるまでに時間がかかることがあります。どれくらい時間がかかるかを、あらかじめ確認しておくことをおすすめします。
- タイマーが設定されているときに、停電が起きたり、本機の電源コードをコンセントから抜いたりすると、タイマー機能が正常に動作しないことがあります。この場合は、いったん本機を起動してください。タイマーが再度セットされ、起動時以降のタイマーの設定が有効になります。

（インフォメーション）ランプの消灯のしかたについて

インフォメーションランプは手順7の「インフォメーションランプの設定」画面で選んだ条件に従って点灯します。 点灯しているインフォメーションランプは本機の電源を切った状態、システムスタンバイモードのいずれの状態でも消えません。点灯しているインフォメーションランプを消灯するには、本機の動作中にタスクバーで点滅している をクリックします。

PPK Setupソフトウェアの制限事項について

電話回線を使用するソフトウェアを起動する場合は

通信状態やサーバーの状態によっては、正常に回線を切断できないことがあります。

プログラム実行中は実行状態を監視して、異常が発見された場合には手動で回線を切断してください。また、タイマー起動するときは、一定時間後に電源を切った状態へ移行するように設定しておくことをおすすめします。このように設定しておくことで、回線を正常に切断できないときでも、強制的に切断できます。

電話回線自動接続機能を持つ電子メールソフトウェアを使うときは

電子メールソフトウェアには、「Microsoft Outlook Express」などの、電話回線に自動的に接続する機能を持つものもあります。

このような機能を持った電子メールソフトウェアを使用するときは、「PPK Setup」のダイヤルアップ機能（スクリプトなど）を使ってインターネットに接続するよりも、電子メールソフトウェアの機能を使ってインターネットに接続したほうが、接続不良などの異常事態が発生したときに、安定して回線を切断できる可能性が高くなります。

スクリプト実行中はパソコンの操作をしないでください

「PPK Setup」の設定による電子メール取り込みには「Smart Script」で作成したスクリプトを使用しています。

これらのスクリプトを実行中にパソコンの操作をすると、誤動作の原因となりますのでご注意ください。

静止画を取り込む

メモリースティックを使ってデジタルビデオカメラレコーダーから静止画を取り込んだり、i.LINKコネクターに接続したi.LINK対応機器から静止画を取り込んだりすることができます。取り込んだ静止画を電子メールに添付して送ることもできます。

メモリースティックを使う

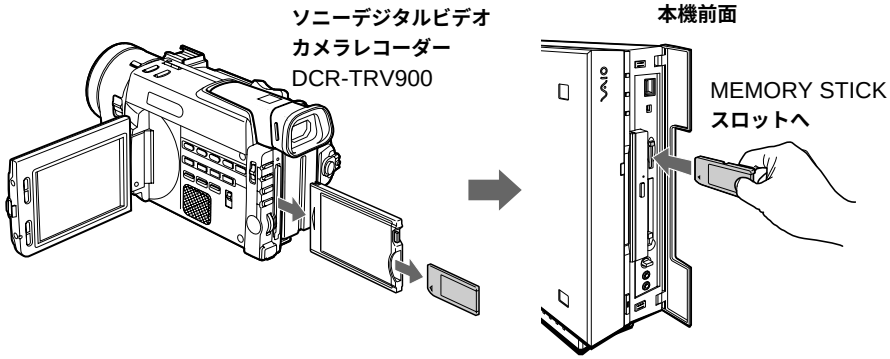
メモリースティックを使って、デジタルビデオカメラレコーダーなどメモリースティック対応機器から静止画を本機に簡単に取り込むことができます。
ここではソニーデジタルビデオカメラレコーダーDCR-TRV900からメモリースティックを使って静止画を取り込んでみます。

1 デジタルビデオカメラレコーダーにメモリースティックを取り付け、静止画を撮影する。

デジタルビデオカメラレコーダーへのメモリースティックの取り付けおよび静止画の撮影について詳しくは、デジタルビデオカメラレコーダーの取扱説明書をご覧ください。

2 デジタルビデオカメラレコーダーからメモリースティックを取りはずし、本機のMEMORY STICK（**メモリースティック**）**スロットへ入れる。**

メモリースティックの取りはずしかたについて詳しくは、デジタルビデオカメラレコーダーの取扱説明書をご覧ください。



「PictureGear SlideShow Player」ソフトウェアが起動し、静止画のスライドショーが始まります。

3 **画面下部にあるコントロールバーの（閉じる）ボタンをクリックする。**

「PictureGear SlideShow Player」ソフトウェアが終了します。

4 **キーボードのP3キーを押す。**

「PictureGear」ソフトウェアが起動し、メモリースティックに保存された静止画が一覧表示されます。

「PictureGear」ソフトウェアの使いかたについて詳しくは、「PictureGear」ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

ちょっと一言

手順2でメモリースティックを本機のMEMORY STICK（メモリースティック）スロットに入れたときに、最初から「PictureGear」ソフトウェアが起動するように設定することもできます。「PPK Setup」ソフトウェアの［メモリースティック設定］タブで設定します。詳しくは「PPK Setup」ソフトウェアのヘルプをご覧ください。

MPEG1フォーマットの動画を取り込むこともできます

MPEG1フォーマットで動画を撮影できる機能を持ったデジタルビデオカメラレコーダーをご使用の場合は、手順1で静止画のかわりに動画を撮影することにより、同様の手順で動画を取り込むことができます。動画の撮影について詳しくは、デジタルビデオカメラレコーダーの取扱説明書をご覧ください。

i.LINK対応機器から静止画を取り込む

i.LINK対応機器で録画した映像、または撮影している映像から、お好みの場面を静止画として本機に取り込めます。i.LINK対応機器から静止画を取り込むには、付属の「DVgate still」または「Smart Capture」ソフトウェアを使い、以下の流れに沿って行います。

i.LINK対応機器と本機を接続する

i.LINK対応機器の接続について詳しくは、「AV機器をつなぐ」（86ページ）をご覧ください。

「DVgate still」または「Smart Capture」ソフトウェアを起動する

起動後は、「DVgate still」または「Smart Capture」ソフトウェアを使って静止画を取り込みます。
各ソフトウェアの使いかたについて詳しくは、それぞれのソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

静止画を電子メールで送る

メモリースティックに対応した機器またはi.LINK対応機器から取り込んだ静止画を電子メールに添付して送ることができます。静止画を電子メールに添付して送るには、付属の「Smart Capture」または「PictureGear」ソフトウェアを使い、以下の流れに沿って行います。

「Smart Capture」ソフトウェアを使うときは

i.LINK対応機器から静止画を取り込む

i.LINK対応機器からの静止画の取り込みかたについては、「i.LINK対応機器から静止画を取り込む」（78ページ）をご覧ください。

「Smart Capture」ソフトウェアを起動する

起動後は、「Smart Capture」ソフトウェアを使って静止画を電子メールで送ります。
「Smart Capture」ソフトウェアの使いかたについて詳しくは、「Smart Capture」の取扱説明書をご覧ください。

「PictureGear」ソフトウェアを使うときは

メモリースティックを使って静止画を取り込む

メモリースティックを使って静止画を取り込む方法については、「メモリースティックを使う」（76ページ）をご覧ください。

電子メールソフトウェアを起動する

起動後は、送りたい静止画を、「PictureGear」から電子メールソフトウェアの静止画を添付したいメッセージにドラッグアンドドロップします。
電子メールへの静止画の添付のしかたについて詳しくは、お使いの電子メールソフトウェアのヘルプをご覧ください。

ご注意

静止画によっては、電子メールで送信するのに向かない容量が大きいものもあります。送信する前に、静止画のファイルの容量をご確認ください。

動画を取り込む

i.LINKコネクターに接続したi.LINK対応機器から動画を取り込むことができます。取り込んだ動画を電子メールに添付して送ることもできます。

i.LINK対応機器から動画を取り込む

i.LINK対応機器で録画した映像、または撮影している映像を動画として本機に取り込めます。i.LINK対応機器から動画を取り込むには、付属の「Smart Capture」ソフトウェアを使い、以下の流れに沿って行います。

i.LINK対応機器と本機を接続する

i.LINK対応機器の接続について詳しくは、「AV機器をつなぐ」（86ページ）をご覧ください。

「Smart Capture」ソフトウェアを起動する

起動後は、「Smart Capture」ソフトウェアを使って動画を取り込みます。
「Smart Capture」ソフトウェアの使いかたについて詳しくは、「Smart Capture」の取扱説明書をご覧ください。

ご注意

「Smart Capture」ソフトウェアで取り込んだ動画のファイル形式はDV形式ではなく、AVI形式またはアニメーションGIF形式になります。

動画を電子メールで送る

i.LINK対応機器から取り込んだ動画を電子メールに添付して送ることができます。動画をメールに添付して送るには、付属の「Smart Capture」ソフトウェアを使い、以下の流れに沿って行います。

動画を取り込む

i.LINK対応機器から動画を取り込みます。
i.LINK対応機器からの動画の取り込みかたについては、「i.LINK対応機器から動画を取り込む」（81ページ）をご覧ください。

「Smart Capture」ソフトウェアを起動する

起動後は、「Smart Capture」ソフトウェアを使って動画を電子メールで送ります。
「Smart Capture」ソフトウェアの使いかたについて詳しくは、「Smart Capture」の取扱説明書をご覧ください。

音楽CD／ビデオCDを再生する

音楽CDやビデオCDを再生して楽しむことができます。音楽CDを再生して音楽を聞きながら、他のソフトウェアを操作することもできます。（一部ソフトウェアを除きます。）

再生するには付属の「Digital Media Park」ソフトウェアを使います。

「Digital Media Park」を使うとMIDIファイルなどの音声・動画ファイルを再生することもできます。「Digital Media Park」を使うには以下の流れに沿って行います。

画面上の［AV再生の設定］をダブルクリックする

「Digital Media Park」を設定するための画面が表示されます。

画面の指示に従って操作する

再生する

設定が終了すると、画面上部に「Digital Media Park」の中の「Media Bar」操作画面が表示されます。

「Digital Media Park」の使いかたについては、「Digital Media Park」の取扱説明書をご覧ください。

ちょっと一言

一度「Digital Media Park」ソフトウェアの再生のための設定が終了すると、［AV再生の設定］アイコンは表示されず、2回目以降はすぐに再生を楽しむことができます。

いろいろなソフトウェアを使う

本機は、さまざまな用途に応じたソフトウェアを付属しています。これまで説明してきた使いかたの他にも、幅広く本機を活用していただけます。
ここでは、付属のソフトウェアの中から一部をご紹介します。

❑ 画像データを管理する

「PictureGear」ソフトウェアを使います。
デジタルスチルカメラなどから読み込んだいろいろな種類の画像データを表示し、まとめて管理できます。
使いかたについて詳しくは、「PictureGear」ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

❑ 仮想世界を散歩する

「さぱり（3Dマルチユーザーチャットワールド）」ソフトウェアを使います。
インターネット上に点在する仮想世界を、現実の世界のように散歩します。また、「さぱり」の「公園」や「コースト」などのマルチユーザー対応の仮想世界ではチャット（会話）も楽しめます。使いかたについて詳しくは、「さぱり」のオンラインマニュアルをご覧ください。

❑ 地図を見る

「Navin' You」ソフトウェアを使います。
市販されているナビ研規格（S規格／Ver.2.01／Ver.2.1）、および株式会社アルプス社製「プロアトラス」シリーズに準拠している地図ディスクを見たり、ルート検索などが行えます。お使いになる地図によっては機能の制限があります。
使いかたについて詳しくは、「Navin' You」ソフトウェアのオンラインマニュアルをご覧ください。

このほかにも、以下のような使いかたができます。

- 画像を加工する
- インターネットのホームページを見る
- 辞書を使う

別冊の「付属ソフトウェア一覧」には、本機に付属のソフトウェアをまとめてご紹介しています。そちらもあわせてご覧ください。

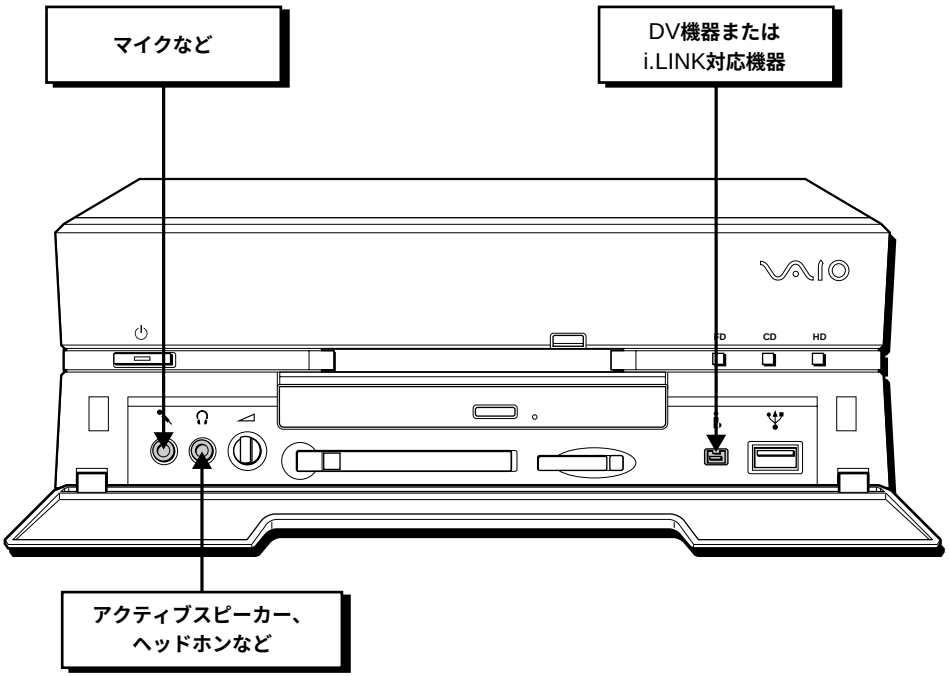
拡張編

周辺機器を接続する 86
本体を拡張する 90

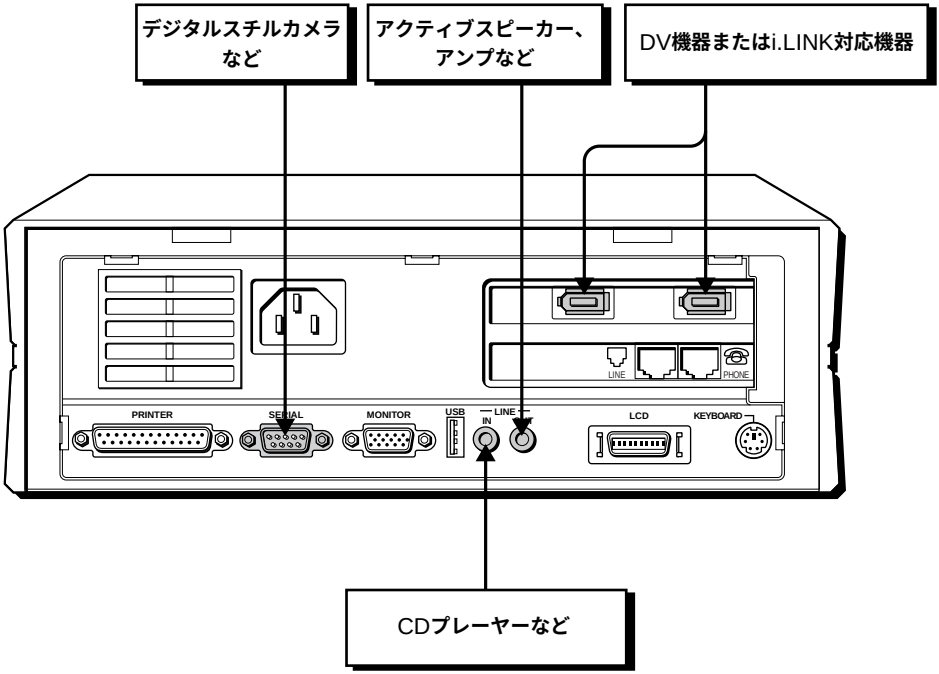
AV機器をつなぐ

本機とお手持ちのAV機器を接続し、付属のさまざまなソフトウェアを使うことで、AV環境をよりお楽しみいただけます。
接続するAV機器の取扱説明書や、ソフトウェアのヘルプなどもあわせてご覧ください。

前面



後面



i.LINK対応機器について

i.LINK対応機器として、DV端子を備えたソニー製のデジタルビデオカメラレコーダーを接続することができます。

ご注意

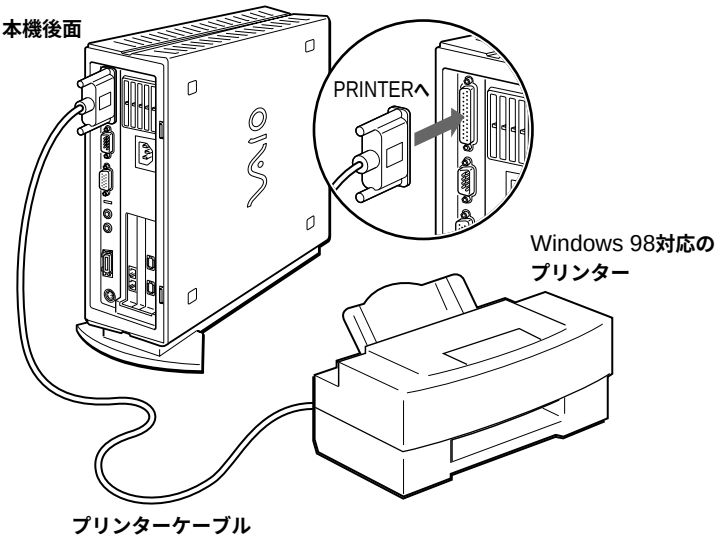
- 一度に接続できるデジタルビデオカメラレコーダーは1台のみです。ソフトウェアの制限により、同時に2台のデジタルビデオカメラレコーダーを接続することはできません。
- 本機のi.LINKコネクターは最大400Mbpsのデータ転送に対応していますが、実際の転送速度は接続したi.LINK対応機器の転送速度により変わります。
- 接続のしかたや画像の取り込みかたは、接続するi.LINK対応機器や使用するソフトウェアによって異なります。詳しくは、i.LINK対応機器の取扱説明書や、本機に付属している「DVgate still」や「Smart Capture」などの各ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

プリンターをつなぐ

Windows 98に対応しているプリンターを本機につないで、作成した書類などを印刷できます。
プリンターケーブルを使って本機につなぎます。

ご注意

- すべての機器の電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてから接続してください。
- 接続後は、周辺機器の電源を入れてから本機の電源を入れてください。
- Windows 98に対応していないプリンターを本機につないでも、正常に動作しません。



プリンターを使用するには

プリンターを使用するには、プリンターに付属のドライバーを本機にインストールする必要があります。
詳しくはプリンターおよび付属のMicrosoft Windows 98のファーストステップガイドをご覧ください。

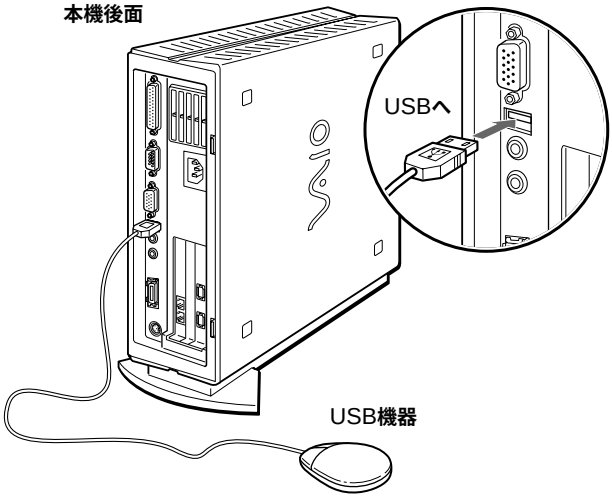
ドライバーとは

どのような周辺機器がどのように接続されているかをパソコン側に知らせ、周辺機器を正しく動かすために必要なソフトウェアです。プリンターのドライバーを本機にインストールすることにより、本機からプリンターの動作をコントロールできるようになります。

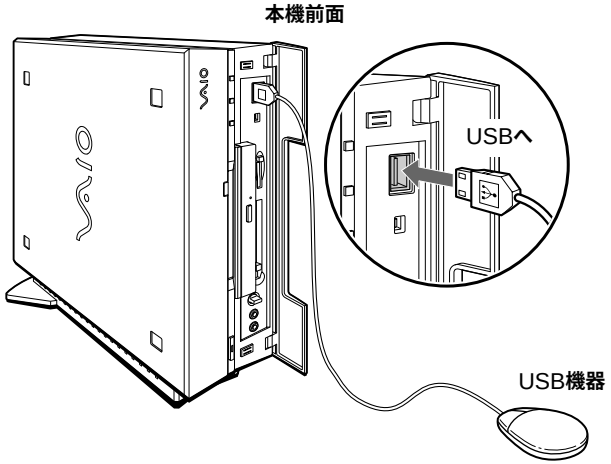
USB機器をつなぐ

本機のUSBコネクターを使って、USB機器をつなぐことができます。詳しくは接続する機器の取扱説明書をご覧ください。

後面パネルのコネクターを使うとき



前面パネルのコネクターを使うとき



拡張ボードを増設する

本機では拡張ボードと呼ばれる別売り品を装着することで、さまざまな機能を拡張し、よりご自分にあった作業環境を構築することができます。

拡張ボードの種類

本機では「PCIリビジョン2.1」という規格に対応した拡張ボードを取り付けることができます。拡張ボードをお買い求めの際は、Windows 98に対応しているかどうかの他、PCI規格に対応していることをご確認ください。

PCV-L300以外では空きスロット（拡張ボードを増設できる場所）がありませんので、拡張ボードを増設する前に内蔵のボードを取りはずす必要があります。

PCV-L300では空きスロットが1つあり、PCI拡張ボードを1枚取り付けることができます。

拡張ボードの大きさについて

本機に取り付けられる拡張ボードの大きさはハーフサイズ（長さ174.63mm／6.875インチ）以下のものです。

増設できるSCSIボード、LANボードについて

VAIOテクニカルレスポンスセンターまたは販売店にお問い合わせください。

VAIOテクニカルレスポンスセンターのホームページ（http://www.ittrc.sony.co.jp/）では、増設できる拡張ボードの情報を掲載しています。

プラグアンドプレイについて

「プラグアンドプレイ」とは、拡張ボードを装着するだけで特別な設定をしなくてもすぐに使用できる状態になる機能です。本機に取り付けられるPCI規格の拡張ボードはプラグアンドプレイに対応しています。PCI規格の拡張ボードはボードを取り付けた後、リソースの設定が自動的に行われるので、ご自分で面倒な設定をする必要がありません。

リソースについて

拡張ボードは一般的にそれぞれ専用の割り込み番号（IRQ）、メモリー、DMA、I／Oポートなどの「リソース」（資源）を使用します。
PCI規格の拡張ボードは本機が予約してあるリソースに自動的にリソースが設定されます。
現在使用中のリソースを確認するには、以下の手順に従います。

1 **［マイコンピュータ］を右クリックする。**
ショートカットメニューが表示されます。

2 **［プロパティ］をクリックする。**
「システムのプロパティ」ウィンドウが表示されます。

3 **［デバイスマネージャ］タブをクリックする。**
「デバイスマネージャ」ウィンドウが表示されます。

4 **［コンピュータ］をダブルクリックする。**
「コンピュータのプロパティ」ウィンドウに現在使用中のリソースが表示されます。

拡張ボード取り付けの流れ

以下の流れに沿って、拡張ボードを増設します。

本機の電源を切り、電源コードをコンセントから抜く

本機前面の電源ランプが消灯していることを確認してください。電源の切りかたについて詳しくは「電源を切る」（27ページ）をご覧ください。

拡張ボードを取り付ける

拡張ボードの取り付けかたについて詳しくは、「拡張ボードを取り付ける」（93ページ）をご覧ください。

本機の電源を入れる

電源の入れかたについて詳しくは「電源を入れる」（26ページ）をご覧ください。

ドライバーの設定、インストールを行う

拡張ボードが本機に認識されるとメッセージが表示されるので、拡張ボードの取扱説明書なども参照の上、指示に従って操作してください。

ドライバーとは

どのような周辺機器がどのように接続されているかをパソコン側に知らせ、周辺機器を正しく動かすために必要なソフトウェアです。拡張ボードを増設したときには、ドライバーのインストールが必要となる場合があります。

拡張ボードを取り付ける

以下の手順に従って拡張ボードを取り付けます。
ここでは、PCV-L300を例に、拡張ボードを取り付ける手順を説明します。

取り付けるときの注意

- 拡張ボードの取り付けや取りはずしは、必ず本機および周辺機器の電源を切り、電源コードをコンセントから抜いた状態で行ってください。電源を入れたまま拡張ボードを取り付けたり取りはずしたりすると、拡張ボードや本機、周辺機器が破損することがあります。
- 拡張ボードの部品には直接手を触れないでください。人体の静電気によって部品が故障することがあります。拡張ボードを触る前には、金属製のものに触れて体内の静電気を放電してください。
- じゅうたんの上など、静電気の発生しやすいところに拡張ボードを放置しないでください。静電気の影響で拡張ボードの部品が壊れてしまうことがあります。
- コネクター部に直接手を触れないようにご注意ください。
- 拡張ボード内部には精密な電子部品があります。落としたり、強い衝撃を与えないようにご注意ください。
- 拡張ボードを本機から取りはずすときは、必ず本機の拡張ボードの取り扱いかたに従ってください。無理に引き抜くと拡張ボードや本機の故障の原因になります。
- 拡張ボードを水で濡らさないでください。
- 縦置きスタンドを使用しているときは、本機から縦置きスタンドを取りはずしてください。

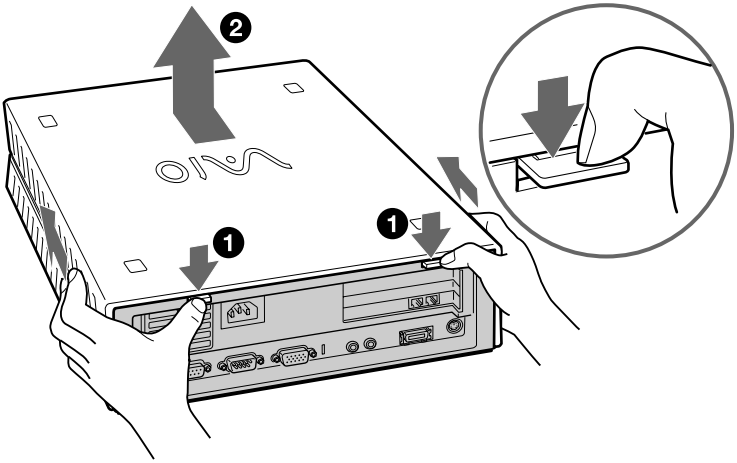
1 本機と周辺機器の電源を切り、すべての接続ケーブルを取りはずす。

次のページにつづく

2 しばらくしてから、本機のカバーを取りはずす。

電源を切ったあとすぐは、本機の内部が熱くなっており、やけどをする可能性があります。本機が冷えるのを待ってから作業を行ってください。

❶ 本機後面の2か所のツメを下げる。
❷ カバーを矢印方向にずらして取りはずす。

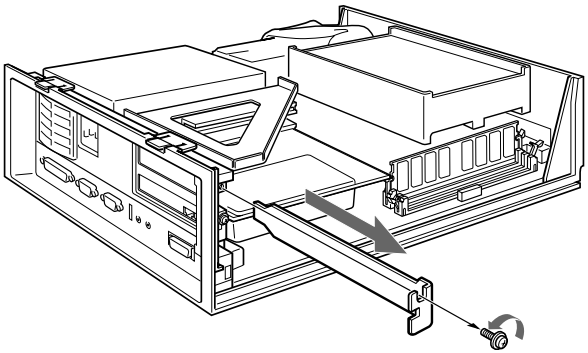


ちょっと一言

本機を縦置きでお使いのかたで、本機の底面に付属のフットを取り付けていない場合はカバーを取りはずす前に一時的にフットを取り付けると作業しやすくなります。フットの取り付けかたについては、「はじめにお読みください」の「設置する」をご覧ください。

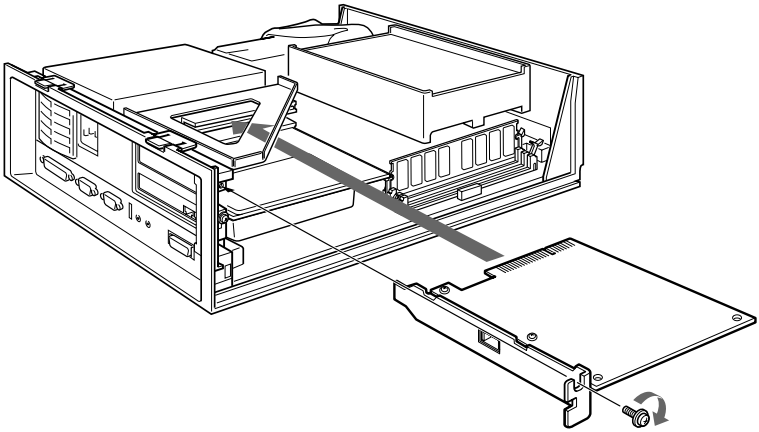
3 拡張ボードを取り付けるスロットのカバーのネジをはずし、カバーを取りはずす。

内部の基板を傷つけないようにご注意ください。



4 拡張ボードを取り付ける。

詳しくは、拡張ボードの取扱説明書をご覧ください。



5 本機のカバーを取り付ける。

6 手順1ではずした周辺機器を接続し、本機の電源を入れる。

Windows 98が起動すると、「新しいハードウェアが検出されました。必要なソフトウェアをインストールしています。」というメッセージが表示されるので、画面の指示とボードの取扱説明書に従って操作します。

拡張ボードを取りはずすには

取り付けとは逆の手順で取りはずします。取りはずしの作業は、本機と周辺機器の電源を切り、すべての接続ケーブルを取りはずしてから行ってください。

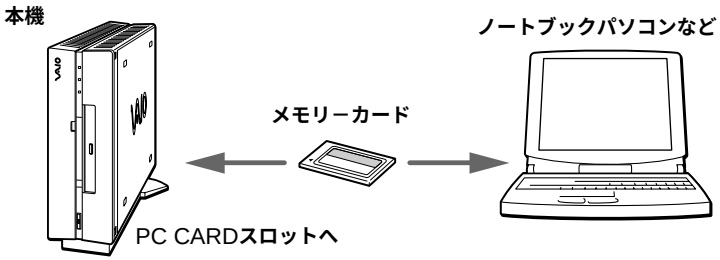
PCカードを使う

本機には、PC Cardタイプ1とタイプ2に準拠したPCカードを挿入できるPCカードスロットがあります。また 、本機のPC CARD（PCカード）スロットはCard BusおよびZV（Zoomed Video）Portにも対応しています。

PCカードとは

PC Card規格に準拠した、着脱可能な機能拡張デバイスです。形はクレジットカードに似ていますが、やや大きくて厚みがあります。
主なPCカードには以下のような種類があります。

メモリーカード
データをフラッシュメモリーに保存します。PCカードに対応したデジタルスチルカメラで撮影した画像であれば、PCカードを本機に取り付けてそのまま取り込めます。
また、本機やPCカードに対応した機器で作成したデータをメモリーカードに保存して、データをやりとりできます。



SCSI**カード**
MOドライブやスキャナーなどのSCSIデバイスを接続できます。

ネットワークカード
イーサネットなどのネットワークに接続できます。

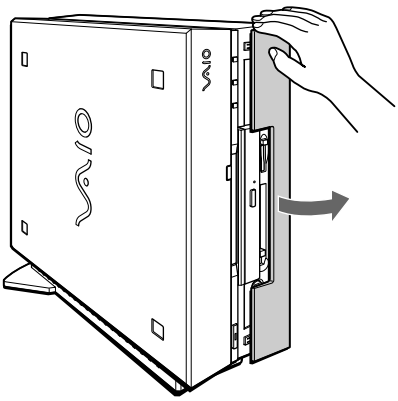
TA（**ターミナルアダプター**）**カード**
ISDN回線に接続できます。

ご注意
PCカードによっては本機で使用できないものや、機能が制限されるものがあります。

PCカードを取り付ける

PCカードを取り付けるときに本機の電源を切る必要はありません。

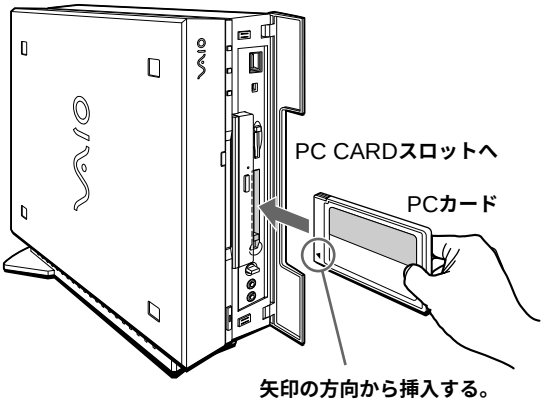
1 本機の前面パネルのふたを開ける。



2 カードをPC CARD（PCカード）スロットに挿入する。

スロットの奥にあるコネクターに、カードがしっかりと固定されるまで押し込みます。カードを挿入すると、イジェクトボタンが出ます。

カードがうまく入らない場合は、無理にカードを押し込まずに、カードの挿入方向を確認してからもう1度挿入し直してください。



取り付けたあとの使いかたについては、PCカードの取扱説明書をご覧ください。

PCカードを取り出すには

ご注意

カードを取り出すときは、必ず以下の手順にしたがってください。誤った取り出しかたをすると、システムが正常に動作しない可能性があります。

1 ［スタート］ボタンをクリックして［設定］にポインターを合わせ、［コントロールパネル］をクリックする。

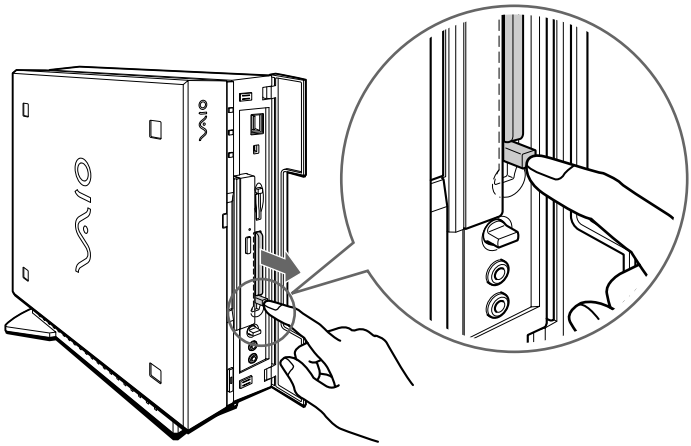
2 ［PCカード］をダブルクリックする。

3 リストから取り出したいPCカードを、次に［終了］を順にクリックする。

4 「このデバイスは安全に取り外せます。」と表示されたら［OK］をクリックする。

5 PC CARD（PCカード）スロットのイジェクトボタンを押す。

カードがコネクターからはずれます。カードの端を持って、スロットから引き抜いてください。



メモリーを増設する

メモリーを増設すると、データの処理速度や複数のアプリケーションソフトウェアを同時に起動したときの処理速度が向上します。

ご注意

- メモリー増設の際は、本機内部の部品や基板などの角で手や指をけがしないように注意深く作業してください。
- メモリーの増設についてのご相談やご質問は、VAIOテクニカルレスポンスセンター修理窓口までご連絡ください。
- メモリーの増設は注意深く行う必要があります。取り付けかたや取りはずしかたを誤ると、本機の故障の原因になります。電気的な専門知識が必要な作業ですので、販売店などに取り付けを依頼されることをおすすめします。
- メモリー増設の際には、本機内部のケーブルに指などを引っかけてはずさないように注意してください。

メモリーモジュールを取り付ける

別売りのメモリーモジュールを取り付けることにより、メモリーを増設します。

本機専用のメモリーモジュールとして、PCVA-MM64P/MM128P（別売り）があります。

本機にはメモリーモジュールを取り付けるスロットが2つあり、標準では64Mバイトのメモリーモジュールが1枚装着されています。PCVA-MM64P（別売り）を1枚取り付けることにより、128Mバイトまでメモリーを増設できます。また、PCVA-MM128P（別売り）を2枚取り付けることにより、最大256Mバイトまでメモリーを増設できます。取り付けの際には、メモリーモジュールの取扱説明書もあわせてご覧ください。

メモリーモジュールを選ぶときのご注意

- メモリーモジュールには、さまざまな種類のものが存在します。市販のメモリーモジュールを取り付ける際には、その製品が本機での動作保証を明記していることをご確認ください。
- 市販のメモリーモジュールについてのサポートは弊社では行っておりません。ご不明の点はメモリーモジュールの販売元にご相談ください。

次のページにつづく

メモリーモジュール取り扱い上のご注意

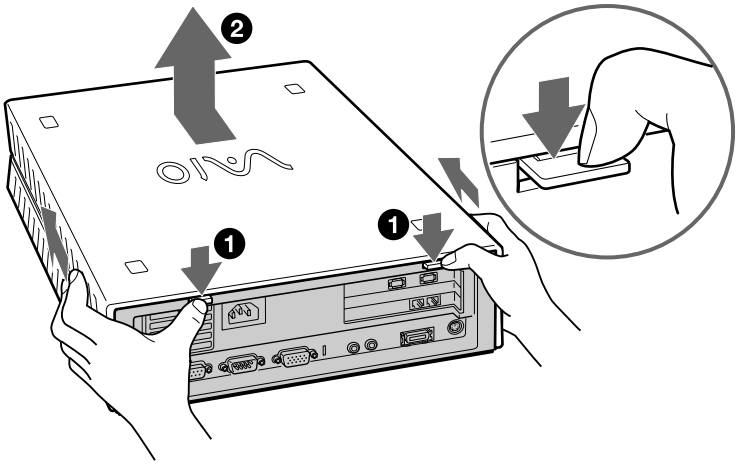
- 静電気でメモリーモジュールが破壊しないように、メモリーモジュールを取り扱うときは、次のことをお守りください。
  - メモリーを増設するときは、静電気の起こりやすい場所(カーペットの上など)では作業しないようにしてください。
  - 静電気を体から逃がすため、本体の金属部に触れてから作業を始めてください。
  - メモリーモジュールは静電気防止袋に入っています。取り付け直前まで袋から出さないでください。
- メモリーモジュールを持つときは半導体やコネクターに触れないようにしてください。
- メモリーモジュールを保管するときは、静電気防止袋またはアルミホイルで覆ってください。

1 本機と周辺機器の電源を切り、すべての接続ケーブルを取りはずす。

2 しばらくしてから、本機のカバーを取りはずす。

電源を切ったあとすぐは、本機の内部が熱くなっており、やけどをする可能性があります。本機が冷えるのを待ってから作業を行ってください。

❶ 本機後面の2か所のツメを下げる。
❷ カバーを矢印方向にずらして取りはずす。



ちょっと一言

本機を縦置きでお使いのかたで、本機の底面に付属のフットを取り付けていない場合はカバーを取りはずす前に一時的にフットを取り付けると作業しやすくなります。フットの取り付けかたについては、「はじめにお読みください」の「設置する」をご覧ください。

3 メモリーモジュールを梱包から取り出す。

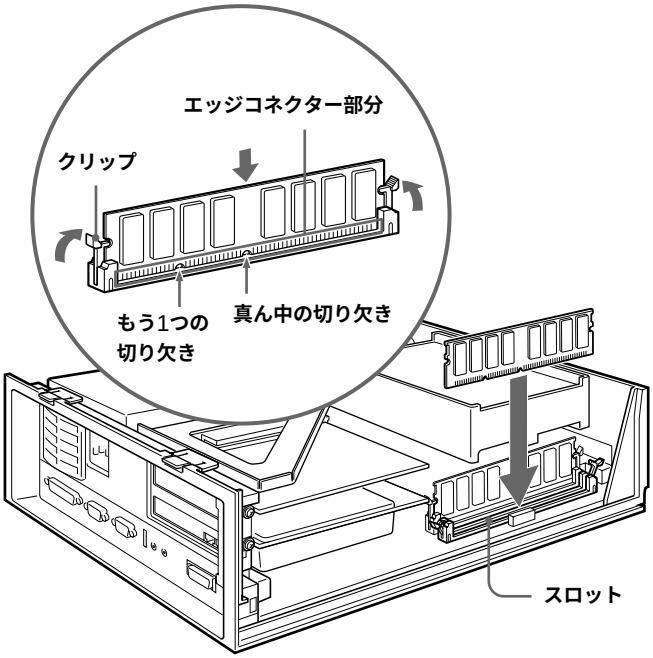
本機の金属部分に触れて体の静電気を逃がしてから、メモリーモジュールを静電気防止袋から取り出します。

4 メモリーモジュールを取り付ける。

メモリーモジュールにはエッジコネクター部分の真ん中に切り欠きがあり、その切り欠きによって分けられたエッジの片方にだけもう1つ切り欠きがあります。

❶ メモリーモジュールのエッジコネクター部分のもう1つの切り欠きがある方を右側にしてスロットに合わせる。

❷ クリップが起き上がり、固定されるまでメモリーモジュールを垂直にスロットへ押し込む。



ご注意

メモリーモジュールを取りはずしたり、取り付けるときは、必ず本機を横にして作業してください。

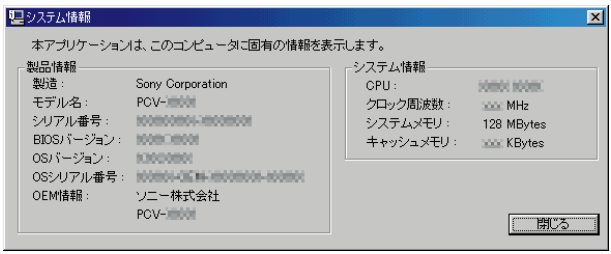
次のページにつづく

5 **本機のカバーを取り付ける。**

6 **手順1ではずした周辺機器を接続し、本機の電源を入れる。**

7 **［スタート］ボタンをクリックして［VAIO］にポインターを合わせ、［ユーティリティ］を選び、［システム情報］をクリックする。**

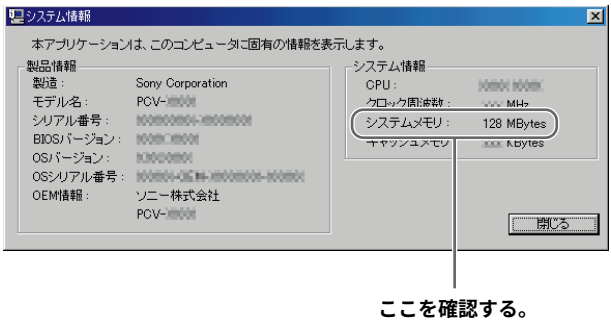
「システム情報」画面が表示されます。



8 **「システムメモリ」の項目が増設後のメモリー容量になっていることを確認する。**

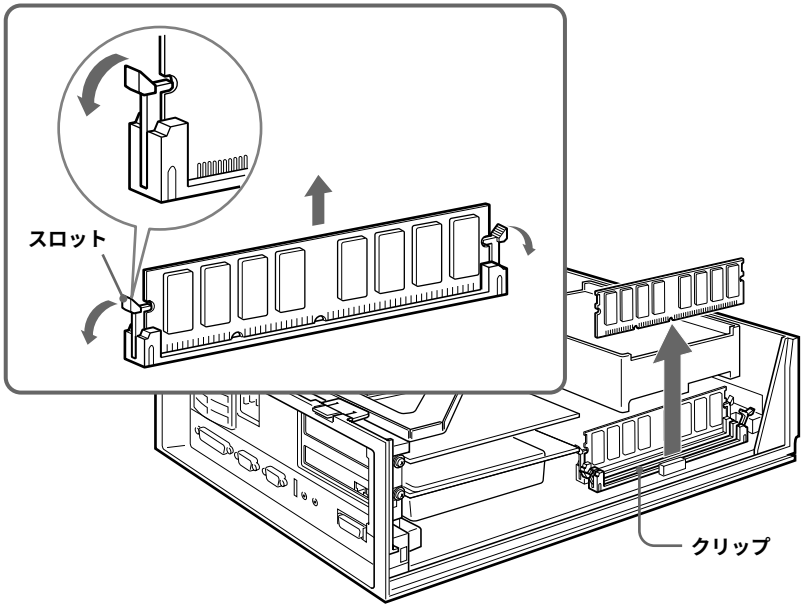
メモリーの容量が正しければ、メモリーの増設は完了しました。

メモリーの容量が増えていないときは、本機の電源を切っていったんメモリーモジュールを取りはずし、もう1度正しく増設の手順を繰り返してください。



メモリーモジュールを取りはずすには

本機の金属部分に触れて体の静電気を逃がしてから、メモリースロットの両端のクリップを外側に押し、メモリーモジュールをはずし、スロットからゆっくり抜き取ります。



セットアップ編

BIOSセットアップメニューを使う 106
内蔵モデムを設定する 111
操作環境を自分の好みに合わせる 116

BIOSセットアップメニューの概要

BIOSセットアップとは

お買い上げになった時点で、本機のシステム構成はバッテリーでバックアップされた内部のメモリーに標準装備として記憶されています。本機を通常お使いの場合、システム構成を変更する必要はありません。
システムセキュリティを設定するときなどにBIOSセットアップメニューを使ってシステム構成の設定を行います。

ご注意

本機の起動時に、繰り返しエラーが発生する場合は、本機内部のバッテリーが消耗している可能性があります。その場合は、ご自分で設定した値をメモリーに記憶できません。バッテリーの交換については、VAIOテクニカルレスポンスセンター修理窓口へお問い合わせください。

BIOSセットアップメニューを起動する

本機前面の電源スイッチを入れ、数秒後にキーボードのDeleteキーを押します。

BIOSセットアップメニューが起動し、「CMOS SETUP UTILITY」（CMOSセットアップユーティリティ）メニュー画面が表示されます。

ご注意

本機の状態によっては、Deleteキーを押した後ただちにBIOSセットアップメニューが起動しないことがあります。

BIOSセットアップメニューの構成

BIOSセットアップ(CMOS SETUP UTILITY)メニューは、以下の12のメニューから構成されています。各メニューを選択することにより、システムの情報を表示させたりBIOSを設定したりできます。

❑ STANDARD CMOS SETUP（**スタンダード** CMOS **セットアップ**）
日付の設定や、ハードディスクの設定、フロッピーディスクドライブの設定を行う画面です。

❑ BIOS FEATURES SETUP（BIOS **フィーチャーズ セットアップ**）
基本的な機能について設定を行う画面です。

❑ CHIPSET FEATURES SETUP
（チップセット フィーチャーズ セットアップ）
メモリーに関する設定や、拡張バス関連の設定を行う画面です。

❑ POWER MANAGEMENT SETUP
（パワー マネージメント セットアップ）
省電力モードについて、各種の設定を行う画面です。
Windows 98にも省電力モードの機能がありますので、このメニューの主な設定は無効です。

ご注意

「Automatic Power Up」の設定を変更すると、「PPK Setup」ソフトウェアのタイマー機能が正常に動作しないことがあります。

❑ PNP AND PCI SETUP（PNP **アンド** PCI **セットアップ**）
プラグアンドプレイや、USBコネクターに関する設定を行う画面です。

❑ LOAD BIOS DEFAULTS（**ロード** BIOS **デフォルト**）
トラブルが起きた場合に、システムパフォーマンスを最低にするようにBIOSを設定するメニューです。

ご注意

- 「STANDARD CMOS SETUP」で設定した日付や時間、および「SUPERVISOR PASSWORD」と「USER PASSWORD」で設定したパスワードはもとに戻りません。
- 「PPK Setup」ソフトウェアでタイマーの設定をしている場合、タイマーの再設定が必要です。

次のページにつづく

❑ LOAD SETUP DEFAULTS（**ロード セットアップ デフォルト**）
BIOSの設定内容を、工場出荷時に戻すメニューです。

ご注意

- 「STANDARD CMOS SETUP」で設定した日付や時間、および「SUPERVISOR PASSWORD」と「USER PASSWORD」で設定したパスワードはもとに戻りません。
- 「PPK Setup」ソフトウェアでタイマーの設定をしている場合、タイマーの再設定が必要です。

❑ SUPERVISOR PASSWORD（**スーパーバイザー パスワード**）
BIOSの設定を変更できるモードに入るためのパスワードを設定するメニューです。

❑ USER PASSWORD（**ユーザー パスワード**）
Windows 98の起動時やBIOSの設定を閲覧するときに必要なパスワードを設定するメニューです。

❑ IDE HDD AUTO DETECTION（IDE HDD **オート ディテクション**）
IDEインターフェースに接続されている、ハードディスクドライブのパラメーターを自動的に読み出し、各IDE関連の設定項目を構成する画面です。

❑ SAVE & EXIT SETUP（**セーブ アンド エグジット セットアップ**）
現在の設定を保存し、BIOSセットアップメニューを終了するメニューです。

❑ EXIT WITHOUT SAVING（**エグジット ウィズアウト セービング**）
現在の設定内容を破棄して、前回の設定（あるいは工場出荷時設定）の状態のまま、BIOSセットアップメニューを終了するメニューです。

それぞれのメニューの設定項目の中には、さらにサブメニューがあるものがあります。
最新のBIOSの情報やそれぞれのメニューについて詳しくは、VAIOテクニカルレスポンスセンターにお問い合わせください。VAIOテクニカルレスポンスセンターのホームページ（http://www.ittrc.sony.co.jp/）では、BIOSの最新かつ詳しい情報を掲載しております。

BIOSセットアップメニューでのキー操作

BIOSセットアップメニューでは、以下のキーを使って操作します。

なまえ	機能
↑／↓／←／→キー	• メニュー画面を選ぶときに押します。
Enter（エンター）キー	• サブメニューがある設定項目を選んだときに押すと、サブメニューが表示されます。
Esc（エスケープ）キー	• サブメニューや設定項目のポップアップメニューから前の画面に戻るときに押します。 • 「CMOS SETUP UTILITY」のメニュー画面が表示されているときに押すと、BIOSセットアップメニューが終了します。
F1キー	設定項目の説明を見るときに押します。表示を消すにはもう1度F1キーを押します。
PgDn（ページダウン）／PgUp（ページアップ）キー	設定項目の設定値を変更するときに押します。
数字キー	日付やハードディスクの設定をするときに押します。

ご注意

BIOSの設定の変更はマウスを使って行うことはできません。

BIOSをお買い上げ時の設定に戻す

BIOSセットアップメニューの中のすべての設定項目をお買い上げ時の設定値に戻します。

1 **「CMOS SETUP UTILITY」のメニュー画面で、↑／↓／←／→キーを押して［LOAD SETUP DEFAULTS］を選び、Enterキーを押す。**

「Load SETUP Defaults（Y/N)? N」というメッセージが表示されます。

2 **Yキーを押して、メッセージの最後の「N」を「Y」に変更する。**

3 **Enterキーを押す。**

4 **↑／↓／←／→キーを押して［SAVE & EXIT SETUP］を選び、Enterキーを押す。**

「SAVE to CMOS and EXIT（Y/N)? N」というメッセージが表示されます。

5 **Yキーを押して、メッセージの最後の「N」を「Y」に変更する。**

6 **Enterキーを押す。**

すべての設定項目が保存され、BIOSセットアップメニューが終了します。

お買い上げ時の設定値に戻すのを中止するには

上記手順4で［EXIT WITHOUT SAVING］を選び、Enterキーを押します。設定項目は変更されません。

内蔵モデムを設定する

本機には、ファックスモデムが内蔵されています。付属のテレホンコードを使って本機と電話回線をつなぐと、インターネットに接続するなどのデータ通信ができるようになります。本機と電話回線の接続のしかたは、別冊の「はじめにお読みください」をご覧ください。
ここでは、内蔵モデムの設定方法について説明します。
内蔵モデムの通信速度は、データ受信時最大56kbps、データ送信時最大33.6kbpsです。電話回線の状況によって通信速度は変化することがあります。

ダイヤル方法を設定する

以下の手順に従い、お使いの電話回線のダイヤル方法を確認し、ダイヤル方法の種類に合わせて内蔵モデムの設定をしてください。

1 お使いの電話回線のダイヤル方法を確認する。
電話機の受話器を上げて、ダイヤルボタンを押すと「ピポパ」と音がし、電話機から「カチカチ」という音がしないときはトーン式ダイヤルです。ボタンではなく、ダイヤルを回す電話機、ダイヤルボタンを押すたびに電話機から「カチカチ」という音がする電話機は、パルス式ダイヤルです。

2 [スタート] ボタンをクリックして [設定] にポインターを合わせ、[コントロールパネル] をクリックする。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。

3 「モデム」アイコンをダブルクリックする。
「モデムのプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。

4 [ダイヤルのプロパティ] をクリックする。
「ダイヤルのプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。

5 「ダイヤル方法」からお使いの電話回線のダイヤル方法に合わせて [トーン] または [パルス] を選択し、[OK] をクリックする。

6 [OK] をクリックする。

内蔵モデムの設定を確認する

内蔵モデムがWindowsに正しく認識されているか確認します。

1 ［スタート］ボタンをクリックして［設定］にポインターを合わせ、［コントロールパネル］をクリックする。

「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。

2 「モデム」アイコンをダブルクリックする。

3 「検出結果」タブをクリックする。

4 モデムを選択し、［詳細情報］をクリックする。

［詳細情報...］ダイアログボックスが表示されたら、モデムは正しく認識されています。

正しく認識されていないときは

次の点を確認してください。

- COMポートのリソース（IRQなど）が他のデバイスと競合していないか確認します。
  ［システムのプロパティ］の［デバイスマネージャ］で、デバイスのアイコンに「！」がついているものは、他のデバイスと競合を起こしています。
- モデムの設定をいったん削除し、もう一度組み込み直します。
  ［システムのプロパティ］の［デバイスマネージャ］で、［モデム］の中の［LT Win Modem］を削除します。Windowsを再起動するとモデムが検出され、対応するドライバーが自動的に組み込まれます。

ダイヤルの設定を確認する

電話回線にうまく接続できないときは、以下の項目を確認してください。

ケーブルの接続を確認する

「発信音が聞こえません」や「ダイヤル先のコンピュータが応答しません」といったメッセージが表示されたときは、モジュラーケーブルの接続を確認します。本体側のモジュラージャックと壁側のモジュラージャックの接続を確認します。

予備のケーブルがあれば、ケーブルを交換して試してみます。

接続速度を遅くしてみる

電話回線の状態がよくないときには、接続速度を遅くするとうまく接続できる場合があります。

1 **［スタート］ボタンをクリックして［設定］にポインターを合わせ、［コントロールパネル］をクリックする。**

「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。

2 **「モデム」アイコンをダブルクリックする。**

3 **［LT Win Modem］を選択し、［プロパティ］をクリックする。**

4 **［最高速度］に遅めの数値（標準は115200）を選ぶ。**

5 **少しずつ数値を小さくして試す。**

ダイヤルトーンを検出しないようにする

ダイヤルトーン（受話器を上げたときの「ツー」という音）の検出に失敗してダイヤルできないときは、ダイヤルトーンを検出しないようにします。

1 **［スタート］ボタンをクリックして［設定］にポインターを合わせ、［コントロールパネル］をクリックする。**

「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。

2 **「モデム」アイコンをダブルクリックする。**

3 **［全般］タブに表示されているモデムから使用したいモデムを選択し、［プロパティ］をクリックする。**

4 **［接続］タブをクリックし、「トーンを待ってからダイヤルする」のチェックをはずす。**

5 **［OK］をクリックする。**

6 **「モデムのプロパティ」の［閉じる］をクリックする。**

接続中の動作が長く続くとき

接続中の動作が長く続き、接続が完了しないときは、いったん回線を切断してかけ直します。高い通信速度で接続する場合、まれに接続に失敗して、接続確認の動作が終わらなくなることがあります。

ダイヤルアップネットワークやプロトコルの設定を確認する

「ダイヤル先のコンピュータから切断されました。接続のアイコンをダブルクリックして、やり直してみてください。」や「ダイヤル先のコンピュータは、ダイヤルアップネットワーク接続を確立できません。パスワードを確認してから、やり直してみてください。」といったメッセージが表示されるときは、プロバイダやネットワークに接続するための設定を確認します。

設定などに問題がなかった場合は、ダイヤルアップネットワークとプロトコルを設定し直してください。

ダイヤルアップネットワークの設定の確認

1 ［マイコンピュータ］をダブルクリックし、［ダイヤルアップネットワーク］をダブルクリックする。

2 接続先のアイコンを右クリックし、［プロパティ］をクリックする。

3 契約しているプロバイダーから提供された資料にしたがって設定を確認する。

特に、次の点を重点的に確認してください。

- ［全般］タブの［電話番号］の設定
- ［サーバーの種類］タブの設定
- ［サーバーの種類］タブの［TCP/IP設定］ボタンでの設定

プロトコルの設定の確認

1 ［スタート］ボタンをクリックして［設定］にポインターを合わせ、［コントロールパネル］をクリックする。

「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。

2 「ネットワーク」アイコンをダブルクリックする。

3 契約しているプロバイダーから提供された資料にしたがって設定を確認する。

特に、次の点を重点的に確認してください。

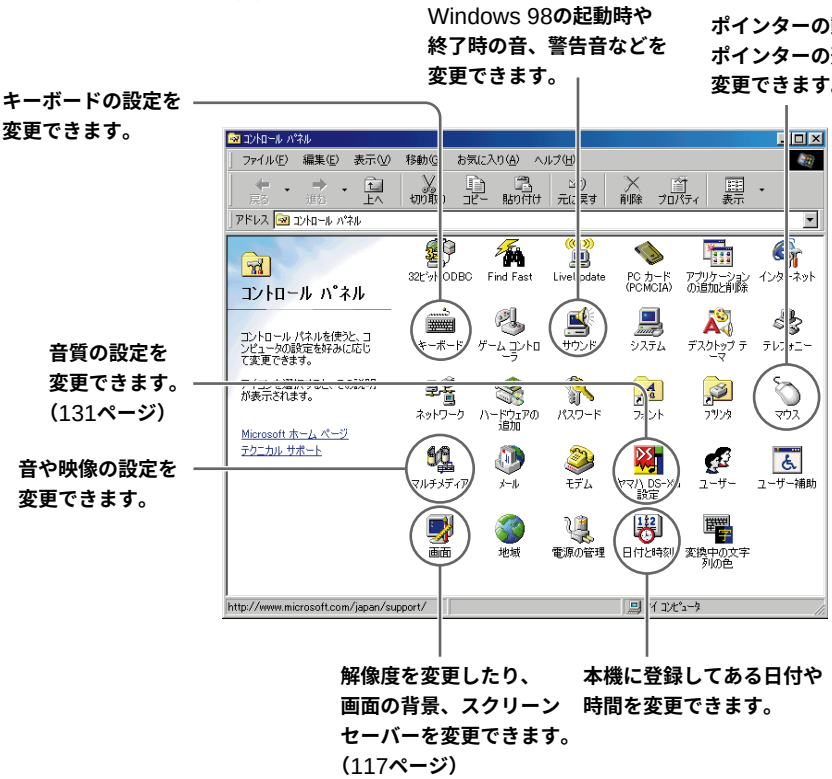
- ［現在のネットワークコンポーネント］に組み込まれているコンポーネント
- 各コンポーネントのプロパティの設定

本機内蔵のモデムの機能について詳しくは、VAIOテクニカルレスポンスセンターにお問い合わせください。VAIOテクニカルレスポンスセンターのホームページ（http://www.ittrc.sony.co.jp）では、本機内蔵モデムについての最新かつ詳細な情報を掲載しております。

コントロールパネルとは

コントロールパネルは、操作環境やハードウェアの環境を設定するためにWindows 98に標準で装備されているツールです。
コントロールパネルを使えば、本機の操作環境を自分の好みに合わせて変えることができます。例えば、画面の解像度を変えて表示するウィンドウや文字の大きさを変えたり、画面の背景やスクリーンセーバー（電源を入れたままでコンピューターを長時間使わないときに画面の焼き付きを防ぐために現れる画像）などを変えて、自分に合った環境で使うことができます。

コントロールパネルを開くには、［スタート］メニューから［設定］にポインターを合わせ、［コントロールパネル］をクリックします。
設定したい項目のアイコンをダブルクリックして項目のウィンドウを開き、設定を変えます。



ディスプレイの設定を変更する

画面の背景、ウィンドウの枠の色、ディスプレイの解像度などの設定を変更するには以下の手順に従ってください。

1 **［スタート］ボタンをクリックして［設定］にポインターを合わせ、［コントロールパネル］をクリックする。**
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。

2 **［画面］をダブルクリックする。**
「画面のプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。

3 **［背景］、［スクリーンセーバー］、［デザイン］、［効果］、［Web］、［設定］の設定画面をそれぞれ選び、各種の設定を行う。**
設定画面を選ぶときは、それぞれの画面のタブをクリックします。

4 **設定が終了したら、［OK］または［適用］をクリックする。**
手順3で変更した設定が反映されます。

各画面の設定項目については、以下のページをご覧ください。

❑ **背景**（118**ページ**）
画面の背景について設定する画面です。

❑ **スクリーンセーバー**（119**ページ**）
スクリーンセーバー、省電力機能について設定する画面です。

❑ **デザイン**（120**ページ**）
ウィンドウやメニューの枠の色について設定する画面です。

❑ **効果**（121**ページ**）
アイコンを変更したり視覚効果を設定する画面です。

❑ Web（122**ページ**）
アクティブデスクトップについて設定する画面です。

❑ **設定**（123**ページ**）
解像度や画面上の文字のサイズなどについて設定する画面です。

背景

❑ **壁紙**

表示したい壁紙をクリックして選ぶ。

[参照]: クリックすると、壁紙にできる画像ファイルやインターネットドキュメント（HTMLファイル）を検索するウィンドウが開く。

[模様]: クリックすると、デスクトップに使用する模様を選択するウィンドウが開く。

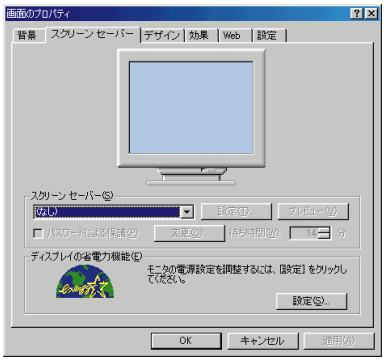
表示位置: 壁紙の表示位置をドロップダウンリストから選ぶ。

中央に表示: 壁紙が画面の中央に表示される。

並べて表示: 壁紙が画面全体に表示される。

拡大: 壁紙が画面いっぱいに拡大表示される。

スクリーンセーバー



❑ スクリーンセーバー

ドロップダウンリスト: 使用するスクリーンセーバーをリストから選ぶ。

[設定]: クリックすると、選んだスクリーンセーバーを設定するウィンドウが開く。

[プレビュー]: クリックすると、設定したスクリーンセーバーが画面全体に表示される。

パスワードによる保護: チェックボックスをクリックすると、スクリーンセーバーがパスワードで保護される。

[変更]: クリックすると、スクリーンセーバーを保護するパスワードが設定される。

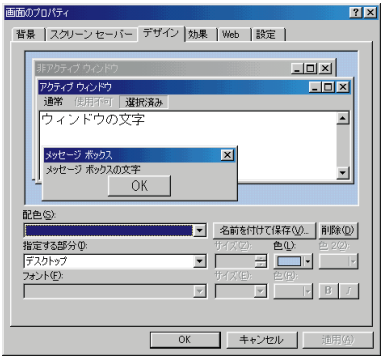
待ち時間: 本機を何分間使わなかったらスクリーンセーバーを画面に表示するかを選ぶ。

❑ ディスプレイの省電力機能

[設定]: クリックすると、ディスプレイの電源を設定するウィンドウが開く。

スクリーンセーバーが設定されているときは、スクリーンセーバー実行後、「待ち時間」で設定した時間が経過すると、省電力機能が実行されます。

デザイン



❑ 配色

ドロップダウンリスト: 画面に表示されるウィンドウやメニューの枠の色をリストから選ぶ。

[名前を付けて保存]: クリックすると、作成した配色に名前をつけて登録するウィンドウが開く。

[削除]: 名前をつけて登録した配色を削除する。

❑ 指定する部分

ドロップダウンリスト:「配色」の設定を有効にする部分を選ぶ。

サイズ: 指定する部分の大きさを選ぶ。

色: 指定する部分の色を選ぶ。

色2: 色を指定する部分が2つあるときに、もう1つの部分の色を選ぶ。

❑ フォント

ドロップダウンリスト: 画面に表示されるウィンドウやメニューの文字の種類をリストから選ぶ。

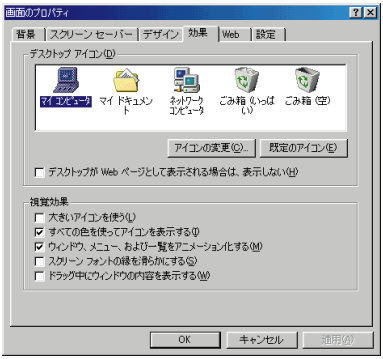
サイズ: 文字の大きさを選ぶ。

色: 文字の色を選ぶ。

B: クリックすると、文字が太くなる。

I: クリックすると、文字が斜体になる。

効果



❑ デスクトップアイコン

変更したいアイコンをクリックして変更します。

[アイコンの変更]: クリックすると、変更できるアイコンの一覧のウィンドウが表示される。

[既定のアイコン]: クリックすると、変更したアイコンをデフォルトのアイコンに戻す。

デスクトップがWebページとして表示される場合は、表示しない:
チェックボックスをクリックすると、アクティブデスクトップを使用しているときはデスクトップにアイコンを表示しないように設定する。

❑ 視覚効果

大きいアイコンを使う: チェックボックスをクリックすると、デスクトップに表示されるアイコンに大きいアイコンを使用する。

すべての色を使ってアイコンを表示する: チェックボックスをクリックすると、アイコンを現在のディスプレイの種類と色の設定で使用できるすべての色を使って表示する。

ウィンドウ、メニュー、および一覧をアニメーション化する:
チェックボックスをクリックすると、ウィンドウやメニューの開きかたや閉じかたがアニメーションになる。

スクリーンフォントの縁を滑らかにする: チェックボックスをクリックすると、複雑な文字が見やすくなる。

ご注意

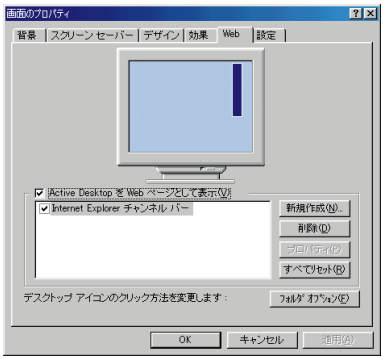
この項目をチェックすると、表示スピードが遅くなることがあります。

次のページにつづく

ドラッグ中にウィンドウの内容を表示する: チェックボックスをクリックすると、ウィンドウをドラッグするときにウィンドウを表示したままドラッグする。

Web

アクティブデスクトップについて設定する画面です。



❑ Active DesktopをWebページとして表示

チェックボックスをクリックすると、アクティブデスクトップを使用するように設定される。

下のリストのアクティブデスクトップ項目のチェックボックスをクリックすると、表示するアクティブデスクトップ項目を選ぶことができます。

[新規作成]: 新しいアクティブデスクトップ項目をインストールする。

[削除]: 指定したアクティブデスクトップ項目を削除する。

[プロパティ]: 指定したアクティブデスクトップ項目についての詳細を表示する。

[すべてリセット]: デスクトップを標準の設定に戻す。

❑ **フォルダオプション**

フォルダに関する詳細を設定するウィンドウを開く。

この項目を選ぶと「画面のプロパティ」ダイアログボックスは保存され閉じられる。

設定

❑ **ディスプレイ**

接続されているディスプレイが表示される。

❑ **色**

ドロップダウンリスト: 画面の表示色数をリストから選ぶ。

ご注意

本機ではHigh Color（16ビット）に設定してお使いになることをおすすめします。

❑ **画面の領域**

スライダーをずらして画面の解像度を設定する。

❑ Windows**デスクトップをこのモニタ上で移動できるようにする**

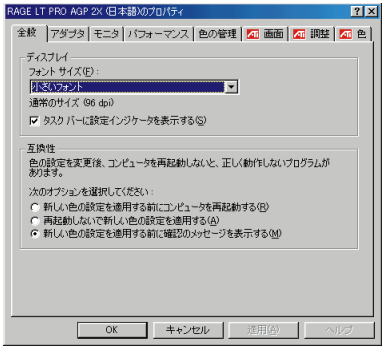
マルチディスプレイのときに有効になる。

❑ **[詳細]**

クリックすると、フォントサイズ、リフレッシュレート、モニターを設定するダイアログボックスが表示される。

［詳細］をクリックすると、以下のオプションを設定することができます。

全般



- **ディスプレイ**

  フォントサイズ: 画面に表示される文字の大きさの大小をリストから選ぶ。（解像度が800×600ドットより大きい場合のみ選べます。解像度について詳しくは、「画面の領域」をご覧ください。）

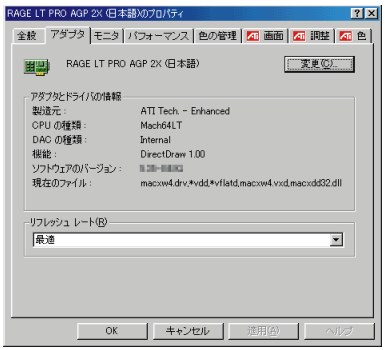
  タスクバーに設定インジケータを表示する:

  チェックボックスをクリックすると、設定インジケーターがWindows 98のタスクバーに表示される。

- **互換性**

  ディスプレイの色の設定を変更するときに適用するオプションのラジオボタンをクリックして選択する。

アダプタ



- **[変更]**

  クリックすると、新しいディスプレイアダプターのソフトウェアをインストールするためのウィザードが開く。

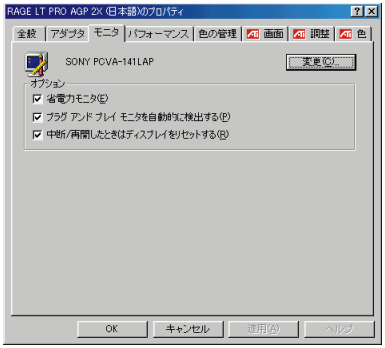
- **アダプタとドライバの情報**

  現在使用しているディスプレイアダプターの情報が表示される。

- **リフレッシュレート**

  変更したいリフレッシュレートをリストから選ぶ。

モニタ



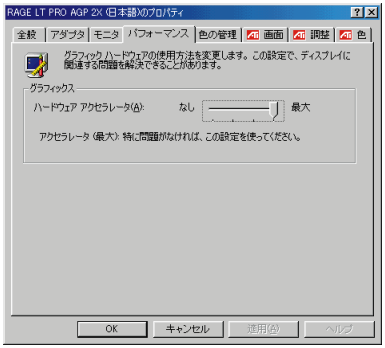
- **[変更]**

  クリックすると、接続されているディスプレイを変更するウィンドウが出る。

- **オプション**

  それぞれのチェックボックスをクリックして、モニタに関するオプションの設定を変更する。

パフォーマンス

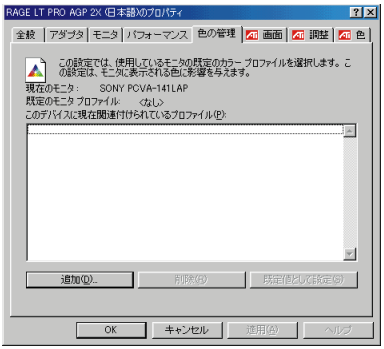


次のページにつづく

- **グラフィックス**

  ハードウェアアクセラレータ: スライダーを動かして、ハードウェアアクセラレーターの機能をどの程度使うか指定する。

色の管理



- **現在のモニタ**

  接続されているディスプレイの名前が表示される。

- **既定のモニタ プロファイル**

  接続されているディスプレイの設定のカラープロファイルの名前が表示される。

- **このデバイスに現在関連付けられているプロファイル**

  接続されているディスプレイに現在関連付けられているすべてのカラープロファイルの一覧が表示される。アクティブにするプロファイルをクリックして選ぶ。

- **[追加]**

  クリックすると、このディスプレイに新しく関連付けたいカラープロファイルを選択するウィンドウが開く。

- **[削除]**

  クリックすると、選択したカラープロファイルを一覧から削除する。

- **[既定値として設定]**

  クリックすると、選択したカラープロファイルを既定のカラープロファイルとして設定する。

画面

- **モニタ**

  別売りの外部ディスプレイを本機のMONITORコネクター（21ページ）につないだとき、「モニタ」のチェックボックスをクリックすれば、外部ディスプレイ出力が有効になる。

  ディスプレイの解像度は「設定」画面の「画面の領域」で調整します。

- **テレビ**

  本機ではテレビ出力の設定はできません。

- **アイコン**

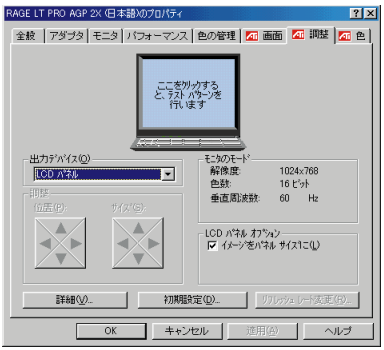
  ダイアログボックスを中央に: チェックボックスをクリックすると、画面に表示されるメッセージ（ダイアログボックス）が画面の中央で開くように設定する。仮想デスクトップサイズを設定しているときに便利です。

  タスクバーアイコンを有効に: チェックボックスをクリックすると、グラフィックドライバーのヘルプ画面を開くアイコンがWindows 98のタスクバーに表示される。

次のページにつづく

調整

映像出力信号の調整を行う画面です。



- **ここをクリックすると、テストパターンを行います**

  クリックすると、6つの画面のパターンが表示される。

- **出力デバイス**

  調整を行うディスプレイをドロップダウンリストから選ぶ。

- **調整**

  位置: 矢印をクリックして、画面表示の位置を移動する。

  サイズ: 矢印をクリックして、画面表示サイズを拡大または縮小する。

  クリックすると、一時的にディスプレイの表示が消えます。

- **モニタのモード**

  解像度: 現在選ばれている画面の解像度を表示する。

  色数: 現在選ばれている画面の色数（各ピクセルのビット数）を表示する。

  垂直周波数: 現在の垂直周波数を表示する。

- LCD**パネルオプション**

  イメージをパネルサイズに: チェックボックスをクリックして

  チェックをはずすと、DOSモードでの表示イメージをそのままの

  サイズで表示する。

  ご注意

  ゲームなどのイメージでパネルサイズに拡大すると画面の表示が汚くなることがあります。この場合はチェックをはずしてお使いください。

- **[初期設定]**

  クリックすると、「調節」のすべての設定値を推奨値または初期状態に戻すためのウィンドウが開く。

- **[リフレッシュレート変更]**

  クリックすると、それぞれの解像度で使用する周波数を設定するウィンドウが開く。

ご注意

付属の液晶ディスプレイPCVA-141LAPではリフレッシュレートの変更はできません。

色

ディスプレイの色の補正を行うための画面です。グラフィックの編集をするときなどに画面に表示される色を調整できます。プリンターで印刷された色と画面に表示される色を合わせたいときに便利です。

- **基本設定**

  ドロップダウンリスト:「色」の設定値の組み合わせをリストから選ぶ。

  [名前を付けて保存]: 現在の設定値の組み合わせを保存する。

  [削除]: 指定した設定値の組み合わせを削除する。

- **色定規**

  色を構成する3要素である赤、緑、青の発色を調整する。赤、緑、青それぞれのラジオボタンをクリックし、定規をドラッグして調整する。

- **ターゲットガンマ**

  スライダーを動かして、ディスプレイのカラー照度とコントラストを調整する。値が高いほどカラー照度とコントラストは高くなる。

- **基本設定ホットキー**

  現在の設定値の組み合わせを呼び出すキーの組み合わせ（ホットキー）指定する。

- **[初期設定]**

  「色」のすべての設定値を初期状態に戻す。

- **[ビットマップのロード]**

  画面上部に表示されるビットマップの画像を変更する。

アクティブデスクトップをWindows 98のデスクトップ画面からはずす

本機の初期設定では、「アクティブデスクトップ」が通常のデスクトップ画面になっています。
このアクティブデスクトップ画面を、Windows 98のデスクトップ画面に表示しないように変更することもできます。

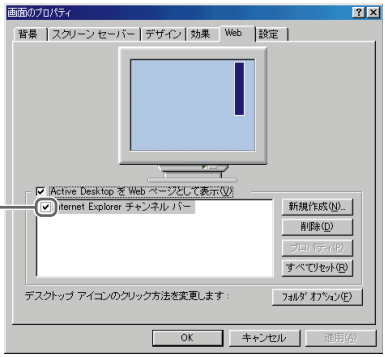
1 **［スタート］メニューから［設定］にポインターを合わせ、［コントロールパネル］をクリックする。**
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。

2 **［画面］をダブルクリックする。**
「画面のプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。

3 **［Web］タブをクリックする。**

4 **［Active DesktopをWebページとして表示］のチェックボックスをクリックして、チェックをはずす。**

ここをクリックして
チェックをはずします。



5 **［OK］をクリックする。**
Windows 98のデスクトップ画面からアクティブデスクトップがはずれます。

音質の設定を変更する

本機で使用するサウンドデバイスのドライバーの設定およびドライバー内蔵のMIDI音源を設定します。
ご使用になる環境に合わせて設定してください。

1 ［スタート］メニューから［設定］にポインターを合わせ、［コントロールパネル］をクリックする。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。

2 ［ヤマハDS-XG設定］をダブルクリックする。
「ヤマハDS-XG設定」ウィンドウが表示されます。

3 ［シンセ］、［エコー］、［ダイレクトサウンド］、［ダイレクトサウンド3D］の設定画面をそれぞれ選び、各種の設定を行う。
設定画面を選ぶときは、それぞれの画面のタブをクリックします。
各設定画面について詳しくは、ヘルプをご覧ください。「概要」タブの［ヘルプ］をクリックしてヘルプを開きます。

ここをクリックする。

4 設定が終了したら、［OK］をクリックする。
手順3で変更した設定が反映されます。

その他

使用上のご注意

本機の取り扱いについて

- 衝撃を加えたり、落としたりしないでください。記録したデータが消失したり、本機の故障の原因となります。
- 直射日光が当たる場所、暖房器具の近くなど、異常な高温になる場所には置かないでください。故障の原因となることがあります。
- クリップなどの金属物を本機の中に入れないでください。
- 振動する場所や不安定な場所では使用しないでください。
- ほこりが多い場所では使用しないでください。
- 湿気が多い場所では使用しないでください。
- 風通しが悪い場所では使用しないでください。

結露について

結露とは空気中の水分が金属の板などに付着し、水滴となる現象です。本機を寒い場所から急に暖かい場所に持ち込んだときや、冬の朝など暖房を入れたばかりの部屋などで、本機の表面や内部に結露が起こることがあります。そのままご使用になると故障の原因となります。結露が起きたときは、結露がなくなるまで電源を入れずに放置してください。

液晶ディスプレイについて

- 液晶ディスプレイの表面を濡れたもので拭かないでください。内部に水が入ると故障の原因となります。
- 液晶ディスプレイに物をのせたり、落としたりしないでください。また、手やひじをついて体重をかけないでください。
- 本機を戸外など寒冷な場所から室内へ持ち込むと、液晶ディスプレイに結露が生じることがあります。結露が生じたら、水滴をよく拭き取ってからご使用ください。水滴を拭き取るときは、ティッシュペーパーをお使いになることをおすすめします。液晶面が冷えているときは、水滴を拭き取っても、また結露が生じてしまいます。液晶面が室温に暖まるまでお待ちください。
- 液晶ディスプレイは非常に精密度の高い技術でつくられていますが、黒い点が現れたり、赤と青、緑の点が消えないことがあります。故障ではありません。

ハードディスクの取り扱いについて

ハードディスクは、フロッピーディスクに比べて記憶密度が高く、データの書き込みや読み出しに要する時間も短いという特長があります。その一方、本来はほこりや振動に弱い装置でもあります。また、フロッピーディスク同様に磁気を帯びた物に近い場所での使用は避けなければなりません。ハードディスクにはほこりや振動からデータを守るための安全機構が組み込まれていますが、記憶したデータを失ってしまうことのないよう、次の点に特にご注意ください。

- 振動する場所や不安定な場所では使用しないでください。
- 電源を入れたまま、本機を動かさないでください。
- データの書き込み中や読み込み中は、電源を切ったり再起動したりしないでください。
- 急激な温度変化（毎時10℃以上の変化）のある場所では使用しないでください。

何らかの原因でハードディスクが故障した場合、データの修復はできませんのでご注意ください。

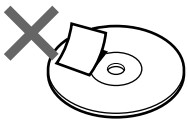
バックアップを取る

ハードディスクは非常に多くのデータを保存することができますが、その反面、ひとたび事故で故障すると多量のデータが失われ、取り返しのつかないことになります。万一のためにも、ハードディスクの内容は定期的にバックアップを取ることをおすすめします。ソフトウェアはオリジナルがCD-ROMやフロッピーディスクにありますので、バックアップが必要なのはデータなどです。ハードディスクのバックアップ、バックアップの内容の戻しかたについて詳しくは、Windows 98のヘルプをお読みください。

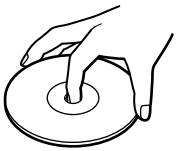
CD-ROMディスクの取り扱いについて

CD-ROMディスクに記録されているデータなどを保護するため、次のことにご注意ください。

- 紙などを貼ったり、傷つけたりしないでください。



- ディスクは外縁を支えるようにして持ちます。記録面には触れないでください。



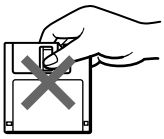
次のページにつづく

- ほこりやちりの多いところ、直射日光の当たるところ、暖房器具の近く、湿気の多いところには保管しないでください。
- ディスクに液体をこぼさないでください。
- 大切なデータを守るため、ディスクは必ずケースなどに入れて保管してください。

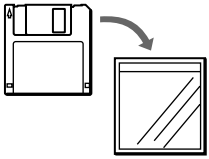
フロッピーディスクの取り扱いについて

フロッピーディスクに記録されているデータなどを保護するため、次のことにご注意ください。

- テレビやスピーカー、磁石などの磁気を帯びたものに近づけないでください。フロッピーディスクに記録されているデータが消えてしまうことがあります。
- 直射日光のあたる場所や、暖房器具の近くに放置しないでください。フロッピーディスクが変形し、使用できなくなります。
- 手でシャッターを開けてディスクの表面に触れないでください。フロッピーディスクの表面の汚れや傷により、データの読み書きができなくなることがあります。



- フロッピーディスクに液体をこぼさないでください。
- 大切なデータを守るため、フロッピーディスクは必ずケースなどに入れて保管してください。



コンピューターウイルスについて

コンピューターウイルスとは、コンピューターの中のファイルやプログラムに悪影響を与えるプログラムのことです。ほとんどがいたずら半分で作成されたものですが、下記の「コンピューターウイルスに侵入されると…」に見られるような被害が起きてしまいます。
コンピューターウイルスは他のプログラムと異なり、それ自体が増殖し、データのコピーなどを通じて他のコンピューターにも悪影響を及ぼしていきます。

コンピューターウイルスに侵入されると…

- 意味不明なメッセージや、ウイルスが侵入したことを知らせるメッセージが画面上に表示される。
- ファイルが勝手に消去される。
- ハードディスク上の情報が意味のないものに書き換えられる。
- 画面上に意味のないものが表示される。
- ハードディスク上の空き容量が急に小さくなる。

コンピューターウイルスを侵入させないためには

- 見知らぬ人から送られてきた、またはネットワーク経由で入手した文書は必ずウイルスチェックをしてください。
  本機にはコンピューターウイルス検査／ウイルス除去用ソフトウェアとして、「VirusScan」ソフトウェアが付属しています。使いかたについて詳しくは、「VirusScan」ソフトウェアのヘルプをご覧ください。
  また、ウイルスに関するデータファイルを常に更新することをおすすめします。インターネット上で、下記のURLから最新のデータファイルを入手できます。
  http://www.nai.com/japan/
- コンピューターウイルスはフロッピーディスクなどを介して広がることがありますので、他人のフロッピーディスクなどを使うときはご注意ください。フロッピーディスクなどのデータを共有する場合は、共有する人を限定してください。

ウイルスが侵入して被害を受けてしまったときに備えて、日頃から作成した文書の控えをとる習慣をつけましょう。

ソフトウェアの不正コピー禁止について

本機に付属のソフトウェアは、ライセンスあるいはロイヤリティ契約のもとに供給されています。これらのソフトウェアを不正にコピーすることは法律で禁止されています。
また、店頭で購入したソフトウェアを人に貸したり、人からソフトウェアを借りてコピーして使うことは原則として禁じられています。ソフトウェアの使用許諾契約書をよくお読みのうえ、お使いください。

データのバックアップについて

ハードディスクドライブに保存している文書などのデータは、定期的にバックアップをとるようおすすめします。データの損失については、一切責任を負いかねます。

ソフトウェアと周辺機器の動作について

一般的にWindows 98用、DOS/V用、PC/AT互換機用などと表記している市販ソフトウェアや周辺機器の中には、本機で使用できないものがあります。
ご購入に際しては、販売店または各ソフトウェアおよび周辺機器の販売元にご確認ください。
市販ソフトウェアおよび周辺機器を使用された場合の不具合や、その結果生じた損失については、一切責任を負いかねます。

お手入れ

本機やディスプレイのお手入れ

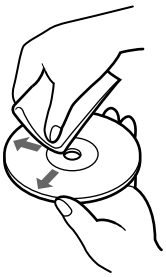
本機やディスプレイについたゴミやほこりなどは、乾いた布で軽く拭き取ってください。

ご注意

- 本機やディスプレイの電源を切ってからお手入れをしてください。
- 濡れたもので本機やディスプレイを拭かないでください。内部に水が入ると故障の原因となります。
- アルコールやシンナーなど揮発性のものは、表面の仕上げを傷めますので使わないでください。化学ぞうきんをお使いになるときはその注意書に従ってください。

CD-ROMディスクのお手入れ

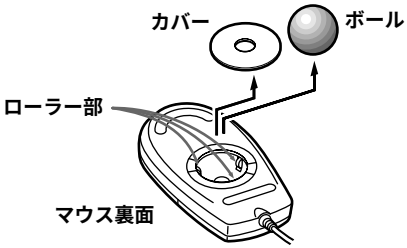
- 指紋やほこりによるディスクの汚れは、読み取りエラーの原因になります。いつもきれいにしておきましょう。
- ふだんのお手入れは、柔らかい布でディスクの中心から外の方向へ軽く拭きます。



- 汚れがひどいときは、水で少し湿らせた布で拭いたあと、さらに乾いた布で水気を拭き取ってください。
- ベンジンやレコードクリーナー、静電気防止剤などはディスクを傷めることがありますので、使わないでください。

マウスを掃除する

マウスは長く使っていると、内部にゴミやほこりなどがたまり、画面上のポインターが思うように動かなくなります。この場合は、マウスの裏面のカバーを取りはずし、ボールを取り出して内部を掃除します。



- 乾いた布で内部のゴミやほこりなどを取り除いてから綿棒でローラー部のゴミをこすり取ってください。
- 表面のゴミやほこりなどは、乾いた布で軽く拭き取ってください。

ご注意

- 本機の電源を切り、マウスをキーボードから取りはずしてからマウスを掃除してください。
- 濡れたものでマウスを拭かないでください。内部に水が入ると故障の原因となります。
- アルコールやシンナーなど揮発性のものは、表面の仕上げを傷めますので使わないでください。化学ぞうきんをお使いになるときはその注意書に従ってください。

キーボードを掃除する

キーボードは長く使っていると、キーが汚れたり、キーの間にゴミやほこりがたまります。キーの間にゴミやほこりがたまると、キーを押しても目的の文字を入力できなくなったり、押したキーがへこんだまま元に戻らなくなることがあります。この場合は、キーボードを掃除します。

- 表面のゴミやほこりなどは、乾いた布で軽く拭き取ってください。
- キーの側面は、綿棒でこすり取ってください。
- キーの間は、エア・スプレーなどでゴミやほこりを散らしてください。

ご注意

- 濡れたものでキーボードを拭かないでください。内部に水が入ると故障の原因となります。
- アルコールやシンナーなど揮発性のものは、表面の仕上げを傷めますので使わないでください。化学ぞうきんをお使いになるときはその注意書に従ってください。

保証書とアフターサービス

保証書

- この製品は保証書が添付されていますので、お買い上げの際、お買い上げ店からお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より3ヶ月間です。カスタマー登録していただいたお客様は1年間になります。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

この取扱説明書をもう1度ご覧になってお調べください。

それでも具合の悪いときはVAIOテクニカルレスポンスセンターへご連絡ください

VAIOテクニカルレスポンスセンターについては、添付の「VAIOサービス・サポートのご案内」をご覧ください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。
詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料で修理させていただきます。

修理について

当社ではパーソナルコンピューターの修理は引取修理を行っています。
当社指定業者がお客様宅に修理機器をお引き取りにうかがい、修理完了後にお届けします。詳しくは添付の「VAIOサービス・サポートのご案内」をご覧ください。

データのバックアップのお願い

修理に出すまえに、ハードディスクなどの記録媒体のプログラムおよびデータは、お客様にてバックアップされますようお願いいたします。弊社の修理により、ハードディスクなどのプログラムおよびデータが万一消去あるいは変更された場合に関しても、弊社は一切の責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。
なお、ハードディスクなどの記録媒体そのものの故障の場合には、プログラムおよびデータの修復はできません。

交換部品の所有権について

修理によって交換された旧部品は、弊社の所有となりますので、あらかじめご了承ください。

部品の保有期間について

当社ではパーソナルコンピューターの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後最低8年間保有しています。この部品保有期間を修理可能の期間とさせていただきます。保有期間が経過したあとも、故障箇所によっては修理可能の場合がありますので、お買い上げ店か、VAIOテクニカルレスポンスセンター修理窓口にご相談ください。

ご相談になるときは次のことをお知らせください。

- **型名：**
  本機後面のシールでご確認ください。
  「MODEL PCV-LXXX**」と記されています。**
- **製造番号：**
- **故障の状態：できるだけ詳しく**
- **購入年月日：**

主な仕様

プロセッサー

Pentium II®プロセッサー400MHz
（PCV-L500）
Celeron 366MHz（PCV-L300）

2次キャッシュ

512 Kバイト（パイプラインバーストSRAM）

メインメモリー

SDRAM-DIMM
（168ピン、unbuffered type）
標準 64 Mバイト
最大256 Mバイトまで拡張可能

拡張メモリースロット

168ピン DIMMスロット×2（空き1）
（DIMMの高さは30mmまで）

グラフィックアクセラレーター

ATI 3D RAGE™ LT PRO

ビデオメモリー

4 Mバイト（SGRAM）

表示モード

1,280×1,024ドット（約1677万色）*
1,024×768ドット（約1677万色）
800×600ドット（約1677万色）*
640×480ドット（約1677万色）*

* 別売りの外部ディスプレイを接続した場合のモードです。

フロッピーディスクドライブ

3.5インチ、1.44 Mバイト／1.2 Mバイト／720 Kバイト

ハードディスクドライブ

6.4 Gバイト（PCV-L500）
4.3 Gバイト（PCV-L300）
3.5インチ、ATAインターフェース、Ultra ATA対応

CD-ROMドライブ

読み出し24倍速

外部コネクター（前面）

USB
USB4ピン（1）

PHONES
最大出力31 mW（32Ω負荷時）
ステレオミニジャック（1）

MIC
プラグインパワー方式、モノラルマイク用、最大入力60 mV、ステレオミニジャック（1）

i.LINK（PCV-L300以外）
IEEE 1394 準拠、4ピン（1）

PCカードスロット

Type I/II×1、CardbusおよびZV port対応、68ピン（1）

メモリースティックスロット

10ピン（1）

外部コネクター（後面）

KEYBOARD
ミニDIN6ピン（1）

LCD
MDR26ピン（1）

MONITOR
VGAタイプ、15ピン（1）

SERIAL
D-sub9ピン（1）

PRINTER
セントロニクス社インターフェース準拠、
D-sub25 ピン（1）

USB
USB4ピン（1）

LINE IN
最大入力1 V、入力インピーダンス50 kΩ、
ステレオミニジャック（1）

LINE OUT
最大出力1 V、出力インピーダンス10 kΩ、
ステレオミニジャック（1）

LINE
モジュラージャック（1）

PHONE
モジュラージャック（1）

i.LINK（PCV-L300**以外**）
IEEE 1394準拠、6ピン（2）

拡張スロット

PCI規格 Rev.2.1 準拠
PCI（ハーフサイズ）× 2（PCV-L300 空き
1、PCV-L300以外 空き無し）

サウンド機能

AC97準拠／ハードウェアMIDI音源（XG／
GM互換）、3Dサウンド機能

内蔵ファックスモデム

最大56Kbps（V.90／K56Flex）ただし送信
は、最大33.6Kbps／最大14.4Kbps
（ファックス時）

液晶ディスプレイ

LCDパネル
a-Si TFT アクティブマトリックス
画面サイズ　14.1インチ

入力信号フォーマット
LVDS

有効画素数
99.99%

解像度
水平：最大1024ドット
垂直：最大768ライン
2.8cm ステレオスピーカー内蔵

キーボード

10キーレス専用キーボード
（マウスコネクター付き）

次のページにつづく

電源・その他

電源
AC 100 V±10 %（50／60 Hz）

消費電力
本体：最大130 W（ディスプレイ含む）

エネルギー消費効率
65 %以上、25 W以下（システムスタンバイモード時）

動作温度
10 ℃～35 ℃（温度勾配10℃／時以下）

動作湿度
40 %～80 %（結露のないこと）

保存温度
–20 ℃～60 ℃（温度勾配10 ℃／時以下）

保存湿度
20 %～80 %（結露のないこと）

外形寸法
本体: 約280 × 90 × 335 mm
（幅／高さ／奥行き）
ディスプレイ：約372 × 316 × 172 mm
（幅／高さ／奥行き、スタンドを含む）
キーボード: 約398 × 45 × 178 mm
（幅／高さ／奥行き、最大突起部を含まず）

質量
本体: 約5.4 kg
ディスプレイ: 約2.75 kg（スタンドを含む）
キーボード: 約1.3kg

付属品

「はじめにお読みください」をご覧ください。

別売り品

メモリーモジュール
64Mバイト増設メモリーモジュール
PCVA-MM64P
128Mバイト増設メモリーモジュール
PCVA-MM128P

仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますがご了承ください。

高調波電流規制について
この装置は、高調波ガイドライン適合品です。

リカバリ CDで本機を再セットアップする

ここでは付属のプロダクト リカバリ CD-ROM(以降、リカバリ CDと略します)を使って、本機のハードディスクの内容を再セットアップする方法を説明します。

リカバリ CDとは

リカバリ CDには、工場出荷時のハードディスク中のファイルが保存されています。誤ってハードディスクを初期化してしまったり、プリインストールされているソフトウェアを消してしまった場合には、リカバリ CDを使ってハードディスクの内容を工場出荷時の状態に戻すことができます。
なお、Microsoft Excel／Word／Outlookは、再セットアップ終了後にインストールし直してください。

リカバリ CDを使うと、次のことができます。

- ハードディスクを初期化したうえで、ファイルを復元する。
- ハードディスクを初期化せずに、ファイルを復元する。

ご注意

- このリカバリ CDは本機でのみ使用できます。他の製品では動作しません。
- このリカバリ CDで再セットアップできるのは、本機に標準で付属されているソフトウェアのみです。ご自分でインストールしたソフトウェアや作成したデータを復元することはできません。また、Windows 98だけを復元することもできません。
- ご自分で変更された設定は、再セットアップ後はすべて初期値に戻ります。 再セットアップ後に、もう1度設定し直してください。
- ハードディスクを初期化した場合、それ以前にハードディスク上にあったファイルはすべて消えてしまいます。また、ハードディスクを初期化しない場合でも、ハードディスク上のファイルが保存されることを保証するものではありません 。再セットアップを行う前に、大切なデータは必ずフロッピーディスクに保存するなどして、バックアップをとっておいてください。
- ハードディスクを初期化せずにファイルを復元した場合、システムが正常に動作しないことがあります。このような場合は、もう一度再セットアップを行って、ハードディスクを初期化してから、ファイルを復元してください。
- リカバリ CDで再セットアップしたあと、続いてWindows 98のセットアップを行う必要があります。その際、付属のMicrosoft Windows 98ファーストステップガイドの表紙に記載されている、プロダクト キーが必要になります。Microsoft Windows 98ファーストステップガイドは大切に保管してください。

再セットアップする

再セットアップする前に、フロッピーディスクがフロッピーディスクドライブに入っていないことを確認してください。
以下の手順に従って再セットアップします。

1 **付属の「プロダクト リカバリ** CD-ROM Vol. 1 of 2**」をCD-ROMドライブに入れる。**
入れかたについて詳しくは、「CD-ROMを使う」（46ページ）をご覧ください。

2 Windows 98**が起動している場合は終了し、本機の電源を切る。**
Windows 98の終了のしかた、電源の切りかたについて詳しくは、「電源を切る」（27ページ）をご覧ください。

3 **30秒ほど待ってから、電源スイッチを押して本機の電源を入れる。**
しばらくするとCD-ROMドライブから起動し、リカバリ CD上のプログラムが動作します。

4 **画面の指示に従って操作する。**

5 **「**CD-ROM**を取り出してから何かキーを入力してください。」というメッセージが表示されたら、リカバリ** CD**を取り出してから何かキーを押す。**
再セットアップが終了します。

ご注意

BIOSの設定状態によっては、リカバリ CDが起動しないことがあります。詳しくは、「BIOSをお買い上げ時の設定に戻す」（110ページ）をご覧ください。

キーボードショートカット

Windowsキーとの主な組み合わせと機能

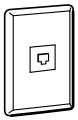
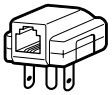
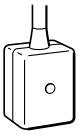
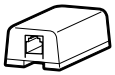
キー操作の表記
例：Windowsキーを押しながらFキーを押す。➡ ⊞ +F

組み合わせ	機能
⊞+F1	Windowsのヘルプを表示します。
⊞+Tab	タスクバーに表示されているボタンの選択を切り換えます。
⊞+E	エクスプローラー[1)]を表示します。
⊞+F	「ファイルやフォルダ」の検索ウィンドウを表示します。 ［スタート］メニューから［検索］を選んだときと同じです。
⊞+Ctrl+F	「ほかのコンピュータ」の検索ウィンドウを表示します。 ［スタート］メニューから［検索］を選んだときと同じです。
⊞+M	表示されているすべてのウィンドウを最小化します。
Shift+⊞+M	最小化されているすべてのウィンドウを元のサイズに戻します。
⊞+R	「ファイル名を指定して実行」ウィンドウを表示します。 ［スタート］メニューから「ファイル名を指定して実行…」を選んだときと同じです。

1) コンピューターの内容（ファイルやフォルダー）をツリー図で表示します。作成したファイルなどがコンピューターのどこに保存されているか、一目で確認できます。

電話回線のコンセントの種類

電話回線のコンセントは以下の4種類があります。設置場所のコンセントに合った方法で接続してください。

コンセントの型	接続に必要なソニーの別売りアクセサリー
モジュラー型 	不要（そのままつなぐことができます）
3ピンジャック型 	テレホンモジュラーアダプターTL-30 
直付け型ローゼット[1)] 	モジュラーローゼットTL-32CRなど 
埋め込み型[2)] 	テレホンモジュラージャックコンセントTL-31

[1)] 直付けタイプからモジュラージャックへの交換工事が必要です。NTT（局番なしの116番）へご依頼ください。

[2)] 電話工事担任者による取り付け工事が必要です。NTT（局番なしの116番）へご依頼ください。

ご注意

ビジネスホン、ホームテレホンなどの電話機やドアホン付きの電話機をお使いのときは、工事が必要となるものがあります。電話機を取り付けた業者にご相談ください。

故障かな？と思ったら

VAIOテクニカルレスポンスセンターにご相談になる前にもう一度チェックしてみてください。それでも具合が悪いときはお買い上げ店またはVAIOテクニカルレスポンスセンターにご相談ください。

ご注意

接続し直すときは、かならず「電源を切る」(27ページ)の手順にしたがい、いったん電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてください。

症状	原因／対策
電源が入らない。	→ キーボードが正しく接続されているか確認する。 → 本機の電源コードがしっかりコンセントに差し込まれているか確認する。 → すべてのケーブルがしっかり接続されているか確認する。
画面に何も表示されない。	→ 本機の電源コードがしっかりコンセントに差し込まれているか確認する。 → 本機とディスプレイが正しく接続されているか確認する。 → 本機の電源スイッチが入っているか確認する。 → ディスプレイの ☼（明るさ調節）ダイヤルで調整する。
画面が暗い。	→ ディスプレイの ☼（明るさ調節）ダイヤルで調整する。
画像が乱れる。	→ ラジオなど、近くに磁気を発生するものや磁気を帯びているものがある場合は、ディスプレイから離す。
CD-ROMの再生時、音がとぎれる。	→ CD-ROMをCD-ROMドライブに入れてください。 → CD-ROMが正しくCD-ROMドライブに入っているか確認する。CD-ROMは文字が書いてある面を上にして入れます。 → CD-ROMの再生面を柔らかい布できれいにふき、汚れをとる。 → 結露している。しばらく待って電源を入れ直してから、もう一度再生してみる。

次のページにつづく

症状	原因／対策
CD-ROMが取り出せない。	→ 48ページをご覧ください。
画面上のポインターが動かない。	→ 本機とキーボード、キーボードとマウスが正しく接続されているか確認する。 → マウスの内部が汚れている場合は、マウスを掃除する。（138ページ） **上記の操作をしても動かないとき** → ⊞キーを押して［スタート］メニューを表示させ、↑キーまたは↓キーを押して［Windowsの終了］を選んで、Enterキーを押す。そのあと↑キーまたは↓キーで［再起動する］を選び、Enterキーを押して再起動する。 → ⊞キーを使って電源を切れない場合は、CtrlキーとAltキーを押しながらDeleteキーを押して、本機を再起動する。 → CD-ROMを再生しているときなどに、ポインターが動かなくなってしまった場合は、CtrlキーとAltキーを押しながらDeleteキーを押し、再生中のCD-ROMを強制的に終わらせ、本機を再起動する。 ただし、この操作を行った場合、データなどが壊れることがあります。
電源を入れた後、「Non-System disk or disk error Replace and strike any key when ready」あるいは「Invalid system disk Replace the disk, and then press any key」というメッセージが出て、ハードディスクを立ち上げられない。	→ フロッピーディスクがフロッピーディスクドライブに入っているときは、イジェクトボタンを押し、取り出す。 その後、Enterキーを押す。
「マイコンピュータ」からフロッピーディスクを選んで初期化しようとしたができない。	→ フロッピーディスクが書き込み禁止になっている。タブを動かして書き込み可能にする。（52ページ） → フロッピーディスクがフロッピーディスクドライブにきちんと入っているか確認する。 →「アプリケーションが使用中です」というメッセージが出たときは、フロッピーディスクの内容がウィンドウで表示されている。ウィンドウ表示されているときは初期化できないので、フロッピーディスクのウィンドウを閉じる。

症状	原因／対策
「ディスクがいっぱいです」というメッセージが表示され、ファイルなどをフロッピーディスクに保存できない。	→ フロッピーディスクの容量の空きがない。容量の空きが充分にある、別のフロッピーディスクを使って、保存し直す。
「書き込み禁止」というメッセージが表示された。	→ フロッピーディスクが書き込み禁止になっている。タブを動かして書き込み可能にする。（52ページ）
スピーカーから音が出ない。	→ 本機とディスプレイがしっかり接続されているか確認する。 → ディスプレイの内蔵スピーカーの音量が最小になっている。（音量調節）ダイヤルで音量を上げる。 → アクティブスピーカーを接続している場合は、スピーカーのオーディオケーブルが本機にしっかり接続されているか確認する。 → アクティブスピーカーの音量が最小になっている。音量つまみで音量を上げる。詳しくは、スピーカーに付属の取扱説明書をご覧ください。 → Windowsの音量がミュートまたは最小になっている。画面上のタスクトレイのスピーカーアイコンをダブルクリックして、音量を上げる。
日本語が入力できない。	→「文字を入力する」（37ページ）をご覧ください。
入力した文字が表示されない。	→ 文字を入力したいソフトウェアのウィンドウが前面に出ていない。（画面上では薄い色のウィンドウになります。）ウィンドウのどこかをクリックするか、AltキーとTabキーを同時に押して目的のアプリケーションソフトウェアを前面に出し、使える状態にする。 → 本機とキーボードが正しく接続されているか確認する。
文字（A～Z）キーを押すと、数字（0～9）が入力される。	→ キーボードがNum Lock（ナムロック）の状態（数字を入力するモード）になっている。 Num Lockキーを押し、Num Lockの状態を解除してから文字キーを押してください。
URLで使われる半角の「~」が入力できない。	→ MS-IME98ツールバーで「直接入力」または「半角英数」を選び、Shiftキーを押しながら「 ^ 」を押す。 MS-IME98ツールバーについて詳しくは、「文字を入力する」（37ページ）をご覧ください。

次のページにつづく

症状	原因／対策
全角の「〜」が 入力できない。	→ MS-IME98ツールバーで「全角ひらがな」を選び、ひらがなで「から」と入力し、「〜」が選ばれるまでスペースキーを押す。 MS-IME98ツールバーについて詳しくは、「文字を入力する」（37ページ）をご覧ください。
マウスがマウスパッドの 端まで来てしまい、 これ以上動かせない。	→ マウスを持ち上げてマウスパッドの中央に戻す。
ハードディスクから 起動できない。	→ フロッピーディスクドライブに、フロッピーディスクが入っていないか確認する。 → CD-ROMドライブにリカバリ CDが入っていないか確認する。
誤ってハードディスクを 初期化してしまった。	→ リカバリ CDを使って、本機を再セットアップする必要があります。「リカバリ CDで本機を再セットアップする」（145ページ）をご覧ください。
ハードディスクの内容を 誤って消してしまった。	→ リカバリ CDを使って、本機を再セットアップする必要があります。「リカバリ CDで本機を再セットアップする」（145ページ）をご覧ください。
「CMOS battery failed」 というメッセージが表示される。	→ 本機内のバッテリーが消耗しているため、バッテリーを交換する必要があります。バッテリーの交換については、VAIOテクニカルレスポンスセンター修理窓口へお問い合わせください。
「CMOS checksum Error– Defaults loaded」 というメッセージが表示される。	→ BIOSの内容が壊れている。 BIOSをお買い上げ時の設定に戻す。（110ページ） → BIOSをお買い上げ時の設定に戻しても再度メッセージが表示されるときは、本機内のバッテリーが消耗しているため、バッテリーを交換する必要があります。バッテリーの交換については、VAIOテクニカルレスポンスセンター修理窓口へお問い合わせください。
画面上のすべてのものが 動かなくなってしまった。	→ CtrlキーとAltキー、Deleteキーを同時に押して、本機を再起動する。 → 上記の操作を行っても本機を再起動できない場合は、電源をいったん切ってから入れ直す。

症状	原因／対策
インターネットに接続できない。	→ テレホンコードがしっかり接続されているか確認する。 → ディスプレイ画面上の［インターネットに接続］アイコンをダブルクリックして設定を確認する。 → TELEPHONEジャックにつないだ電話機の受話器を取り、発信音がするかどうか確認する。 → 本機に接続できる回線は、一般アナログ電話回線です。 ダイヤル方法を確認してください。（111ページ） → 接続後に、使用する電話、ファックス、通信などのソフトウェアで使用状況に合わせて設定しなければならない場合があります。詳しくは各ソフトウェアのヘルプをご覧ください。 上記の項目を確認しても接続できないときは、接続しようとしている接続会社にお問い合わせください。
内蔵モデムからダイヤルできない。	→ お使いの電話回線がトーン式ダイヤルかパルス式ダイヤルかを確認し、モデムのダイヤル方法を確認する。（111ページ） → 電話回線のコンセントに直接テレホンコードを接続しているか確認する。テレホンコードが長すぎないか、電話機の子機に接続していないか確認する。（113ページ） → テレホンコードを「カチッ」と音がするまでモジュラージャックに差し込む。 → 3分以内に3回以上同じところにダイヤルした場合はリダイヤル規制がかかり、連続してダイヤルすることができません。3分以上時間をおいてからリダイヤルしてください。 →「内蔵モデムの設定を確認する」（112ページ）をご覧ください。
モデムはダイヤルしているが、接続できない。	「ダイヤルの設定を確認する」（113ページ）をご覧ください。

索引

五十音順

ア

アクティブスピーカー ..... 22、86、87
アクティブデスクトップ ..... 122、130
インターネット
　インターネットサービスプロバイダー ... 58
　インターネットとは 57
　インターネットに接続する 60
　インターネットを始める 58
　HTML文書を作成する 62
インフォメーションランプ 23
　インフォメーションランプの設定 ..... 68、73
　消灯のしかた 74
音楽CD ..... 49、83
オンラインマニュアル 17

カ

外部ディスプレイ ..... 21、127
拡張ボード
　拡張スロット 90
　種類 90
　増設する 90
　取り付ける 93
　取りはずす 95
　プラグアンドプレイ 90
　リソース 91
　PCI拡張ボード 90
キーボード
　キーボードショートカット 147
　キーボードを掃除する 139
　キーボードを使う 32
クリック
　クリック 30
　ダブルクリック 30
　右クリック 31
結露 134
コントロールパネル 116
コンピューターウイルス 136

サ

さぱり 84
システムスタンバイモード ..... 28、32
省電力機能
　ディスプレイ 119
初期化 52
静止画
　電子メールに添付する 79
　取り込む 76
接続
　デジタルスチルカメラ 87
　プリンター 88
　CDプレーヤー 87
　DV機器 ..... 86、87
　i.LINK対応機器 ..... 86、87
　USB機器 89
操作環境の変更
　アクティブデスクトップの変更 130
　音質の設定変更 131
　コントロールパネル 116
　ディスプレイの設定変更 117
ソフトウェア
　さぱり 84
　ニフティサーブ 61
　不正コピー禁止について 137
　ぷらら 61
　ワードパッド 37
　Adobe PhotoDeluxe 14
　AOL 61
　Digital Media Park ..... 15、83
　DVgate still 78
　Internet Explorer 59
　Navin' You 84
　Netscape Communicator 59
　ODN 61
　PictureGear ..... 14、65、77、80、84
　PictureGear SlideShow Player ..... 65、77
　PPK Setup ..... 14、63、65、75
　Smart Capture .... 62、78、79、81、82
　Smart Publisher ..... 14、62
　Smart Script ..... 14、64
　Smart Write ..... 14、62
　So-net 61

タ

ターミナルアダプターカード 96
ダブルクリック 30
ディスプレイ
　お手入れ 138
　省電力機能 119
　ディスプレイの設定変更 117
ディスプレイの設定
　効果 121
　スクリーンセーバー 119
　設定 123
　デザイン 120
　背景 118
　Web 122
デジタルスチルカメラ 87
データ
　書き込み禁止にする ..... 52、56
　バックアップをとる ..... 2、135、137
電源
　再起動する 28
　電源を入れる 26
　電源を切る 27
電子メール ..... 67、72、79、82
電話回線
　コンセントの種類 148
動画
　電子メールに添付する 82
　取り込む 81
ドライバー ..... 88、92
ドラッグする 31

ナ

内蔵タイマー設定
　自動的に電子メールを確認する 72
　ソフトウェアを起動する 70
ニフティサーブ 61
日本語入力 37
内蔵モデム
　設定を確認する 112
　ダイヤル方法を設定する 111
　ダイヤルの設定を確認する 113
ネットワークカード 96

ハ

ハードディスク
　取り扱いについて 135
　バックアップをとる ..... 2、135、137
バックアップをとる ..... 2、135、137
ビデオCD ..... 49、83
プラグアンドプレイ 90
ぷらら 61
プリンター 88
プログラマブルパワーキー 63
フロッピーディスク
　入れる 50
　使用できるフロッピーディスク 53
　初期化する 52
　データを書き込み禁止にする 52
　取り扱いについて 136
　取り出す 51
フロッピーディスクドライブ 50
プロバイダー ..... 58、61
ヘルプ 18
ポインター 29
ポイントする 30

マ

マウス
　マウスを掃除する 138
　マウスを使う 29
マイク ..... 20、86
右クリック 31
メモリーカード 96
メモリースティック
　入れる 54
　データを書き込み禁止にする 56
　取り出す 55
メモリーモジュール
　増設する 99
　取り付ける 99
　取りはずす 103
文字入力 37
モデム
　設定を確認する 112
　ダイヤル方法を設定する 111
　ダイヤルの設定を確認する 113

次のページにつづく

ラ

リカバリ CD 145
リソース 91

ワ

ワードパッド 37

アルファベット順

A

Adobe PhotoDeluxe 14
AOL 61
AV機器
　つなぐ 86
　CDプレーヤー 87
　DV機器 ..... 86、87
　i.LINK対応機器 ..... 78、81、86、87

B

BIOSセットアップメニュー
　お買い上げ時の設定に戻す 110
　キー操作 109
　起動する 106
　終了する 109
　メニュー構成 107

C

CDプレーヤー 87
CD-Extra 49
CD-ROM
　入れる 46
　お手入れ 138
　使用できるディスク 49
　取り扱いについて 135
　取り出す 48
CD-ROMドライブ 46

D

Digital Media Park ..... 15、83
DV機器 ..... 86、87
DVgate still 78

I

Internet Explorer 59
i.LINK対応機器
　静止画を取り込む 78
　つなぐ ..... 86、87
　動画を取り込む 81

N

Navin' You 84
Netscape Communicator 59

O

ODN 61

P

PCカード
　使う 96
　取り出す 98
　取り付ける 97
　PCカードとは 96
PCI拡張ボード 90
PictureGear ..... 14、65、77、80、84
PictureGear SlideShow Player ..... 65、77
PPK
　ワンタッチで起動するソフトウェアを変更する 66
　ワンタッチでソフトウェアを起動する ... 65
　ワンタッチで電子メールを確認する 67
　PPKとは 63
PPK Setup ..... 14、63、65、75

S

SCSIカード 96
Smart Capture ..... 62、78、79、81、82
Smart Publisher ..... 14、62
Smart Script ..... 14、64
Smart Write ..... 14、62
So-net 61

T

TAカード 96

U

USB機器 89

W

Windows 98 ..... 26、116

この説明書は再生紙を使用しています。

当社は国際エネルギースタープログラムの参加事業者として、本製品が国際エネルギースタープログラムの対象商品に関する基準を満たしていると判断します。

国際エネルギースタープログラムは、コンピュータをはじめとしたオフィス機器の省エネルギー化推進のための国際的なプログラムです。このプログラムは、エネルギー消費を効率的に抑えるための機能を備えた製品の開発、普及の促進を目的としたもので、事業者の自主判断により参加することができる任意制度となっております。対象となる製品はコンピュータ、ディスプレイ、プリンタ、ファクシミリおよび複写機等のオフィス機器で、それぞれの基準ならびにマーク(ロゴ)は参加各国の間で統一されています。

- VAIOはソニー株式会社の商標です。
- Memory Stick（メモリースティック）はソニー株式会社の商標です。
- i.LINKはIEEE1394-1995仕様及びその拡張仕様、i.はi.LINKに準拠した商品につけられるロゴです。“i.LINK”とi.は商標です。
- Microsoft、MS、MS-DOSおよびWindowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
- IBMおよびPC/AT、PS/2は、米国International Business Machines Corporationの商標および登録商標です。
- So-net、ソネットおよびSo-netロゴは、ソニー株式会社の登録商標です。
- PostPet、ポストペットおよびPostPetロゴはソニーコミュニケーションネットワーク株式会社の商標です。
- 1997 AMERICA ONLINE, INC. All Rights Reserved.
- 「ぷらら」はジーアールホームネット株式会社の商標です。
- ニフティサーブはニフティサーブ株式会社の登録商標です。
- ODNは日本テレコム株式会社の商標です。
- その他、本書に記載されているシステム名、製品名、サービス名は、一般に各開発メーカーの登録商標あるいは商標です。なお、本文中では™、®マークは明記していません。

本機をお使いになる前に、必ずお買い上げのパソコンに添付のソフトウェア使用許諾契約書をお読みください。

ソニー株式会社　〒141-0001　東京都品川区北品川6-7-35

使い方のご相談、技術的なお問い合わせは
VAIOテクニカルレスポンスセンターへ
● 0466-30-3000
カスタマー登録、一般的なお問い合わせは
VAIOカスタマー専用デスクへ
● 03-3584-6651

Sony online　http://www.world.sony.com/

「Sony online」は、インターネット上のソニーのエレクトロニクスとエンターテインメントのホームページです。

お電話の前に、必ず付属の「VAIOサービス・サポートのご案内」をご覧ください。

Printed in Japan